

ローズタウン遺跡群
堤 沼 下 遺 跡

ローズタウン住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 9

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野をひいてそびえる赤城山を北方に望み、利根川が豊かな水を湛え貫流する「水と緑と時のまち」の県都であります。

今、28万余りの市民を擁し、住み良い街づくりを目指し市街地の再開発事業、区画整理事業、工業団地、住宅団地等の造成事業を進めています。

市域には、今から3万年ほど前の旧石器時代から人々が暮らし、その足跡が悠久の時の流れを刻んでいます。

当遺跡の東側で1985年に調査された萱野遺跡では、縄文時代の住居と土器、古墳時代の住居と遺物、平安時代の集落が検出されています。また、南西0.9km程にある正円寺古墳は、6世紀前半の前方後円墳で、本県の初期横穴式石室と竪穴式石槨を持つことで知られています。

堤沼下遺跡の周辺には、上記の遺跡のほかにもたくさんの遺跡があり、古代から連綿と人々の生活が営まれてきたことがわかります。

今回の発掘調査は、平成11年度住宅団地造成事業に先立って行われたものであります。調査では奈良・平安時代の住居跡3軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物跡1棟、B軽石で埋まった水田跡、井戸跡12基、土坑283基、柱穴96基、風倒木痕54箇所、溝23条などを検出しました。調査地の西側の溝から縄文土器片を始めとして中世の堀、瓦塔、近現代の遺物を多量に検出しました。

最後に、この調査報告書を刊行するに当たり、関係各機関並びに本遺跡周辺地域の方々のご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。

平成12年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利

例　　言

1. 本報告書は、平成11年度ローズタウン住宅団地造成事業に伴う堤沼下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 堤沼下遺跡の所在地は、群馬県前橋市堤町8番地外である。
3. 発掘調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 渡辺勝利）の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
担当者 井野誠一・眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
金子正人（スナガ環境測設株式会社）
4. 調査期間 平成12年3月1日～平成12年3月22日
5. 調査面積 約6,013m²
6. 出土遺物は前橋市教育委員会が保管している。
7. 測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…金子正人、調査補助…荻野博巳、測量・実測…板垣 宏・樺田友寿・小見修一・岡本敬一、写真撮影…金子正人・荻野博巳・板垣 宏、安全管理…上村一視・重機オペレーター…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
8. 本書は、調査団の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆は本文IIと遺物観察を神津芳夫、その他を金子正人、編集・構成…須永眞弘・荻野博巳、実測図の整理・遺物実測…板垣 宏・小見修一、遺物注記・接合・石膏入れを…神津芳夫・阿久沢民江・小暮幸子・渡辺國治・柴崎信江、文章の清書…山口和宏、金子恵子、内業事務…須木 豊が担当した。
9. 発掘調査に参加した方々（敬称略）
青木次男 新井栄子 岩井十四夫 遠藤寿子 大野京子 神山祐吉 木部寿栄 中島さみ
中村新太郎 信沢かおり 堀井エミ子 堀井浩吉 松倉菊江 松倉義信 南 君枝 諸田文雄
石川サワ子 内山恵美子 中川住一 桑島英彰 都丸藤子 内山 康

凡　　例

1. 堤沼下遺跡の略称は11D-14である。
2. 遺構名・略称 土師器住居=H 積穴状遺構=T 握立柱建物跡=B 井戸跡=I
土坑=D ピット=P 溝=W 集石=S 地割れ=X 風倒木痕=O
3. 実測の縮尺 遺構平面 1/1,500 1/1,000 1/100 FP面平面図 1/400 水田跡 1/80 溝跡 1/40
住居跡・井戸跡・土坑・風倒木痕 1/60 カマド 1/30を使用した。
4. 掘入図は国土地理院発行の1/50,000「前橋」と前橋現形図1/2,500を使用した。
5. 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修財團法人日本色彩研究所色票監修）による。
6. 断面図の地山部分… 須恵器の断面… を使用した。
7. 各遺構の面積は平面図をもとに座標面積計算より算出した。

目 次

序	i	6. 土 坑.....	-16
例 言	ii	7. 柱 穴.....	-16
凡 例	ii	8. 風倒木痕.....	-16
I 調査に至る経緯	1	9. 溝.....	-19
II 遺跡の位置と環境	1	10. 地割れ.....	-19
1. 遺跡の位置	1	11. FP 面の溝・土坑について	-38
2. 歴史的環境	1	12. グリッド出土の遺物.....	-38
III 調査の経過	3	(1) 旧石器時代.....	-38
1. 調査の方針	3	(2) 縄文時代 土器・石器.....	-42
2. 調査の経過	3	(3) 弥生時代.....	-42
IV 層 序	5	(4) 古墳時代.....	-42
V 遺構と遺物	5	(5) 奈良・平安時代.....	-42
1. 住居跡	5	(6) 中世 (内耳塙・瓦塔他)	-42
2. 壁穴状遺構	6	(7) 挖鉢について.....	-42
3. 掘立柱建物跡	13	(8) 近・現代 (陶磁器)	-43
4. B 總石下水田跡	15	(9) その他の遺物.....	-43
5. 井戸跡	15	VI ま と め.....	-45

挿図目次

第1図 周辺遺跡図.....	2	第21図 井戸跡 平面・断面図	-26
第2図 グリッド・調査区設定図	3	第22図 井戸跡 平面・断面図	-27
第3図 遺跡位置図.....	4	第23図 FP 面の溝と土坑 平面・断面図	-39
第4図 深掘土壟断面図.....	5	第24図 土坑 平面・断面図	-40
第5図 1号住居跡 カマド・平面・断面図.....	7	第25図 土坑 平面・断面図	-41
第6図 2号住居跡 平面・断面図・掘り方平面図	8	第26図 風倒木痕 平面・断面図	-44
第7図 2号住居跡 カマド・平面・断面図.....	9	第27図 溝9・10 平面・断面図	-46
第8図 3号住居跡 平面・断面図	9	第28図 溝11・12・13 断面図	-47
第9図 3号住居跡 平面・断面図・遺物接合図	10	第29図 溝19 断面図	-48
第10図 3号住居跡掘り方平面・エレベーション図	11	第30図 溝18・19 平面図	-49
第11図 壁穴状遺構 掘り方平面図	11	第31図 地割れ X・1・2・3 平面・断面図	-50
第12図 壁穴状遺構 平面・断面図	12	遺物実測図 1 №1～20.....	-51
第13図 掘立柱建物跡 平面・断面エレベーション図	13	2 №21～46.....	-52
第14図 B 總石下水田跡 平面・断面図	17	3 №47～68.....	-53
第15図 1・2・3・4調査区平面図	20	4 №69～89.....	-54
第16図 4・5・6・15・16調査区平面図	21	5 №90～99.....	-55
第17図 7・8・17・18・19調査区平面図	22	6 №100～119.....	-56
第18図 9・10・19・20・21調査区平面図	23	拓影図 1 縄文時代土器№120～173.....	-57
第19図 11・12・22・23・24調査区平面図	24	拓影図 2 縄文土器と他の遺物№174～210.....	-58
第20図 13・24・25・26調査区平面図	25		

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表.....	2	第6表 風倒木痕計測表.....	-35～36
第2表 住居跡遺物観察表.....	14	第7表 遺構外の遺物観察表.....	-36～37
第3表 井戸跡計測表.....	16	第8表 旧石器縦認調査グリッド別遺物表.....	-38
第4表 土坑計測表.....	27～33	第9表 焙炉計測表.....	-43
第5表 柱穴計測表.....	33～35		

I 調査に至る経緯

ローズタウン住宅団地造成事業に先立ち工業課より堤町造成分の試掘調査の依頼を受け、試掘可能箇所で実施したところ事業予定地の東側で旧河川と湿地、西側からはローム面を掘り込んだ住居跡や土坑、溝などが確認された。その後、道水路計画等が確定し、協議の結果、遺構が確認された西側の道水路部分について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

堤沼下遺跡は、前橋市の市街地から東方へ6.3km程離れた前橋市堤町8番地に所在する。主要地方道前橋赤堀線の北側に位置し、赤城山南麓の末端部で開析谷と台地の入り組んだ地形にある。東側は県営萱野住宅団地の開ける台地が南北に続き、西側は寺沢川左岸の市立桂置東小学校が位置する台地が南北に走っている。本遺跡はこの東西にある台地に挟まれた谷間の水田地帯にある。北側上流部20mに水源の堤沼があり南側は広く開けた水田が続いている。遺跡位置の標高は105.0m～110.0m前後で緩やかに南方向に傾斜している。

2. 歴史的環境

本遺跡の立地する赤城山南麓地帯は丘陵性の台地と開析谷が入り組んだ複雑な地形を呈し、湧水や小河川の水利に恵まれた自然環境にある。このため各時代を通じて数多くの遺跡が残されている。本遺跡周辺でも画場整備事業、住宅及び工業団地造成など各種開発に伴う発掘調査が行われ、この地域における各時代の歴史解明のための資料が得られている。

これらの資料をもとに本遺跡周辺の歴史的環境を概観すると（第1図周辺遺跡一覧表参照）のようになる。
赤城山南面地域の台地部は畠や集落が濃密に分布する居住区域で、低地部は水田耕作が行われていた。

旧石器時代の遺構は、鳥取福蔵寺II遺跡で検出された。

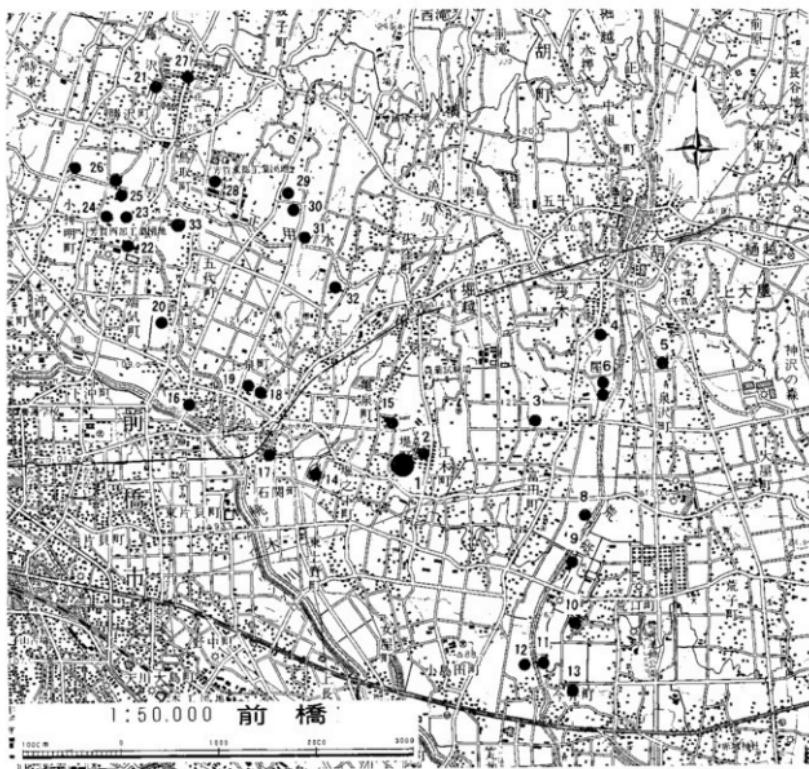
縄文時代は、台地部に集落が検出されているがその規模はまちまちである。〈芳賀北部団地遺跡、芳賀東部団地遺跡、芳賀西部団地遺跡、芳賀北曲輪遺跡、泉沢谷津遺跡、稲荷前遺跡、荒砥宮田遺跡、荒砥北原遺跡、上泉太郎三前遺跡、西田遺跡、九料遺跡〉

弥生時代の遺構は、荒砥川流域の一部を除き検出されていないが、小規模な低湿地周辺で今後発見される可能性がある。

古墳時代の集落は、縄文時代の集落範囲を拡大して台地の上に展開される。〈萱野遺跡、荒砥宮田遺跡、九料遺跡、芳賀東部団地遺跡、五代檜峯II遺跡、檜峯遺跡〉

古墳は、後期古墳を中心に集落周辺部につくられるが、6世紀前半の正円寺古墳を皮切りに荒砥川流域を中心には群集墳が形成され、その内いくつかは調査されている。〈御殿山古墳、大胡5・6号古墳、おとうか山古墳、少将塚古墳、大日塚古墳、芳賀北曲輪遺跡、西田遺跡〉

奈良・平安時代は、可耕地の拡大に伴って集落範囲が拡大し、周辺部にひろがる。中には奈良三彩を出土した檜峯遺跡などもある。



第1図 周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	振沼下遺跡	奈良・平安住居 土坑 漆 風鶴木	18	東大船三前遺跡	縄文前期住居跡 5 平安住居跡 2
2	置野遺跡	古墳・奈良・平安住居 方形溝溝蓋	19	桑原遺跡	FA 居宅敷の水路・住居跡
3	御殿山古墳	円墳 朝和寺調査 編 刀 2 曹 1 金環 1	20	大日寺古墳	円墳 径30m
4	大胡 5・6号墳	円墳 積式石室 3	21	芳賀北曲輪遺跡	縄文前～後期 敷石住居 古墳
5	泉沢谷跡遺跡	縄文・古墳住居 古墳	22	芳賀部連地区遺跡	縄文前住居 7 配石 3 ピット 6 霸生他
6	船荷前遺跡	興文院穴状 1 陥穴 1 円墳 2 近世洞	23	西田遺跡	縄文前住居 3 古墳 住居 4 岩立貝 1
7	富田の宝塔	室町初期 中世を代表する石造物	24	倉本遺跡	弥生中～後期 積式住居 2
8	おとうか山古墳	円墳径29m 昭和54年調査	25	九料遺跡	縄文後敷石住居 1 古墳後住居12
9	荒砥宮山遺跡	縄文・古墳・奈良・平安住居跡	26	小樽明遺跡群(2ヶ所)	奈良・平安時代住居跡 3
10	荒口前原遺跡	弥生・平安住居跡	27	芳賀北部平坦地遺跡	縄文前・中住居 配石 奈・平住居他
11	荒砥北原遺跡	興文院住居跡 奈良・平安集落	28	芳賀東部平坦地遺跡	縄前・後住居 配石 古墳前中後他
12	少将塚古墳	前方後円墳 長さ50m	29	五代峯堂II遺跡	古墳時代住居跡 2
13	荒砥北三木堂遺跡	旧石器 舞文散布 彌生～古墳住居跡	30	憎峯遺跡	古後住居11 奈・平住居59 唐三彩
14	正寺寺古墳	前方後円墳 全長70m	31	檜臺古墳	円墳 現存 径17.5m
15	沼西 1・II遺跡	I 平安住居跡 II 奈良・平安住居跡	32	新田櫻古墳	円墳 直徑30m 7世紀
16	上泉城址	16世紀後半 大胡城の支城	33	島取御藏寺II遺跡	旧石器 縄文住居10 古墳住居9
17	石門女湖遺跡	中世の大規模用水路			奈良・平安住居61 鋼冶工房 1 振立10

III 調査の経過

1. 調査の方針

調査対象は東西300m南北700mの住宅団地造成地内の道路建設予定地である。調査対象地全体を網羅するため大グリッド(100m×100m)を組みA～J区までに大別した。

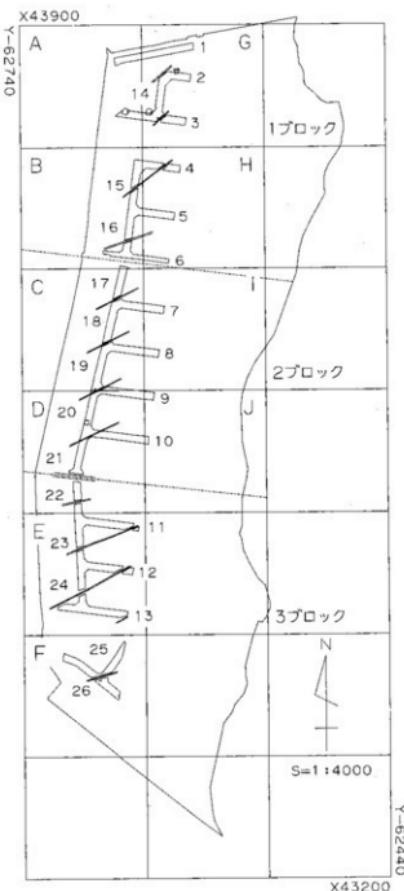
公共座標に基づき調査区北西に基準点AA-0(X43,900.000、Y-62,740.000)を測設し、各大グリッド内は更に4mごとに経線には算用数字で1～24を付け、縦線はアルファベットA～Yで呼称することとし北西交点をグリッド名とした。

造成予定地内に東西方向の現道が2本あり、これを境界とする1・2・3ブロックに区分した。

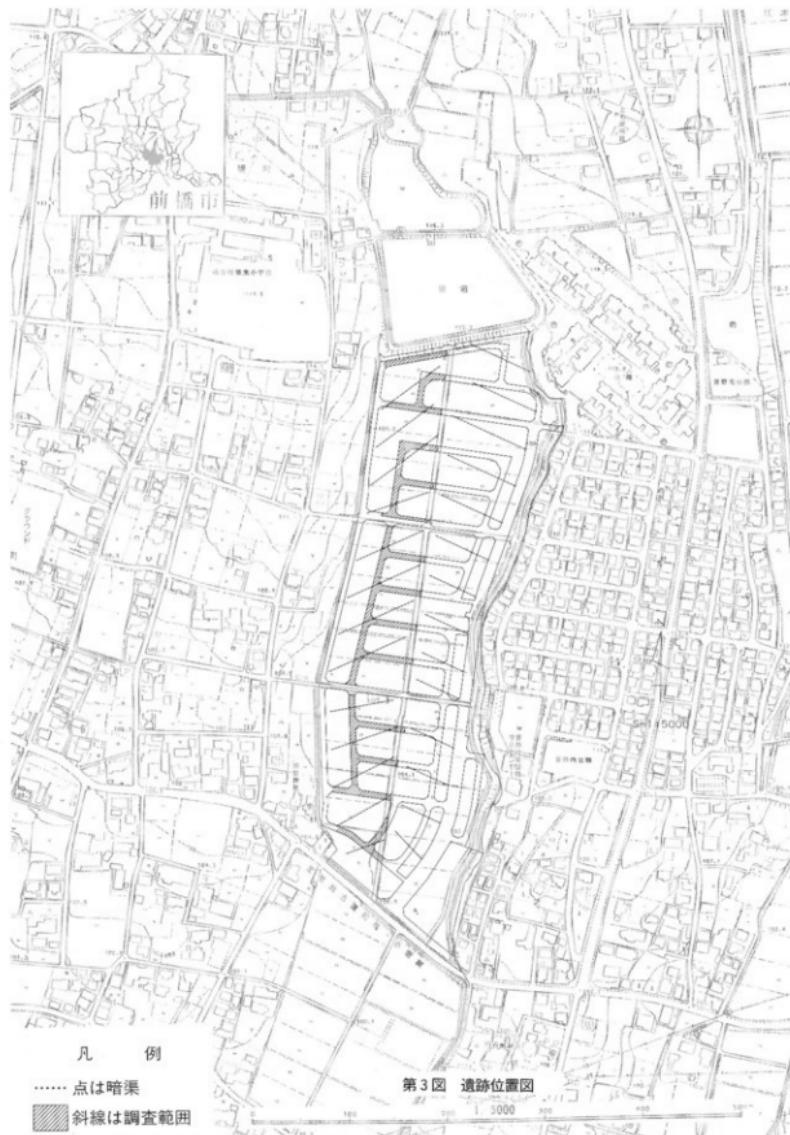
更に計画道路の東西の道を1～13、南北の道を14～24調査区と仮称することとした。遺物の一括上げはこの1～26調査区ごとに行った。南端部の調査地には当初発掘調査に入れなかったので、調査の後半になって25・26調査区と呼ぶことにした。

2. 調査の経過

平成12年3月1日より資材・重機類の搬入、休憩所、仮設トイレ等の設置を行うと同時に市調査団の指導のもと重機による表土掘削を並行して遺構確認面の精査を開始した。前橋工業団地造成組合の造成工事は3ブロックから工事予定が組まれていたが3ブロックは調査開始時点で植木が沢山残っており、2ブロックから発掘調査を開始した。2ブロックではFP軽石の堆積面での溝と数多くの土坑が確認された。この面での調査終了後ローラム面まで下げて住居・溝・土坑・風倒木痕等が確認された。3ブロックは風倒木痕・土坑・溝・井戸等が検出された。1ブロックでは住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・土坑・溝・井戸跡等が確認された。各遺構の測量・写真撮影を実施し、3月22日作業を終了した。

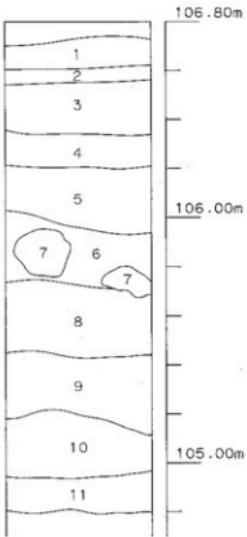


第2図 グリッド・調査区設定図



IV 層 序

1. 耕作土
2. 黄橙色土層
3. 黒褐色土層 FP 軽石とローム粒を含む
4. にぶい褐色土層 普通 ソフトローム層 7.5YR5/3
土器と石器の割片
5. 明黄褐色土層 普通 10YR6/6
6. 明褐色土層 軟 7.5YR5/6
7. 暗褐色土層 緩まりあり 7.5YR3/4
8. 明黄褐色土層 やや軟 10YR7/6 5層より白い
9. 褐色土層 粘性あり 10YR4/4
10. 暗褐色土層 粘性あり 10YR3/3
11. 黄褐色土層 粘性あり 10YR5/6



第4図 深掘土層断面図

V 遺構と遺物

1. 住居跡

1号住居跡

位 置 CT・CU-15グリッド。面積5.99m²。方位N-2°-E。

形 状 プランの西側約半分が調査区外であるが隅丸方形を呈すると思われる。調査範囲で長辺3.30m×短辺2.18m、壁高は18~28cm。北側セクション図で36cmを計測。

床 面 ほぼ平坦であり、カマド前で堅緻面が認められた。柱穴・周溝とも確認出来なかった。

カマド 東壁ほぼ中央に設置。全長74cm、焚き口部幅32cmを測る。

貯蔵穴 南東隅に位置し掘り込みは浅い。

遺 物 遺物総数は土師器片14点、石2点である。遺物が少ないので断定できないが、カマドや住居跡形態からH-2・3号住居跡と同時期の遺構と考えられる。

2号住居跡

位 置 GR・GS-0~2グリッド。面積22.32m²。方位N-15°-E。

形 状 住居跡の北側半分は調査区外に位置する。表土からは5~10cmしかなく、開発の途中で遺構を破壊する可能性が高いため遺構全体を調査の対象とした。長軸5.25m、短軸4.46m、昭和40年代の土地改良によりほとんど削られており、壁高は4~12cmを計測した。掘り方では18~36cmが計測された。

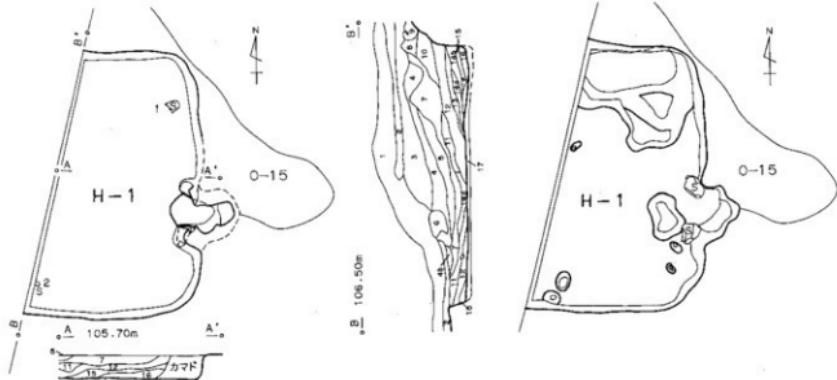
- 床面** ほぼ平坦でカマド前で堅微面が確認された。柱穴は P1～P3 の 3 穴、周溝は北東隅から西壁を巡って貯蔵穴まで確認された。幅 10～18cm、深さ 2～11cm、断面「U」字状。
- カマド** 東壁中央部やや南寄りに設置。全長 135cm、焚き口部幅 35cm を測る。カマドの北側は 5 号井戸、南側は 8 号溝と重複する。
- 貯蔵穴** 南東隅に位置し掘り込みは浅い。
- 遺物** 遺物総数は土師器片 233 点、須恵器片 19 点が検出された。この内長甕 4 点、土師器坏 4 点を掲載した。2 号住居跡のカマドを壊して掘られた井戸に、カマドの支脚及び補強材として使用された長甕が井戸の中から検出された土器と接合できた。(7世紀終末)

3号住居跡

- 位置** AR-20・21、AS-20・21・22 グリッド。面積 20.45m² (推定面積 21.88m²)。
方位 N-17°-E。
- 形状** 圓丸長方形。壁窓は表土から 11～18.5cm。住居跡の北側 1/3 は調査区外であったが、住宅団地造成工事により遺構の消滅の可能性が考えられるので、出来るだけ調査する事とした。しかし北西隅は今回の開発に先駆けて敷設された暗渠があり調査が出来なかった。
- 床面** ほぼ平坦で、カマド前は灰層が 3 層あり、その下から堅微面が確認された。柱穴は P1～P9 が確認された。P8 と P9 は入口の遺構の可能性が考えられ、P2・3 と P4・5、P6・7 の関係は建て替えの可能性が考えられる。周溝は南壁東側 1/3 を除き全周する。
- カマド** 東壁中央部やや南寄りに設置。全長 145cm、焚き口部幅 52cm を測る。褐灰色粘土(水性ローム)による頑丈なカマド構築が確認された。
- 貯蔵穴** 南東コーナーに構築され、粘土・燒土・炭化物と土器が落込み、底は南がやや高く 2 段になっている。
- 遺物** 遺物総数は土師器片 1,801 点、須恵器片は 44 点と多量に出土したが接合可能なものが少なく、掲載した遺物は土師器甕 12 点、土師器坏 10 点、須恵器坏 4 点、須恵器蓋 2 点である。(7世紀終末)

2. 堪穴状遺構

- 位置** GJ・GK 6・7 グリッド。面積 12.99m²。方位 N-6°-W。
- 形状** ブランの北側 3/4 は調査区外、表土から確認面までが 10～15cm、開発により遺構の消滅する可能性が高いので全体の調査を実施した。この遺構の北側には試掘トレンチが確認された。長軸 409cm、短軸 327cm、壁高 10～18cm が計測された。
- 床面** 南東隅は比較的平坦に整えられていたが、西側は緩やかな掘り込みであった。カマドも炉跡も見られない。壁下に小ピットがあり、上屋を持つものと想定される。遺物は土師器片が 9 点検出された。

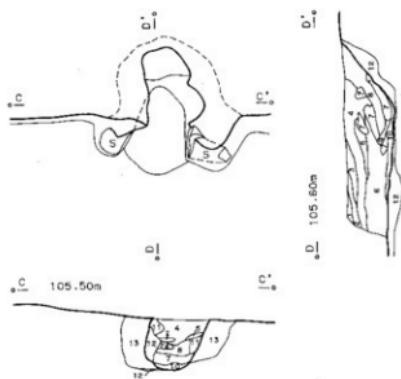


H-1 土層注記

- 1 耕作土
- 2 現水田敷 黄褐色土層
- 3 FP軽石とローム粒を含む黒褐色土層
- 4 3層よりローム粒が多く軽石が少ない黒褐色土層
- 5 様なローム粒と軽石を含む黄褐色土層
- 6 ロームブロックを含む黄褐色土層
- 7 5層ローム粒の多い黄褐色土層
- 8 多量の軽石とローム粒を僅か含む黒褐色土層 良く縮まっている

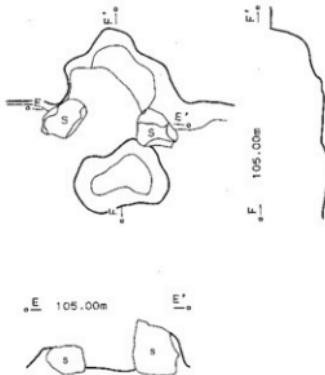
9 軽石を含まない黒色土層(クロボク)

- 10 軽石とローム粒を含む黒褐色土層 7層より暗く9層より明るい
- 11 ロームブロックを多量に含む黄褐色土層
- 12 ローム粒を含む黒褐色土層 烧土粒を僅か含む
- 13 淡褐色土層 ロームに僅か軽石を含む黒褐色土の混入が見られる
- 14a ローム粒を多く含む淡褐色土層
- 14b 14aよりロームの混入の少ない黒褐色土層
- 15 13層に類似 13層よりロームの混入の少ない暗い黒褐色土層
- 16 ロームブロックと黒褐色土の混土層 二次堆積
- 17 ロームと軽石を含む黒色土



H-1 カマド 土層注記

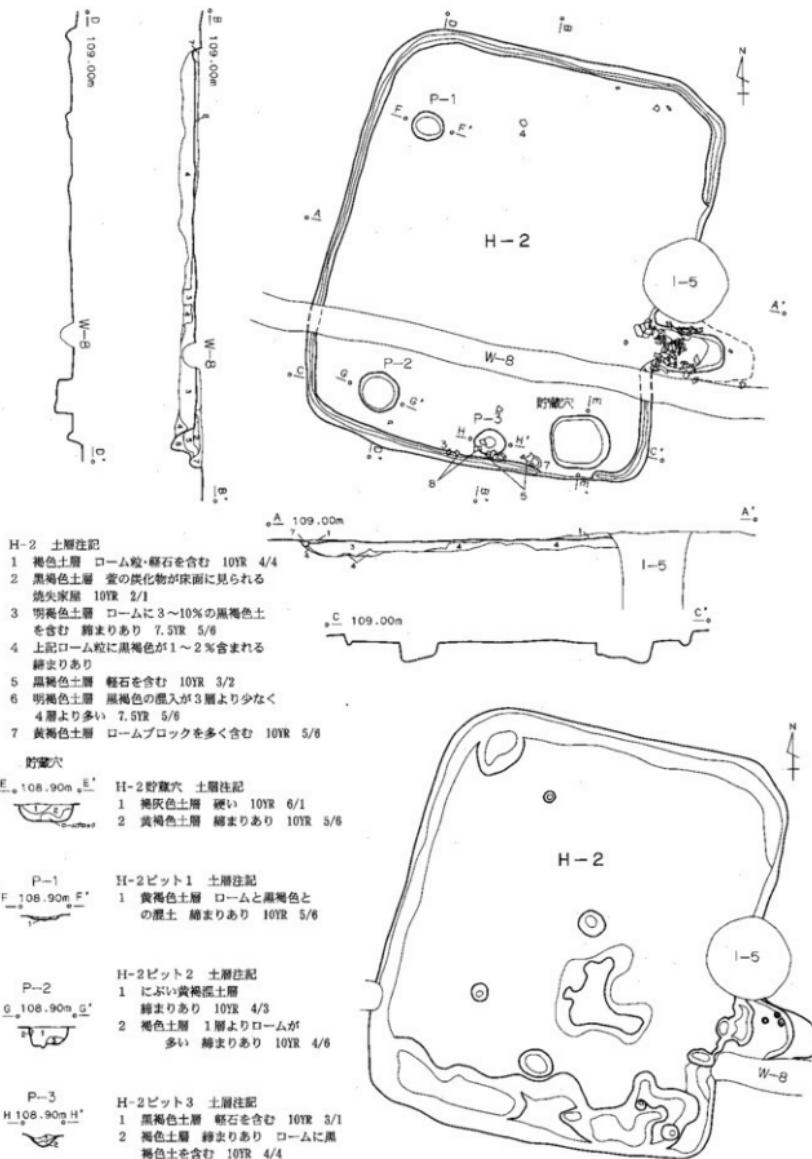
- 1 ロームを多く含む黄褐色土層
- 2 灰色粘土と僅か焼土を含む灰褐色土層
- 3 ローム粒と焼土の混入する稍い黄褐色土層
- 4 3層よりやや多いローム粒と僅かな焼土を含む黄褐色土層
- 5 4層よりさらに多くのロームを含むやや明るい黄褐色土層
- 6 黒色土とロームブロック 5~20mmを含む軟らかな明るい黄褐色土層
- 7 灰色粘土ブロック(上面焼土)赤褐色を呈す



7 に類似する灰色粘土 ややボソボソの軟らかい層

- 8 灰色粘土とロームの混土 ボソボソ 灰黄褐色土層
- 8a 烧土ブロックを含む灰黄褐色土層
- 9 8層よりロームの混入の多い灰黄褐色土層
- 10 灰の多く含まれた黒色灰層
- 11 にやい黄褐色土層 粘土とロームブロックを含む
- 12 炭化物とロームブロックを含む黒褐色土層
- 13 灰白色粘土

第5図 1号住居跡 カマド・平面・断面図



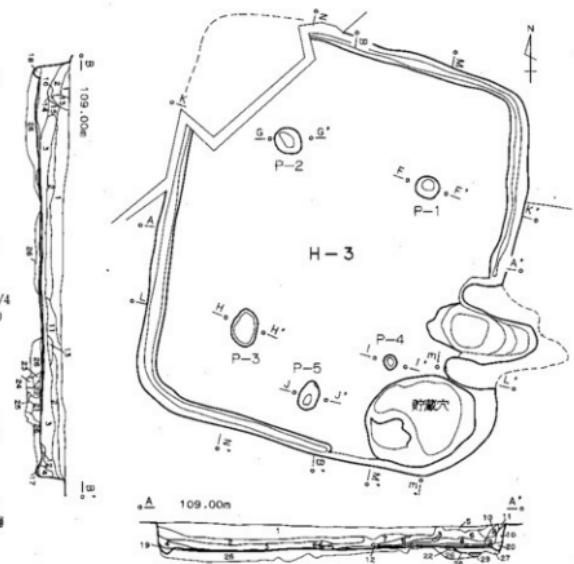
第6図 2号住居跡 平面・断面図・振り方平面図



第7図 2号住居跡 カマド・平面・断面図

H-3 土層記

- 1 黒褐色土層 斑点状ロームと炭化物・焼土粒・FP・C 軽石を多く含む 締まりあり 10YR 3/2
- 2 にぶい黄褐色土層 斑点状ロームと焼土粒を含む 締まりあり 10YR 4/3
- 3 黒褐色土層 炭化物を多く含む 普通 10YR 3/1
- 4 黑褐色土層 粒状のロームを含む 二次堆積 やや軟 10YR 3/3
- 5 黑褐色土層 灰色粘土に黒褐色土の混入が6層より多い 締まりあり 10TR 5/1
- 6 黑褐色土層 灰色粘土に黒褐色土が僅か混入 締まりあり 10YR 6/1
- 7 にぶい黄褐色土層 締まりあり 10TR 6/4
- 8 灰白色土層 粘土と粘土ブロック 締まりあり 10YR 7/1
- 9 灰褐色土層 締まりあり 10TR 4/2
- 10 黑褐色土層 5層より黒褐色土を多く含み3層より灰白粘土を多く含む 締まりあり 10YR 5/1
- 11 にぶい黄褐色土層 1・2層より斑点状ロームを多く含む(2層に隔て) 10TR 4/3
- 12 明褐色土層 地山のロームブロック 10TR 6/0
- 13 黑褐色土層 斑点状ロームをほとんど含まない黒褐色土層 細い溝跡 2.5Y 3/1
- 14 にぶい黄褐色土層 粒状ロームを含む砂層 やや軟 細い溝跡 10TR 5/3
- 15 黑褐色土層 軽石と焼土粒を含む 7.5Y 4/1
- 16 灰褐色土層 軽石を含む やや軟 2.5YR 4/1
- 17 にぶい黄褐色土層 軟 10YR 4/3
- 18 黑褐色土層 10TR 3/4
- 19 黑褐色土層 普通 10YR 4/4
- 20 青黒色土層 炭化物を多量に含む。20層の厚さは焼失住居を示すものと思われる。
- 21 黑褐色土層 黑褐色土にローム粒と軽石を含む 締まりあり 10TR 4/3
- 22 にぶい黄褐色土層 ロームブロックに黒褐色土混入 締まりあり 10YR 5/4
- 23 にぶい黄褐色土層 ロームブロック 締まりあり 10YR 6/4



第8図 3号住居跡 平面・断面図

H-3 カマド 土層注記

- 1 灰色土層 10Y 6/1
- 2 灰色土層 10Y 3/1
- 3 にぶい黃褐色土層 10YR 6/3
- 4 灰色土層 7.5Y 6/1
- 5 灰色土層 10Y 4/1
- 6 黒色土層 10Y 2/1
- 5～6層の間に 2～3mmの10YR7/3にぶい黃褐色土層 灰層
- 7 深灰色土層 2.5Y 7/4
- 8 明黃褐色土層 2.5Y 7/6
- 9 赤褐色土層 粘土に燒土が混入 10YR 4/4
- 10 鮎色土層 鮎土 2.5YR 6/6
- 11 ロームと燒土と黒褐色土の混土 10YR 4/3
- 12 にぶい黃褐色土層 粘土と燒土とローム粒と炭化物の混入 10YR 5/3
- 13 にぶい赤褐色土層 灰・炭化物と燒土の土塗 2.5YR 4/4
- 14 粘土・燒土・炭化物の混土層
- 15 明褐色土層 7.5YR 7/1
- 16 明褐色土層 7.5YR 6/1
- 17 明褐色土層 7.5YR 5/3
- 18 明褐色土層 7.5YR 5/1
- 19 灰黃褐色土層 10YR 5/2
- 20 鮎色土層 7.5YR 5/1
- 21 鮎色土層 10YR 5/1
- 22 粘土・燒土・ローム粒・炭化物の混入 にぶい黃褐色土層 10YR 5/3

P-1 P-2
F 108.70m G' 108.70m G
E 108.70m E' 108.70m E'

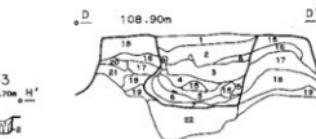
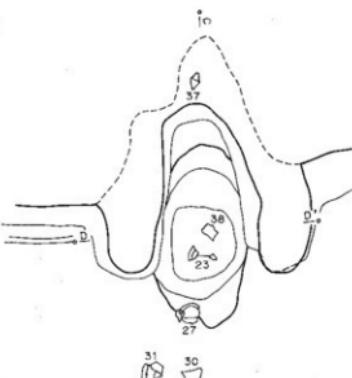
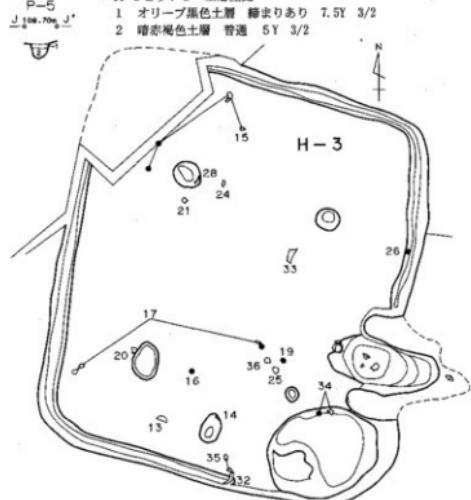
H-3 ピット 1 土層注記
1 黒褐色土層 軽石を多く含む
やや軟 10YR 3/1

H-3 ピット 2 土層注記
1 軽石を多く含む やや軟 普通
10YR 3/1

H-3 ピット 3 土層注記
1 にぶい黃褐色土層 硬石を多く含む 繖まりあり 10YR 4/3

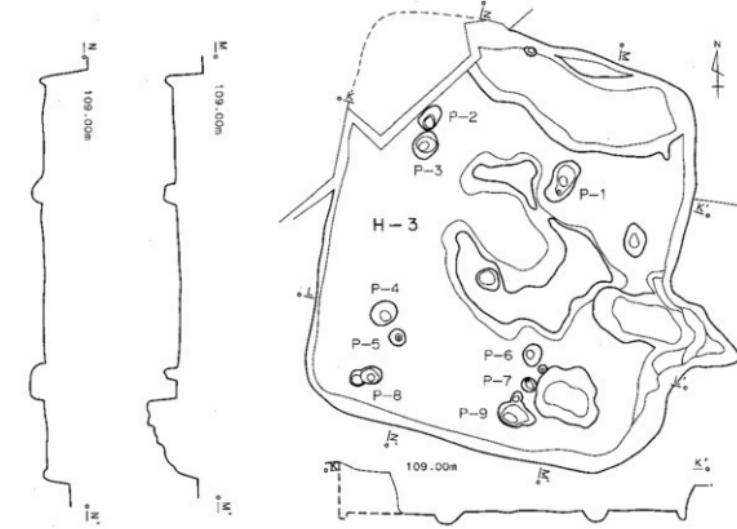
H-3 ピット 4 土層注記
1 鮎褐色土層 硬石とローム粒を含む 普通 10YR 3/2

H-3 ピット 5 土層注記
1 オリーブ褐色土層 繖まりあり 7.5Y 3/2
2 増赤褐色土層 普通 5Y 3/2

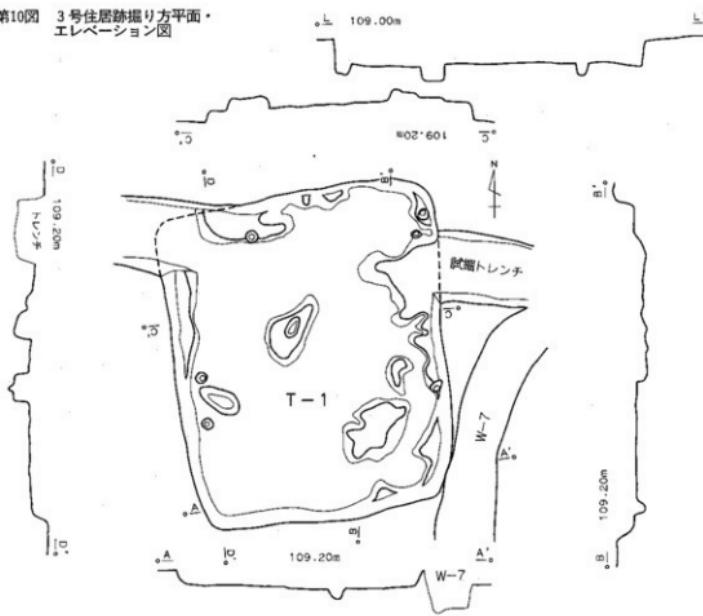


H-3 貯藏穴 土層注記
1 褐赤褐色土層 硬石を多量に含む 繖まりあり 10YR 4/1
2 鮎褐色土層 ローム粒に僅か燒土 繖まりあり 10YR 4/4
3 灰黃褐色土層 カマドの粘土の流れ込み 繖まりあり 10YR 5/2
4 增赤褐色土層 烧土粒を多量に含む 繖まりあり 5YR 3/8
5 鮎褐色土層 粘土と燒土で模様模様 繖まりあり 7.5YR 4/3
6 黄褐色土層 ロームと燒土 やや軟 10YR 5/6
7 灰黄褐色土層 粘土と炭化物 やや软 10YR 4/2

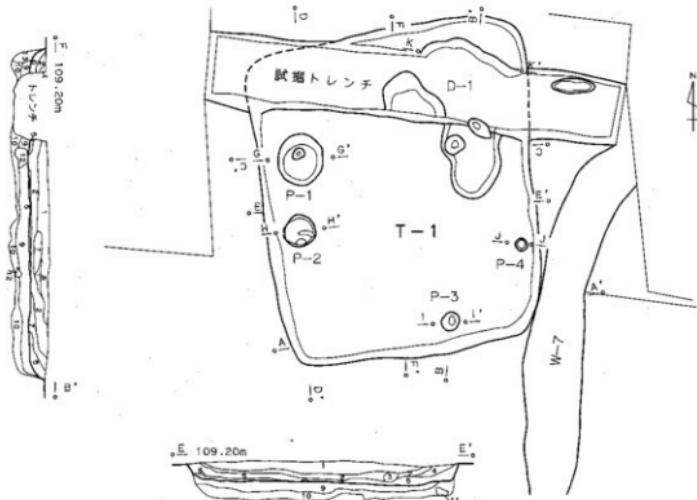
第9図 3号住居跡 平面・断面図・遺物接合図



第10図 3号住居跡掘り方平面・エレベーション図



第11図 積穴状遺構 掘り方平面図



T-1 土層注記

- 1 銀い黄褐色土層 CFP軽石を含む FPの方が多い 繰まりあり 10TR 4/3
- 2 黒褐色土層 ロームの混入 普通 10TR 3/3
- 3 黑褐色土層 CFPが見られるGの方が多いブロック 細ボソボソ 10TR 2/2
- 4 黑褐色土層 灼石粒を織か含む 繰まりあり 10TR 3/2
- 5 ロームブロックの混入が見られる 1・2層より軽石の混入が少ない やや軟 10TR 2/1
- 6 にぶい黄褐色土層 軽石は見られず粒状のロームが混入 二次地殻 やや軟 10TR 5/3
- 7 褐色土層 ブロック状のロームと軽石を含む やや軟 10TR 4/4
- 8 粒状ロームと軽石の混入 軟 10TR 4/2
- 9 にぶい黄褐色土層 黑褐色土にロームブロックを含む 繰まりあり 10TR 4/3
- 10 9層よりロームブロックが多く含まれる 軽石を含む 10TR 4/3
- 11 黑褐色土層 軽石を含む 普通 10TR 3/1
- 12 にぶい黄褐色土層 2~3mmの軽石を含むロームブロック 10TR 6/4
- 13 黄褐色土層 やや軟 壁周囲 5TR 5/2

P-1
G 109.10m G'

T-1ピット1 土層注記
1 黑褐色土層 普通 軽石を多く含む 10TR 2/2
2 黄褐色土層 硬 ハードローム 10TR 5/6

D-1
K 109.10m K'

T-1ピット2 土層注記
1 黑褐色土層 普通 軽石を多く含む 10TR 2/2
2 褐色土層 普通 10TR 4/6
3 黄褐色土層 硬 ハードローム 10TR 5/6

T-1土坑1 土層注記
1 黄褐色土層 軽石を多量に含む 10TR 2/2
2 黄褐色土層 10TR 5/6

P-2
H 109.10m H'

P-3
J 109.10m J'

P-4
J 109.10m J'

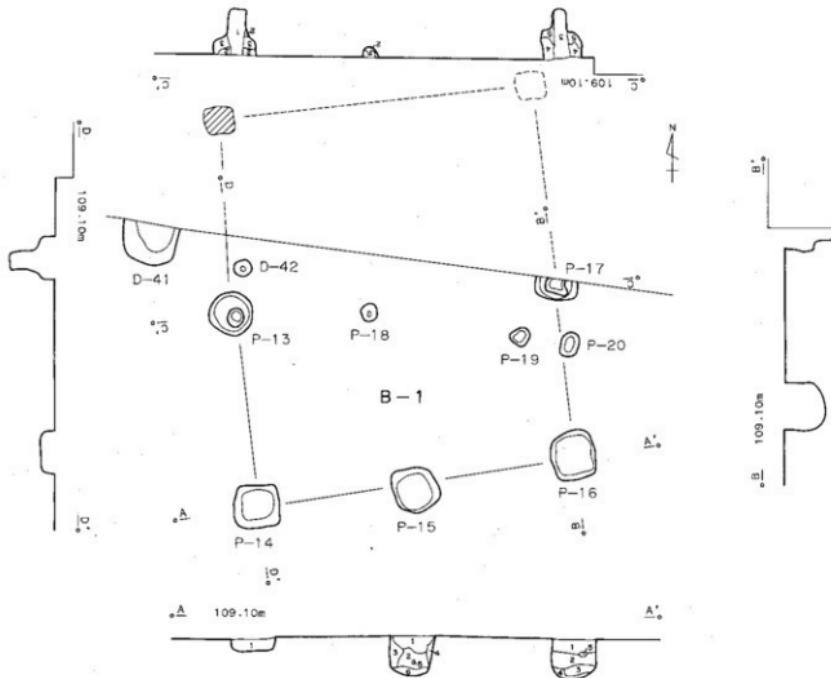
T-1ピット3 土層注記
1 黑褐色土層 普通 軽石を多量に含む 10TR 2/2

T-1ピット4 土層注記
1 黑褐色土層 普通 軽石を多量に含む 10TR 2/2

第12図 積穴状造構 平面・断面図

3. 据立柱建物跡 (B-1)

位 置 AR-22・23、AS-22・23グリッド。方位N-5°-W。P-13~17と調査区外に方形の柱穴プラン(斜線部分)計5穴を確認した。長辺480cm、短辺390cm。方形プランを呈し、東西2間、南北2間の南北棟で東に開く建物。P13・17の土層を見ると柱の太さ15~20cmであることがわかる。P14は方形プランを示しているがやや浅い掘り込みである。ピット18は円形で小さい。



P-13 土層注記

- 1 黒褐色土層 故 10YR 3/2 10YR 2/1 にロームブロックが混入する
- 2 にぶい黄褐色土層 繊まりあり 10YR 5/4 10YR 6/6 明黃褐色ロームに黒褐色土が混入する
- 3 黑褐色土層 10YR 2/2 10YR 2/1 とロームの混土層

P-14 土層注記

- 1 黄褐色土層 ロームに黒褐色土の混入する 7.5YR 4/4

P-15 土層注記

- 1 黑褐色土層 ローム粒・焼土・C軽石を含む 普通 7.5YR 3/1
- 2 精褐色土層 1層よりローム粒の混入が少くない やや軟 7.5YR 3/3

- 3 黄褐色土層 黄褐色ロームに黒色土が僅か混入 故 10YR 5/6
- 4 にぶい黄褐色土層 地山のロームに黒色土が染み込んだ状態 10YR 5/4

- 5 黄褐色土層 3層と同じロームブロック 10YR 5/6
- 6 黄褐色土層 ロームに黒色土混入 軽石は見られない 10YR 4/6

P-16 土層注記

- 1 黒褐色土層 耕作土 普通 10YR 3/1
- 2 暗赤褐色土層 水田敷 繊まりあり 5YR 3/3
- 3 黑褐色土層 ローム粒とC軽石を含む やや軟 10YR 2/2
- 4 黄褐色土層 ロームに黒褐色土の混入 繊まりあり 10YR 5/6
- 5 暗褐色土層 黑褐色土にロームが混入する ポソボソ 10YR 3/3

P-17 土層注記

- 1 黄褐色土層 普通 10YR 4/4
- 2 暗黄褐色土層 故 10YR 4/2
- 3 にぶい黄褐色土層 故 10YR 5/4
- 4 明黄褐色土層 繊まりあり 10YR 6/6
- 5 黑褐色土ブロック 故 10YR 2/2

P-18 土層注記

- 1 黑褐色土層 ロームが混入 繊まりあり 10YR 2/1
- 2 明褐色土層 ロームに黒色土の混入 繊まりあり 7.5YR 5/6

第13図 据立柱建物跡 平面・断面エレベーション図

第2表 住居跡遺物観察表

注: 法量は①口径 ②底径 ③洞部最大径 ④洞部高 ⑤幅高 ⑥長さ ⑦幅 ⑧厚み ⑨穿孔 ⑩重量 ⑪～⑫cm、⑬～⑭g ()は推定値及び残存高を示す	No	出土位置	器種	法量	胎土	施成	色	質	特徴	遺存
1 H-1	1 H-1	拂状の軽石	②2060	—	—	—	—	拂状に加工した角閃石安山岩	1/2弱	
2 (H-1)	1 H-S 1	薬石	⑥(10.9) ⑦(4.9) ⑤(3.6) ⑩(300)	—	—	—	—	自然石(結晶片岩)を利用した薬石	完形	
3 (H-2)	H-3-10-24	环	土師 ①(11.0) ③(3.1)	粗 良	2.5YR6/8 燒	—	—	やや厚みを持ち丸底 外面朱色磨布	1/2弱	
4 (H-2)	H-3-2	环	土師 ①(11.6) ③(3.6)	粗 良	2.5YR5/6 燒	—	—	丸底で内側は刷毛形 口縁の一帯に墨付着 外腹横方向窓割り 口縁は指掌 外面底部朱色磨布	ほぼ完	
5 (H-2)	H-3-21	环	土師 ①(11.7) ③(4.0)	寄 良	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	瓶底は丸味を持ち全体は纏らみ口縁は内側す る外腹横及び窓方向の窓割り 内腹指掌無	1/2強	
6 (H-2)	H-3-6-9	盤	灰陶 ①(18.0) ②(14.0) ③(4.5)	粗 粘	7.5Y5/2 オーリーブ 燒	—	—	瓶底から丸味を持ち立ち上がりハコ字状に開く 口縁の厚さ3mm 平底 内面クロロカット調整	1/4強	
7 (H-2)	H-3-18	环	土師 ①(14.8) ③(5.2)	寄 良	5YR7/8 燒	—	—	瓶底は丸味を持ち全体は纏らみ口縁は内側す る外腹横及び窓方向窓割り 瓶底は指掌 外面指掌無	1/2強	
8 (H-2)	H-3-11-12	环	土師 ①(13.3) ③(4.3)	粗 粘	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	瓶底は丸味を持ち全体は纏らむ口縁は内側す る外腹横及び窓方向 瓶底は指掌 底部に指掌あり 細かな擦れ痕が見られる	1/2強	
9 (H-2)	H-3-カ4・カ7 カ17・カ24	壺	土師 ①(26.0) ③(18.6) ④(15.7) ⑩(19.7)	粗 良	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	「く」の字状口縁 瓶底は纏らみを持つ 底部低振 外面 斜面削り丁寧な磨擦 口縁は纏らみ 頂部を削て 長い頸部 前部は直線的に窄まり後部附近に斜面削り 外腹 横方向窓割り 内面指掌無 平底	1/2弱	
10 (H-2)	H-3-1-2・ 19-21-25-27	甕	土師 ①(24.8) ②(4.6) ③(20.2) ⑩(42.3)	粗 良	10YR7/4 にじむ 黃褐色	—	—	瓶底から丸味を持つ立ち上がりハコ字状に開く 口縁は直線的に窄まり後部附近に斜面削り 外腹 横方向窓割り 内面指掌無	ほぼ完	
11 (H-2)	H-3-15-16 18-24	甕	土師 ①(18.9) ②(4.0) ③(15.2) ⑩(24.0)	粗 良	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	「く」の字状口縁 前部は丸味を持つ 外面横方向 窓割り 指掌無 伸縮絞り窓割り 瓶底は指掌あり 外面 斜面削り 瓶底は指掌 瓶底に指掌あり	3/4	
12 (H-2)	H-3-25-26 I-5-1-2	甕	土師 ①(24.1) ②(20.2) ③(18.2) ⑩(31.5)	粗 良	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	「く」の字状口縁 外腹横方向窓割り 瓶底に削て 底部横方向指掌 内面斜方向窓割り後指掌無	2/3	
13 (H-3)	H-4-40	环	土師 ①(14.8) ③(2.9)	寄 良	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	平底で口縁部直立。外腹横方向窓割り無	1/3弱	
14 (H-3)	H-4-128	环	土師 ①(14.2) ③(2.9)	寄 良	7.5YR6/6 燒	—	—	底部から丸味を持つ立ち上がり口縁部で外傾する 口縁は削り 平底 外腹横方向窓割り 前部指掌無	1/4弱	
15 (H-3)	H-4-104-121- 123-124-126	环	土師 ①(12.2) ③(3.7)	寄 良	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	体部は直立氣味に立ち上がる 外腹横及び窓方向窓割 り 内面横方向の指掌無 丸味が見られる	ほぼ完	
16 (H-3)	H-4-57	环	土師 ①(14.0) ③(3.2)	粗砂 粘	5 YR 7 / 6 燒	—	—	体部は丸味を持つ 口縁部は外傾し 内外頭刺痕	1/4弱	
17 (H-3)	H-4-18-19- 48-49	甕	土師 ①(12.2) ③(2.5)	粗砂 粘	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	口縫部は内側し体部丸味を持つ 口縫部横擦 外面 窓割り 前部指掌無 丸味	1/4弱	
18 (H-3)	H-4	环	土師 ①(18.0) ③(5.2)	粗砂 粘	7.5YR7/6 燒	—	—	口縫部は直立氣味に立ち上る 口縫部横擦 外面 窓割り 前部指掌無 内面指掌無	1/4強	
19 (H-3)	H-4-10	环	土師 ①(13.8) ③(3.0)	寄 良	7.5YR5/4 にじむ 燒	—	—	口縫部は外傾 内外頭指掌無 朱色底 外腹横方向 窓割り 前部指掌無 内面指掌無	1/2弱	
20 (H-3)	H-4-50	环	土師 ①(13.1) ③(3.6)	寄 良	5YR7/4 にじむ 燒	—	—	底部から丸味を持つ腰部から立ち上がり口縫部は直立 氣味で口縫部は僅か外傾 外腹横方向 瓶底指掌え横擦	3/4	
21 (H-3)	H-4-106	环	土師 ①(13.0) ③(3.1)	寄 良	5YR6/6 燒	—	—	体部は丸味を持つ口縫部は直立氣味に立ち上る 口縫部内面 外腹横方向 瓶底指掌無 内面指掌無	1/4弱	
22 (H-3)	H-4	环	土师 ①(16.0) ③(3.8)	寄 良	5YR7/6 燒	—	—	口縫部は僅か内側し体部は丸味を持つ 口縫部内外面 外腹横方向 瓶底指掌無 内面丸味	1/4強	
23 (H-3)	H-4-カ4・カ13	环	灰陶 ①(12.8) ③(8.8)	寄 良	10Y5/1 燒	—	—	口縫部は僅か内側して外傾して立ち上る 内外面口 縫部指掌無	1/3	
24 (H-3)	H-4-9	蓋(鉢)	須恵 ①(25.6) ③(5.3)	寄 良	7.5Y6/1 焼	—	—	大型の蓋の部 内外頭指掌無	鉢	
25 (H-3)	H-4-110	蓋	須恵 ①(12.9) ③(2.3)	寄 良	10Y6/1 焼	—	—	蓋の部 内面回旋剝り 内面指掌	1/4弱	
26 (H-3)	H-4-98	环	須恵 ①(14.0) ③(10.1) ⑤(3.3)	良	N4/0 焼	—	—	口縫部は外傾し体部は内側し口縫部横擦 外面 窓割り 平底	1/4強	
27 (H-3)	H-4-11	环	須恵 ①(13.6) ③(8.4) ⑤(3.6)	寄 良	10Y7/1 白灰 焼	—	—	体部は外傾して立ち上がる 内外面クロロ整形	2/3	
28 (H-3)	H-4-109	环	須恵 ①(18.1) ③(8.0) ⑤(3.6)	良	10Y7/1 白灰 焼	—	—	体部は外傾して立ち上る 内外面クロロ整形 底部は削り頭部に凹凸あり	1/3	
29 (H-3)	H-4	小型甕	土師 ①(6.0) ③(7.2) ⑤(6.2)	砂粒 粘	7.5YR6/3 にじむ 燒	—	—	小形で直角用と考えられる 手握 外面削り頭部は 窓割り 平底 内面指掌え脇部に削り工具痕 係付管	1/4弱	
30 (H-3)	H-4-24 カ5・ 8	甕	土師 ①(20.0) ③(16.4) ⑤(9.0)	粗砂 粘	7.5YR6/4 にじむ 燒	—	—	口縫部は外傾しながら開き頭部は必ず下がる 口縫 部は内側横擦 外腹横方向窓割り 内面指掌	口～瓶 1/4弱	
31 (H-3)	H-4-カ7	甕	土師 ①(21.0) ③(18.6) ⑤(11.4)	砂粒 粘	2.5YR6/6 燒	—	—	口縫部は直立的で開き頭部は真すぐに下がる 口縫部内 外腹横擦 外腹横方向窓割り 内面指掌	口～瓶 1/4弱	
32 (H-3)	H-4-38	壺	土師 ①(25.0) ③(21.5) ⑤(8.0)	砂粒 粘	5YR6/6 燒	—	—	口縫部は「ハ」字状に開き頭部は丸味を持つ 外面頭指 掌部は「く」字状を呈し頭部はやや膨らみを持つ 口縫 部内側外腹横擦 無部に見えて底部削り頭部指掌 内面 頭指掌	口～瓶 1/4強	
33 (H-3)	H-4-90	壺	土師 ①(23.0) ③(19.4) ⑤(8.5)	砂粒 粘	2.5YR6/6 燒	—	—	頭部は「く」字状を呈し頭部はやや膨らみを持つ 口縫 部内側外腹横擦 無部に見えて底部削り頭部指掌 内面 頭指掌	口～瓶 1/4弱	
34 (H-3)	H-4-27・2・5	甕	土師 ①(5.0) ③(7.5)	多量 砂粒 粘	2.5YR6/4 にじむ 燒	—	—	平底から削り丸味を持つ立ち上がる やや厚手 外面 頭指掌 内面頭指掌	頭下半 1/4弱	
35 (H-3)	H-4-34-37	甕	土師 ①(6.0) ③(4.6)	多量 砂粒 粘	2.5YR5/4 にじむ 赤鉄	—	—	底部削りは直線的に開く やや厚手 外面頭指掌 内面 頭指掌	底部のみ 1/4弱	
36 (H-3)	H-4-13	甕	土師 ①(6.0) ③(6.4)	多量 砂粒 粘	2.5YR4/4 にじむ 赤鉄	—	—	平底 头部は丸味を持つ立ち上がる やや厚手 外面 頭指掌 内面頭指掌	1/4弱	
37 (H-3)	H-4-24	甕	土師 ①(6.0) ③(7.1)	多量 砂粒 粘	2.5YR6/6 燒	—	—	平底 头部は丸味を持つ 外面頭指掌 内面頭指掌 が凹凸になって残る	1/3強	
38 (H-3)	H-4-24	甕	土師 ①(6.0) ③(10.9)	砂粒 粘	2.5YR5/4 にじむ 赤鉄	—	—	平底 头部は直線的に開く 外面頭指掌 内面頭指掌 が凹凸になって残る	頭下半 1/4弱	

4. B 軽石下水田跡

調査区内の FB-20、FC-19・20、FD-18・19・20、FE-18・19・20、FF-17・18・19、FG-17・18グリッドで浅間山を供給源とする軽石層が確認された。この浅間B軽石(As-B 1108年)は上から1灰赤色火山灰層、2黒色の軽石層、3にぶい黄橙色軽石層、4明褐色軽石層、5黒色の軽石とにぶい黄橙色の軽石の混入する層、6青灰色火山灰層と6層に分けることが可能で、6cm程の堆積があり、この層序と残存状態からすると自然堆積層のものと考えられる。また As-B層を排除した面には人の足跡と思われる跡があり水田面と考えられる。調査した範囲が狭いので畦畔と歩行方向のはっきりする足跡は確認できなかった。FK-18グリッド付近の土層からも弘仁九年(818)の地震に伴う泥流層の混入があったことがわかる。水田面と思われる調査面積は96.91m²である。

プラント・オパール分析の結果、水田面の可能性が考えられていた As-B直下層では、少量ながらインが検出され、同層で稲作が行われたことが分析的に検証された。また、泥流堆積物の下層などでも、稲作が行われていた可能性が認められた。As-B直下層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。(古環境研究所株式会社 自然科学分析調査による)

5. 井戸跡

本遺跡では井戸跡は12基確認された。遺構は木組、石組等を伺わせる遺物類の検出は見られず、すべて素掘り井戸の範疇でとらえられる。これらの井戸を特徴別に分けると下記のようになる。

1. EQ+ER-12グリッドで検出された井戸跡(I-1)は調査区域との境に位置し、土層断面で土地改良後の現水田面直下から掘り込みが確認できたので、現代の井戸と思われる。
2. EL+EM-17・18グリッドで検出された井戸跡(I-7)から出土した石臼は中世以降のものであり、松の木の枝は切り口が鋭利で腐蝕も進んでいないので現代の井戸と考えられる。
3. I-1・2・6・9は水溜のための井戸側下部が拡大する。(崩落した可能性も考えられる)
4. I-2は平面形と断面形から2~3回の掘り直しが行われたものと思われる。
5. I-8・10・12は確認面からの掘り込みが浅く、垂直に近いほぼ円形で新しい井戸と思われる。
6. I-2・3・4・6・11はロート状の掘り込みで、近世の井戸跡と思われる。
7. 井戸跡(I-3)と7・8・9・12・13・17・18・19・26調査区から木杭が出土した。これらの杭は、水路の補強材(樅・檜・松・竹等)であった。(この溝はビニール等が出土している)

内田憲治氏は「赤城山麓のヤト田を掘る」の中で「溜井は水田への用水確保を目的として掘削された井戸であり、湧水を取水・貯水するための湧水・貯水部とその水を水田に供給するための導水部という構造を持つ灌漑施設である」としている。上記6の井戸(I-2・3・4・6・11)以外は掘削深度も比較的浅く、導水部・貯水部も確認されていないので、内田氏の言う中世の溜井とするには資料不足であり、この井戸跡は近・現代の農業用水確保の井戸と思われる。

参考文献

- ・二之宮谷地遺跡 一般国道17号(上武国道)改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1994 建設省・群馬県教育委員会・健群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- ・古代～中世井戸について(I)「埼玉県における形態分類を中心として」1990 鈴木孝之 研究紀要第7号 勉埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・よみがえる中世5 浅間火山灰と中世の東国「赤城南麓のヤト田を掘る」1989 内田憲治 平凡社
- ・沼西I・II遺跡 1992 前橋市教育委員会

第3表 井戸跡計測表

井戸No	検出位置	位置(グリッド)	形 状	長 広	幅 径	深 さ	備 考
I-1	14調	I-2 GL3	不正円	46	43	107.5	
I-2	-1	GM3	円	112	103	120.0	土師西環4 壁3 埠1 寧良・平安
I-3	3調	I-1 AR・AS24、GR・GS0	ア	109	68	112.0	土師西環10 壁9 須恵繩環3 調査区外に延びる
I-4	-2	GT2	ア	118	111	115.0	土師西環9 壁口繩16 寧良・平安
I-5	-3	GR・GS1・2	円	103	98	212.0	土師西環1 須恵繩附部 H 2-N2と接合
I-6	-4	AS24・GS0	椭 圆	87	72	88.0	土師腰環7 壁4 寧良・平安
I-7	12調	I-1 EL・EM17・18	長 圓	140	125	89.0	調査区外に延びる
I-8	-2	EL21	円	77	72	58.0	
I-9	22調	I-1 DV11	ア	138	134	133.5	
I-10	24調	I-1 EM11	ア	98	92	65.0	
I-11	-2	EQ・ER12	方	84	78	33.5	調査区外に延びる
I-12	13調	I-1 ET14・15	椭 圆	75	69	60.0	ア

6. 土坑 [第3表(1)~(7)]

土坑は283基が検出され発掘及び実測に時間と労力を要した。この内遺物を伴うものは(1、21、116、128、135、146、149、151、152、155、158、163、164、166、184、193、194、198、215、241、242) 21基であった。この内縄文時代の土器・石器を伴うものは18基(1、21、128、135、146、149、151、152、155、163、164、166、184、193)。土師器を伴うもの2基(116、241)それ以外の土坑は5基であった。以上のように283基の土坑に対し遺物を伴うものが少くなく、その内14基が縄文時代の遺物を伴うものであり、D区土坑群は覆土と検出状況から、その多くが縄文時代のものである可能性が高いと思われる。

7. 柱穴 [第4表(1)~(3)]

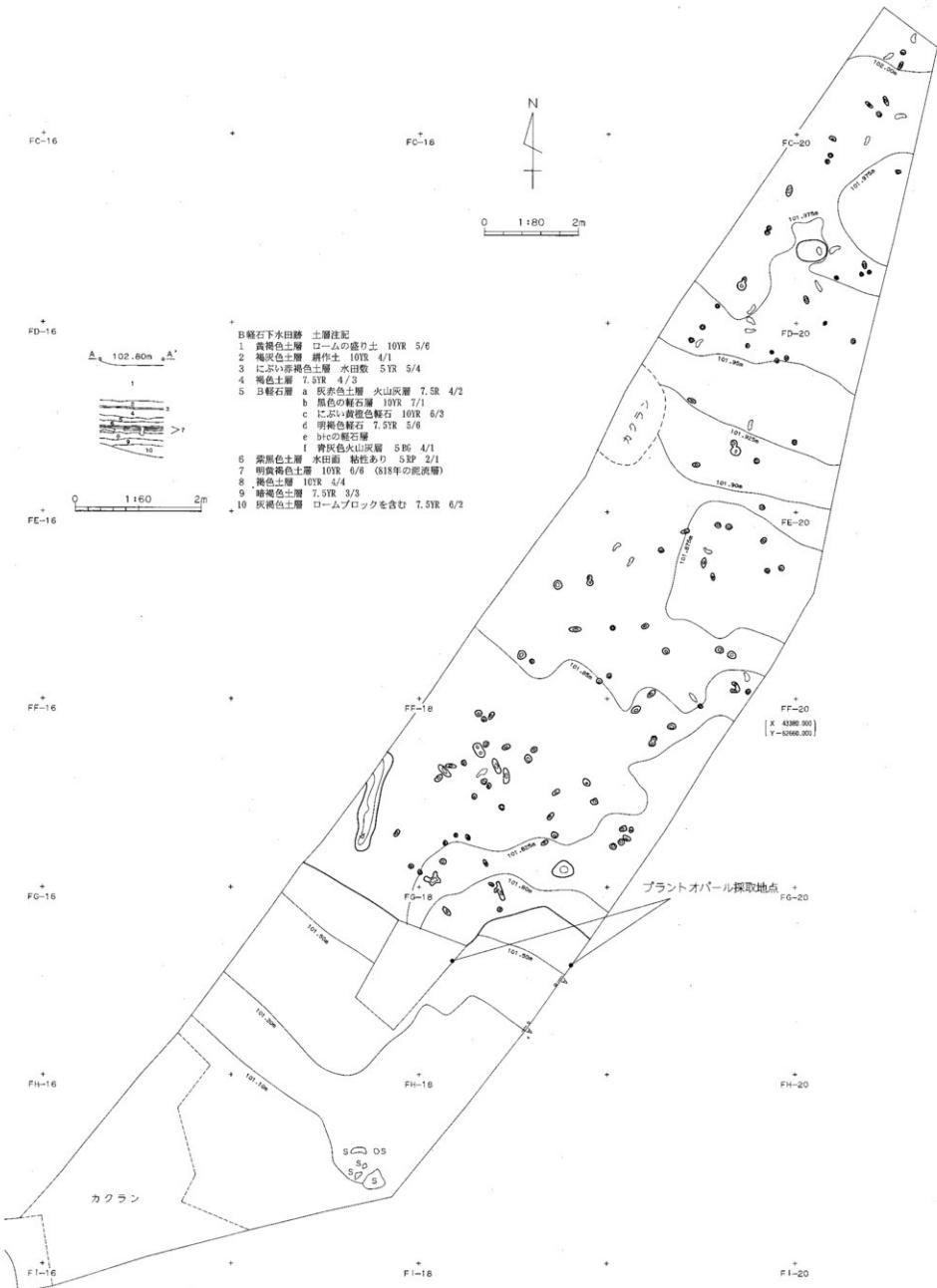
柱穴の集中するのは、1ブロック内の3調査区 AR・AS-19グリッド付近である。この柱穴群の中で1棟分の掘立柱建物跡が確認された。又3ブロック内の22調査区 DS・DV-10・11グリッド付近にも集中するが掘立柱建物跡を確認することは出来なかった。

3ブロック22調査区 DS～DV-10・11グリッド付近に集中する柱穴群は風倒木痕によりハードローム層を持ち上げられた所にFP軽石を含む黒色土が入っており、その殆どが細い柱穴であった。柱穴は3・22調査区の2ブロックに集中し、3調査区の柱穴は住居跡と同じ7世紀終末と思われ、22調査区柱穴群はFP降下後の柱穴であった。住居跡は3・9調査区、土坑は20・21調査区に集中している。それぞれの遺構が時期によって集中する地域が異なり、全体としても、その遺構ごとに存在箇所が違うことがわかる。開発予定地全体でもこうした傾向が想像される。

8. 風倒木痕 [第5表(1)~(2)]

確認された風倒木痕は表5で示したとおり54基が確認された。その内遺物を伴う風倒木痕は4基である。(O-3・18・19・24) 本遺跡は東と西に舌状台地を要した谷地状の地形であるが、調査地の地形は3ブロックは調査地の最下部で水の溜まり易い地形といえる。1ブロックは調査地の最上部にあり2ブロックはその中間地域といえる。1ブロックでは標高109.20m～106.50mの範囲にあり、20mの中グリッドで見ると調査地が18グリッドにかかるており、その内6グリッドに風倒木痕が確認された。これらが全て同時期のものであり得ないことはもちろんあるが、痕跡率としては30%になる。2ブロックでは標高106.00m～103.50mの範囲にあり20mの中グ

B軽石下水田跡



第14図 B軽石下水田跡 平面・断面図

リッドが17ヶ所ある内10グリッドで風倒木痕が確認された58%。3ブロックでは標高103.00m～101.10mの範囲で20mの中グリッド14の内10グリッドに風倒木痕が確認された。3ブロックでは風倒木痕が70%以上の比率で存在したことが分かる。1ブロックは竪穴住居跡、掘立柱建物跡等があり、風倒木痕も少くないので、居住地域と考えられる。3ブロックは林であったと想像される。

9. 溝

土地改良前の昭和43年作成の図面には堤沼の土手下から3本の流路が示されており中央部（2ブロック）で相互につながりがあり、西端の流路は3ブロック上端で流路が止まっている。調査地内での各調査区の断面や平面に砂礫・軽石及び土器等が流れた痕跡が確認された。

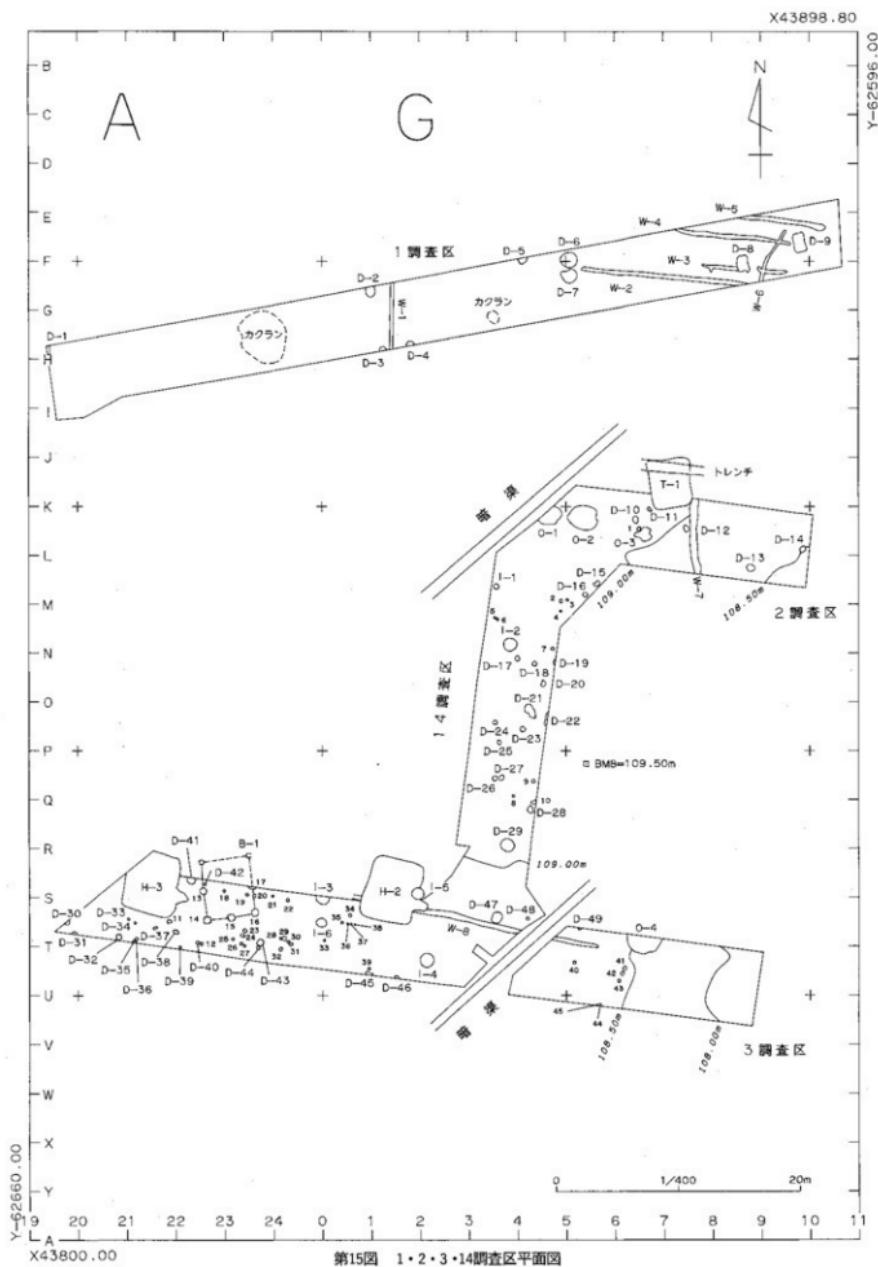
- ① (W-7) 2調査区の竪穴状構造の東側断面①で上端68cm、下端28cm、深さ47cm、断面②では上端42cm、下端26cm、深さ41cm、長さ6.40m、北から南方の溝が確認された。
- ② (W-8) 3調査区北側H-2の西から住居を切り暗渠の下を越えて、風倒木痕の手前で掘り込みが終る溝。
- ③ (W-9) 4調査区の北から南へ磨耗した遺物が出土。
- ④ (W-10) 5調査区交差点付近北から南へ向かう流路。
- ⑤ (W-11・12・13) 6調査区西端に大溝があり、3回の改修が行われており新しいものはビニールを含む。
 - ⑤-1 (W-11) は18・19調査区の東側にその痕跡の一部が確認できる。
 - ⑤-2 (W-12・13) は7・8調査区で見られるが10調査区では分からなくなる。
 - ⑤-3 (W-13) は大溝の一番低い位置にあり、7調査区で交差点にあり、8・9調査区やや東寄り、10調査区では見られなくなる。
- ⑥ (W-14) 6調査区中央部FP軽石層を掘り込んでいる。
- ⑦ (W-15) 6調査区東寄りにも⑥に類似した溝が確認されている。
- ⑧ (W-20) 19～9調査区方向の溝底に竪穴状の列が確認された。
- ⑨ (W-22) 20から10調査区に向かうローム面に竪穴状の列を残す溝。
- ⑩ 9・10調査区W-21～27は、FP堆積後の洪水による流路跡と思われる。
- ⑪ (W-26・27) 10調査区東寄りのFP面で北から南の流路跡。
- ⑫ (W-17) 13調査区東端の流路跡。⑤-3 (W-13)とのつながりが考えられる流路。
- ⑬ (W-18) 26調査区の溝は、⑤-3 (W-13)から出土した内耳壙の接合から同一の可能性が考えられる。
- ⑭ (W-19) 26調査区818年の泥流下の流路跡。

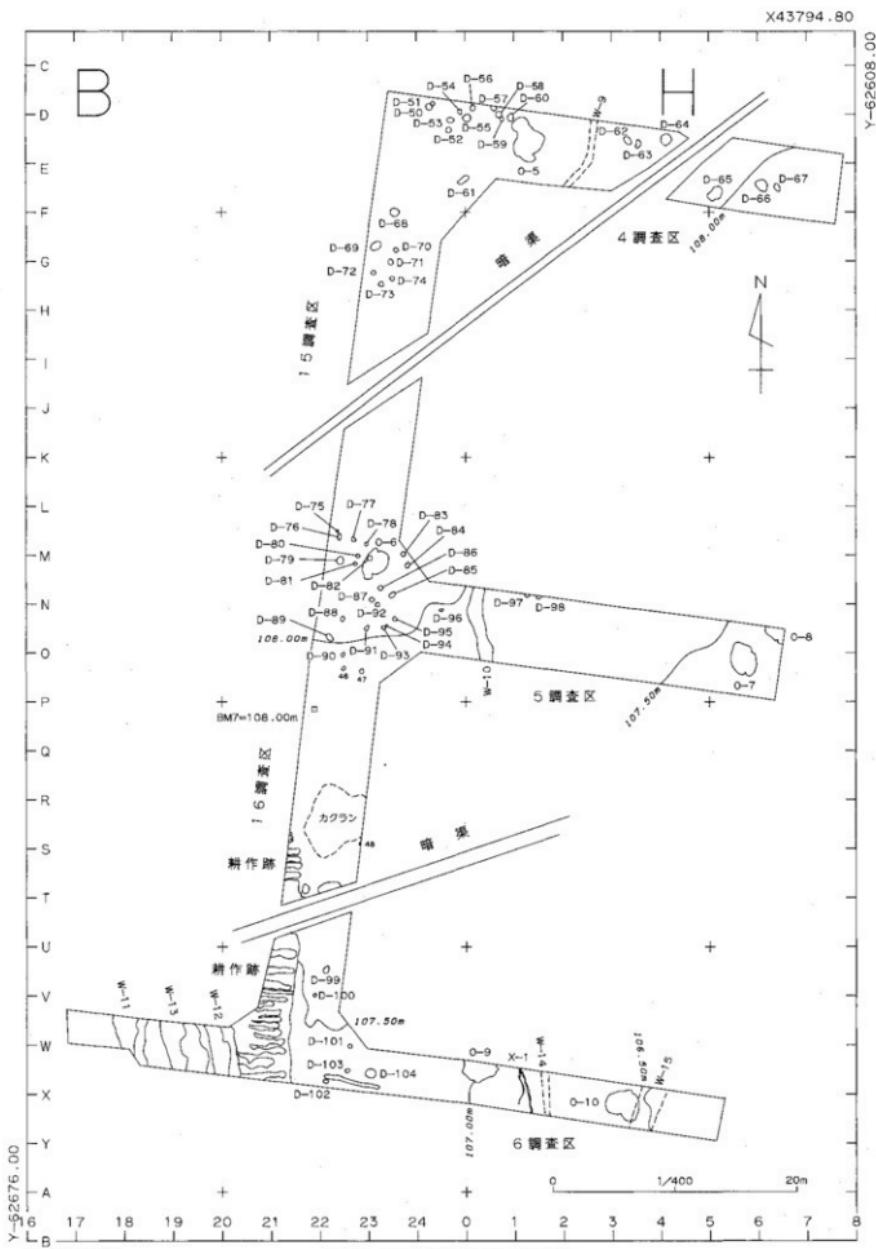
溝の時代は⑤-3 (W-13)がFP堆積以前からの溝と思われるが、その他の溝は、FP堆積後の洪水による溝(W-9・10・14・15・20・21～27)と現代の溝(W-1～8・11・12・16～19)に分けられる。

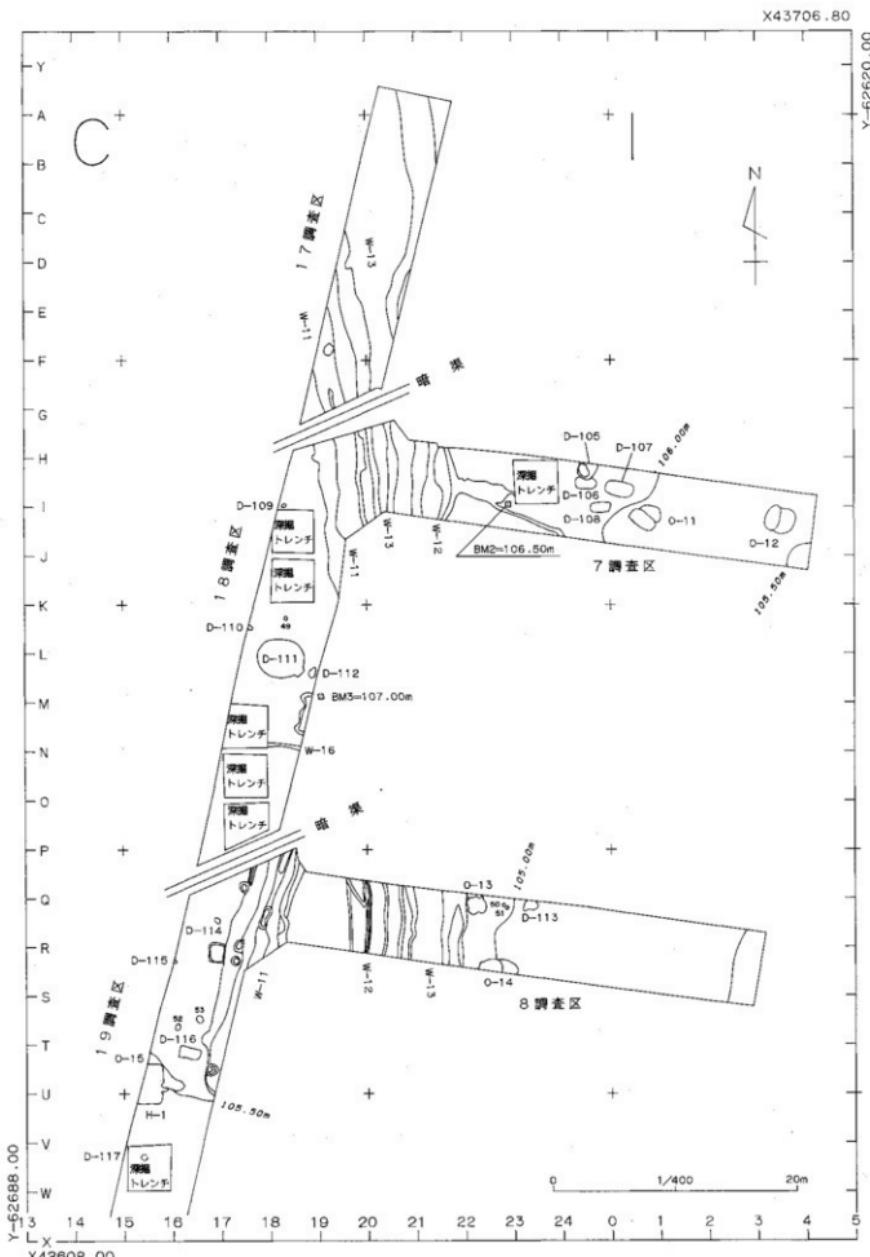
10. 地割れ

6調査区中央部東寄りのHW・HX-1グリッド内ではっきりとした地割れが確認された。
20調査区内に旧石器時代の遺構確認のため設置したDG-13グリッドの北壁からDF-3グリッド方向に延びる地割れが確認された。

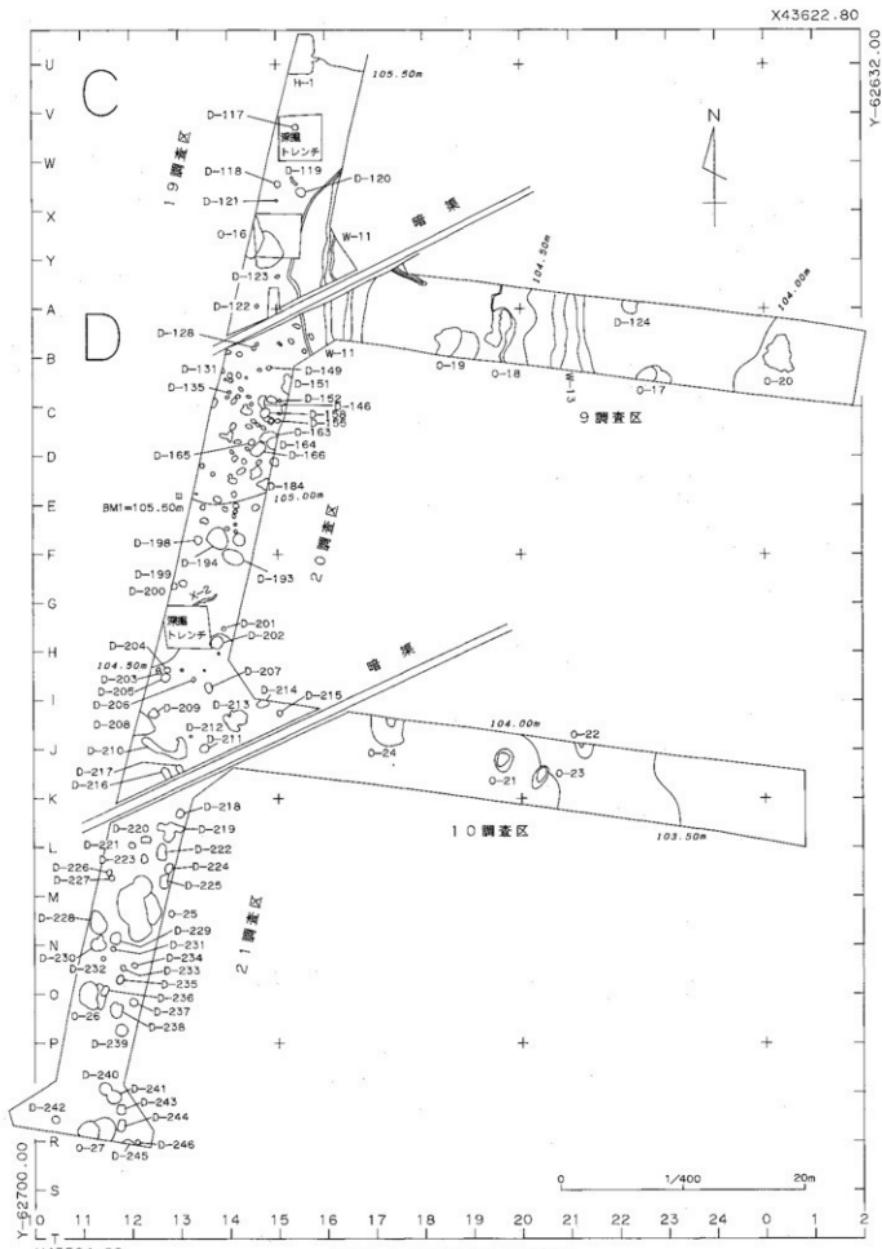
13調査区ES・ET-11グリッド付近で土坑・風倒木痕を横切る地割れが確認された。



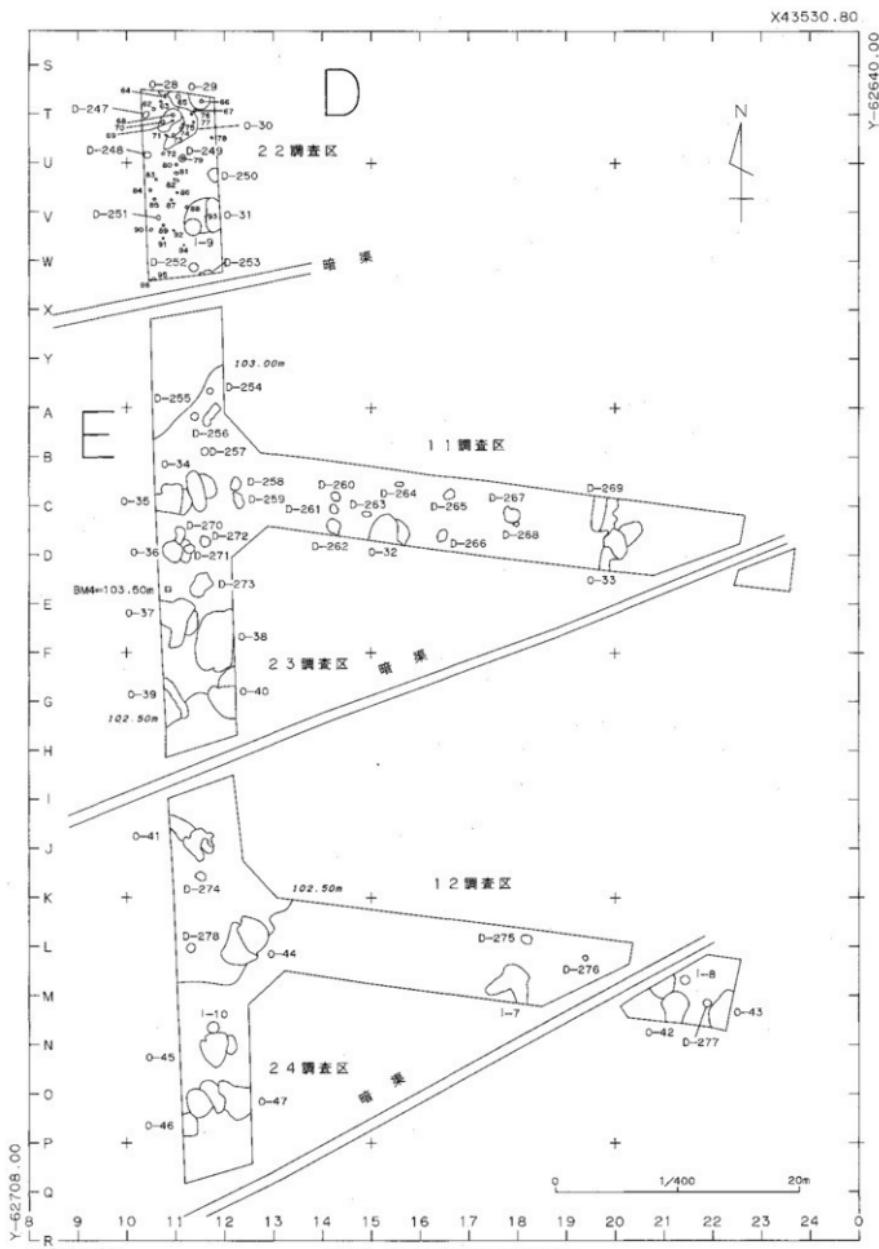




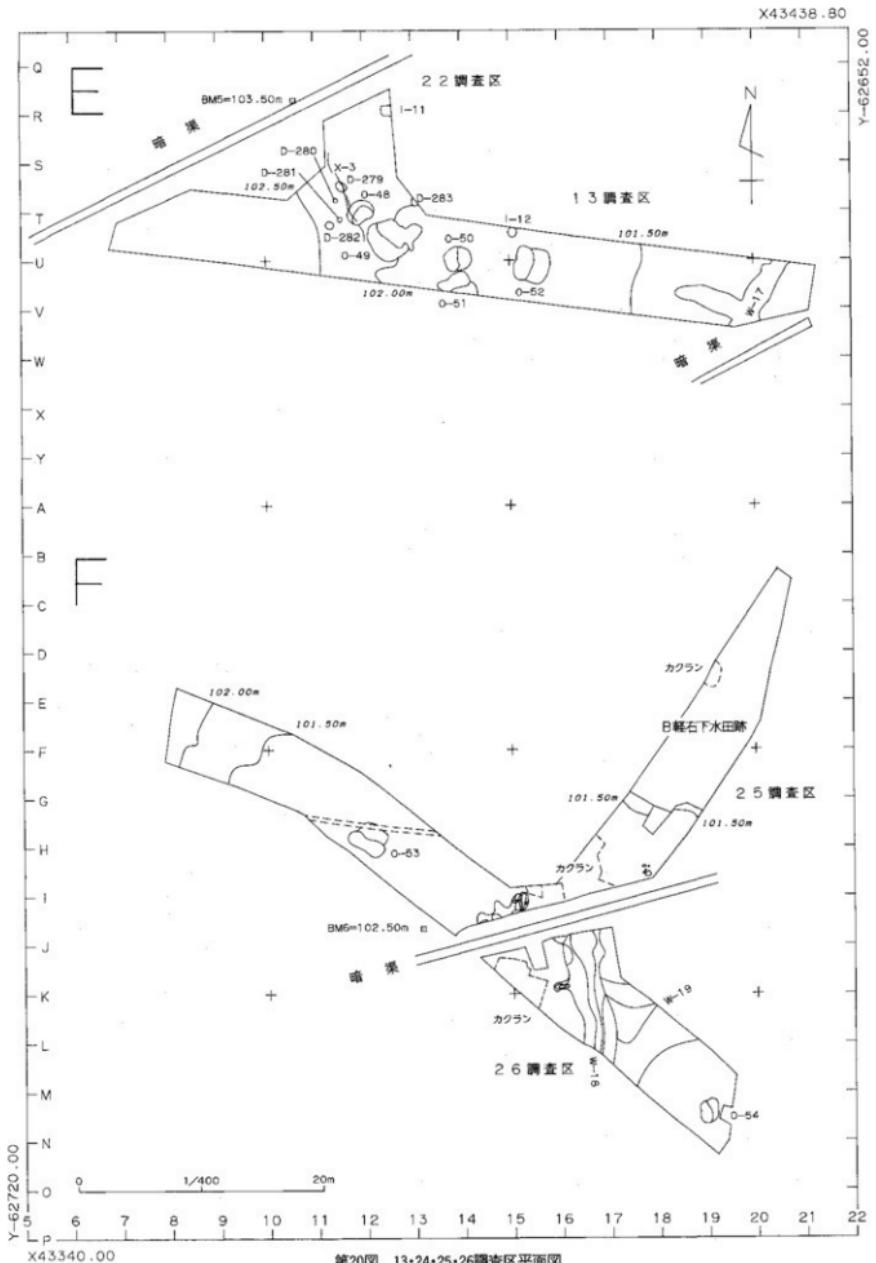
第17図 7・8・17・18・19調査区平面図



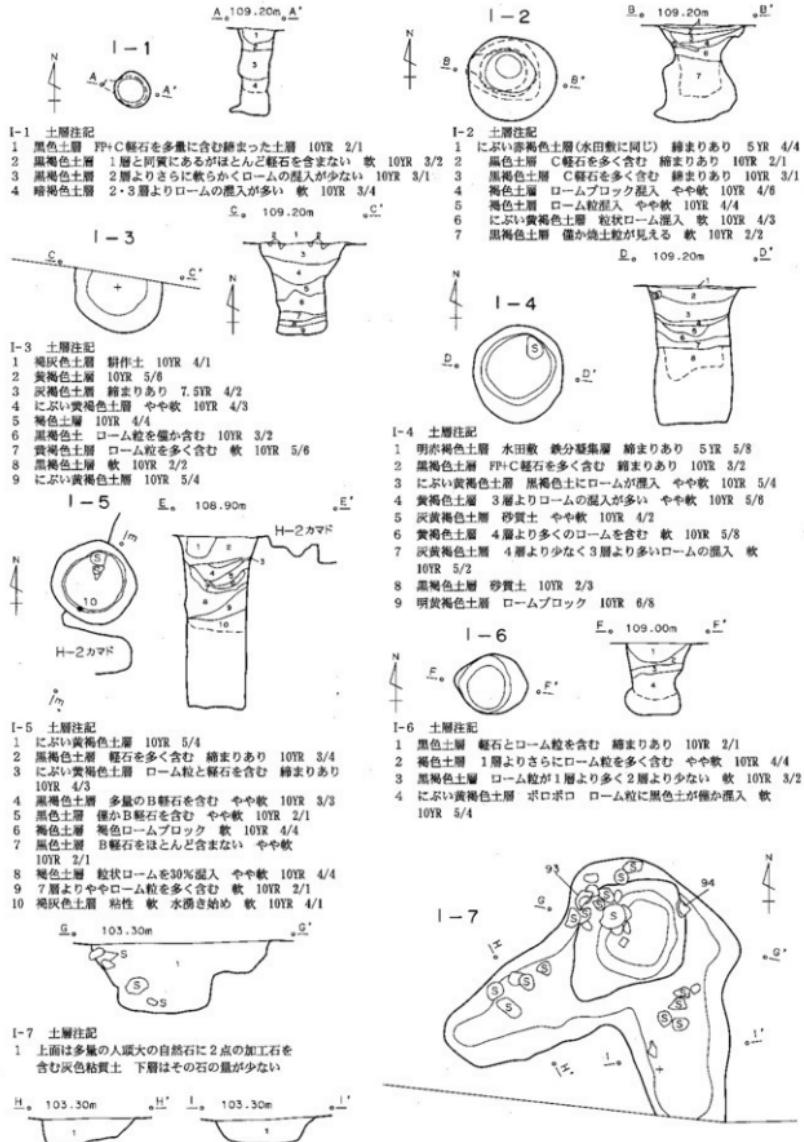
第18図 9・10・19・20・21調査区平面図



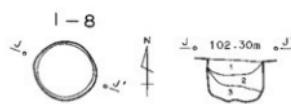
第19図 11・12・22・23・24調査区平面図



第20図 13・24・25・26調査区平面図

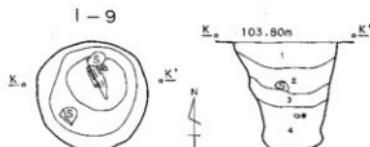


第21図 井戸跡 平面・断面図



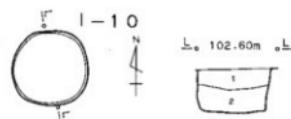
I-8 土層注記

- 1 砂質の黒色土層(2層より灰色を呈す) B軽石を多量に含む
- 2 1層より暗い黒色土層 B軽石を多量に含む
- 3 灰色の火山灰(B軽石に伸びるもの)を含む暗褐色土層(微生物の種類を含む)
- B軽石を多量に含む



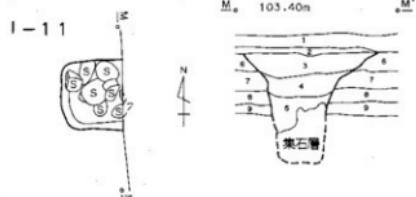
I-9 土層注記

- 1 C軽石を含む黒色土層
- 2 働か軽石とローム粒を含む黒褐色土層
- 3 粘性を持つ軟らかな黒褐色土層
- 4 3層より歓らかな粘性を持つ黒褐色土層



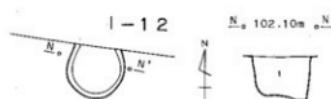
I-10 土層注記

- 1 黒褐色土層(As-C軽石1~2mmを含む)と明黄褐色ロームブロックの混土層
- 2 黒褐色砂質土層 粗砂を含みわずか明黄褐色ロームブロックを含む



I-11 土層注記

- 1 黒褐色土層 農作土
- 2 灰青褐色砂質土層 細砂・粗砂を含みFP軽石3~5mmを所々に含む
10TR 6/2
- 3 にぶい黃褐色砂質土層 細砂・粗砂を多く含みAs-C軽石2~3mmを1%含む
- 4 にぶい黃褐色砂質土層 As-C軽石2~3mmを5%以上含む
- 5 喀褐色土層 細砂を含みAs-C軽石1~2mmを1%以下含む
10TR 3/4
- 6 喀褐色土層 FP軽石3~5mmを1%含む
- 7 黑褐色土層 As-C軽石2~3mmを1%以下含む
- 8 黑褐色土層 微砂層ブロックを含み軽石1~2mmを僅か含む
更貫鑿あり
- 9 黑褐色土層 全体に酸化を帯び暗黒層が全体に見られる



I-12 土層注記

- 1 黑褐色砂質土層 粗砂・粗砂を多く含む(砂質土層)

第22図 井戸跡 平面・断面図

第4表 土坑計測表(1)

土坑No.	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
1	1 深 D-10	AG19	長方形	66	24	24.0	調査区外に延びる 石片
2	-9	GF0・1	梢円	82	74	22.0	〃
3	-8	GG1	円	57	28	9.5	〃
4	-7	B	〃	65	36	14.0	〃
5	-5	GE・GF4	〃	75	47	24.5	〃
6	-4	GE・GF4・5	梢円	139	130	22.5	
7	-3	GF4・5	不定	133	119	40.0	
8	-2	GE8、GF8	〃	123	93	8.5	
9	-1	GE9	長方形	151	85	20.5	砂で固まれた土坑 土筋2 脾器1
10	2 深 D-1	GK6	梢円	60	45	35.0	土剥離3 脾2 漏壺1(秦・平)
11	-3	B	不定	43	17	25	31.0
12	-4	GK7	梢円	54	40	30.5	
13	-5	GL8	〃	65	54	32.0	
14	-6	GK9	〃	55	45	20.5	

第4表 土坑計測表(2)

土坑No	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
15	14調 D-2	GL5	楕円	48	32	18.5	
16	-3	#	#	41	33	13.5	織文土器前期
17	-4	GN3・4	#	41	34	15.0	
18	-5	GN4	円	37	35	20.0	
19	-6	#	#	65	20	55.0	調査区外に延びる
20	-7	#	不定	50	35	17.0	
21	-9	G04	#	130	56 70	34.0	織文土器1
22	-8	#	楕円	114	19 24	20.0	調査区外に延びる
23	-10	#	#	45	41	19.5	
24	-11	G03	#	36	33	26.0	
25	-12	#	#	39	32	15.5	
26	-13	GP3	円	40	39	37.0	
27	-14	#	楕円	50	38	33.0	
28	-15	GG4	#	59	45	35.5	
29	-16	G04・GR3	#	113	105	32.0	土器坏3 壺2 須4 緑釉陶1
30	3調 D-1	AS19	円	35	28	20.0	調査区外に延びる
31	-2	#	#	46	30	35.0	調査区外に延びる
32	-3	AS20	方	44	41	11.5	
33	-4	AS21	円	20	19	9.0	
34	-5	#	長方	18	14	6.0	
35	-6	#	楕円	20	17	11.5	
36	-7	#	#	29	22	17.0	
37	-8	#	三角	39	24	16.0	
38	-9	AS21・22	楕円	48	30	24.5	
39	-10	AT22	#	25	20	10.0	
40	3調 D-11	AS22	楕円	30	25	14.0	
41	-12	AR22	円	69	49	37.5	調査区外に延びる
42	-13	#	楕円	23	20	11.0	
43	-19	AS23	長方	54	48	29.5	
44	-20	AS・AT23	円	30	29	18.5	
45	-22	GT0・1	不定	62 16	26	46.5	調査区外に延びる
46	-23	GT1	半円	41	28	24.5	土器坏底部1 亲良・平安
47	-24	GS3	不定	85	73	51.5	
48	-25	GS4	楕円	41	33	15.5	
49	-26	GS5	不定	44	40	15.0	調査区外に延びる
50	4調 D-1	BC24	楕円	56	50	30.0	
51	-2	#	#	33	31	20.5	
52	-3	BD24	円	47	43	16.0	
53	-4	#	楕円	60	42	15.0	
54	-5	BC24	#	42	32	16.0	
55	-6	BD24、HD0	円	65	63	16.5	
56	-7	HCO	楕円	48	40	19.5	
57	-8	#	円	50	37	24.0	調査区外に延びる
58	-18	#	楕円	36	24	15.0	
59	-9	HD0	円	34	32	13.0	
60	-10	HC・HD0	楕円	65	49	13.0	
61	-11	BE24・HE0	#	95	37 42	35.5	
62	-12	HD3	#	76	46	31.0	
63	-13	#	不正長円	68	37	30.5	
64	-14	HD4	楕円	95	85	30.0	

第4表 土坑計測表(3)

土坑No.	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
65	4調 D-17	HE4・5	不 定	134	70	92	35.0
66	-15	HE5・6	〃	106	80	21.5	
67	-16	HE6	椭 円	68	42	21.5	
68	15調 D-1	BE・BF23	〃	73	67	36.0	
69	-7	BF23	椭 円	96	64	25.0	土壁坏2
70	-2	〃	円	40	38	31.0	
71	-3	BF・BG23	椭 円	47	40	23.0	
72	-4	BG23	円	36	35	21.0	
73	-5	〃	椭 円	43	37	18.5	
74	-6	〃	〃	37	34	36.5	
75	5調 D-22	BL22	円	22	20	5.0	
76	-1	〃	椭 円	54	33	14.0	
77	-2	〃	三 角	41	31	10.0	
78	-3	〃	椭 円	31	26	10.0	
79	5調 D-4	BM22	椭 円	68	45	18.0	
80	-5	BL・BM22	〃	33	29	9.0	
81	-6	BM22	円	31	29	10.0	
82	-7	BM22・23	椭 円	43	40	31.0	
83	-23	BL・BM23	円	36	36	16.0	
84	-8	BM23	不 定	52	24	34	14.0 23.0
85	-9	〃	椭 円	57	36	21.0	
86	-10	〃	円	41	39	18.0	
87	-11	〃	椭 円	43	34	14.0	
88	-17	BN22	〃	42	34	18.0	
89	5調 D-18	BN22	〃	90	44	21.0	
90	-19	BN・BO22	〃	41	22	23.0	
91	-16	BN22・23	〃	48	30	13.0	
92	-12	BM・BN23	円	36	36	11.0	
93	-15	BN23	〃	33	31	32.0	
94	-14	〃	椭 円	20	16	21.0	
95	-13	〃	〃	35	32	11.0	
96	-24	BN24	〃	34	19	11.0	
97	-20	HM1	半 円	43	21	15.0	調査区外に延びる
98	-21	〃	〃	40	27	27.0	〃
99	6調 D-1	BU22	椭 円	64	42	22.0	
100	-2	BU・BV21	正 方	26	25	14.5	
101	-3	BV・BW22	〃	32	30	14.5	
102	-4	BW22	椭 円	39	32	7.0	
103	-6	〃	〃	40	29	7.0	
104	-5	BW22・23	〃	84	70	14.5	
105	7調 D-7	CH24	椭 円	147	136	61.5	調査区外に延びる
106	-1	〃	不 定	175	85	93	13.0
107	-2	CH24・IH0	隅丸長方	232	120	23.0	
108	-3	CH・CI24、IH・II0	〃	165	85	18.5	
109	18調 D-3	CH18、CI18	椭 円	80	58	11.5	
110	-2	CK17	〃	36	31	23.0	調査区外に延びる
111	-1	CK・CL17・18	不 正 円	385	310	10.0	遺物破片2
112	-4	CL18	椭 円	88	50	29.5	
113	8調 D-2	CQ23	不 正 円	112	45	65	15.5
114	-3	CQ16	椭 円	55	40	20.5	調査区外に延びる

第4表 土坑計測表(4)

土坑No	検出位置	グリッド	形 状	長 径	短 径	深 さ	備 考
115	19調 D-8	CR16	円	31	24	14.0	調査区外に延びる
116	-1	CT16	扁丸長方	168	85	38.5	須恵坏体～底余切り 平安
117	-2	CV15	椭 円	140	125	13.0	
118	19調 D-3	CW14・15	椭 円	53	50	22.5	
119	-4	CW15	〃	86	18	15.5	
120	-5	〃	〃	84	71	21.5	縄文土器片1点 石片1点
121	-6	CW14・15	〃	23	17	10.5	
122	-7	CY14	円	30	28	16.5	
123	-9	CY14・15	不正長円	42	27	14.0	
124	9調 D-1	CY・DA22	椭 円	121	90	22.0	調・外須恵坏体～底余切り 平安
125	20調 D-78	DA13・14	〃	56	30	24.5	調査区外に延びる
126	-77	DA14	〃	51	36	22.5	
127	-75	〃	〃	28	26	14.0	
128	20調 D-76	DA14	〃	40	31	13.5	縄文土器前期
129	-73	DA15	不正長円	64	32	20.0	
130	-74	〃	椭 円	53	36	18.5	
131	-66	DB13	〃	51	29	18.5	調・外に延びる縄文土器前期
132	-63	〃	円	22	21	16.0	
133	-62	DB・DC13	不 正 円	78	30	36	6.5 調査区外に延びる
134	-61	DB13・14	扁丸長方	35	22	13.0	
135	-60	〃	椭 円	33	22	13.5	縄文土器前期
136	-64	〃	〃	39	30	14.5	
137	-65	〃	〃	45	36	13.5	
138	-67	DB14	不 正 円	45	37	14.0	
139	-68	DB14	円	23	20	12.0	
140	-59	〃	椭 円	45	25	17.5	
141	-58	〃	〃	41	28	19.0	
142	-57	〃	〃	59	32	24.0	
143	-54	DB・DC14	不 定	93	55	80	26.5
144	-55	DB14	円	30	29	16.0	
145	-56	〃	椭 円	41	18	4.0	
146	-53	DB・DC14	不正長円	110	43	41.0	石片1点
147	-51	DB14・15	椭 円	88	52	30.0	
148	-69	〃	〃	33	26	12.0	
149	-70	〃	〃	44	32	20.0	縄文土器前期黒曜石
150	-72	DA・DB15	不 定	164	46	76	47.0 調査区外に延びる
151	-71	DB15	〃	168	62	68	26.5 縄文土器前期
152	-52	〃	椭 円	27	22	10.0	縄文土器前期
153	-49	DB・DC15	〃	83	47	32.0	調査区外に延びる
154	-48	DC15	不 正 円	34	18	12.0	
155	-47	DC14・15	椭 円	41	25	14.5	縄文土器前期
156	-46	DC14	〃	47	42	16.0	D-45と重複
157	20調 D-45	DC14	不 正 円	85	45	24.0	D-46と重複
158	-50	〃	〃	87	71	25.5	縄文土器前期
159	-41	〃	椭 円	54	32	17.0	
160	-42	〃	〃	43	29	18.5	
161	-43	〃	〃	41	23	13.5	
162	-44	〃	〃	45	30	15.0	
163	-40	DC14・15	不正長円	141	83	59.5	D-164と重複 縄文土器前3
164	-39	〃	円	105	79	28.0	調・外D-163と重複 縄文前6

第4表 土坑計測表(5)

土坑No	検出位置	グリッド	形状	長 径	短 径	深 さ	備 考
165	20調 D-37	DC14	椭 円	54	47	20.5	
166	-38	DC・DD14	不正円円	128	80	58.0	縄文土器 前期
167	-36	DC14	椭 円	33	25	28.5	縄文前7 自然石河原石1
168	-32	〃	〃	40	25	11.5	
169	-33	〃	〃	59	29	10.0	
170	-35	〃	〃	60	41	11.5	
171	-34	DC13・14	T 字	105	37	90	25.5
172	-21	DD13	椭 円	41	33	19.0	
173	-22	〃	円	34	33	15.5	
174	-2	〃	椭丸長方	65	46	19.0	
175	-1	DD14	椭 円	50	40	19.0	
176	-24	DD13・14	〃	70	45	24.5	
177	-23	DD14	円	33	33	18.0	
178	-25	〃	不正長円	78	41	21.0	
179	-31	DC・DD14	不 正 円	54	40	17.0	
180	-30	DD14	椭 円	45	37	18.5	
181	-29	〃	〃	49	31	24.0	
182	-28	DD14・15	〃	76	68	16.0	
183	-26	DD14	不 定	117	90	22.5	
184	-27	〃	椭 円	95	81	33.0	調・外 縄文土器前期
185	-11	DD・DE14	不 正 円	58	49	17.0	
186	-4	〃	椭 円	49	44	22.0	
187	-5	DE14	円	32	30	18.5	
188	-6	〃	椭 円	37	24	16.0	
189	-8	〃	円	24	24	11.5	
190	-9	DE13・14	椭丸長方	40	26	24.0	
191	-10	DE14	椭 円	28	24	16.5	
192	-12	〃	〃	103	93	30.0	
193	-13	DE・DF13・14	〃	187	118	33.0	縄文土器前期 2
194	-14	DE13	不正長円	185	160	34.5	縄文前1 煤付着自然石
195	-66	〃	椭丸長方	46	32	14.0	
196	20調 D-3	DD・DE13	椭 円	44	39	13.0	
197	-7	DE13	不 正 円	71	31	39	16.0
198	-15	〃	〃	71	61	22.5	縄文土器前期
199	-17	DF12・13	椭 円	67	54	29.5	
200	-18	DF12	円	50	46	32.0	
201	-19	DG13	円	67	54	29.5	
202	-20	〃	不 正 円	103	93	22.5	
203	19調 D-15	DH12	椭 円	45	26	24.0	
204	-16	〃	〃	50	43	17.5	
205	-17	〃	円	73	68	18.0	
206	-18	DH13	椭 円	41	26	19.0	
207	-19	〃	〃	86	56	44.0	
208	-13	DI12	不 正 円	230	174	20.0	調査区外に延びる
209	-14	〃	不 定	84	70	21.0	
210	-12	DI・DJ12・13	不正長円	480	30	90	38.5
211	-9	DI・DJ13	椭 円	80	65	12.0	
212	-8	DI13・14	不 定	192	115	42.5	
213	-7	DI14	不 正 円	109	52	71	38.5
214	-6	DH・DI14	椭 円	94	65	35.5	調査区外に延びる

第4表 土坑計測表(6)

土坑No	検出位置	グリッド	形状	長 径	短 径	深 さ	備 考
215	10隅 D-5	DI14・15	楕 円	50	40	32.0	縄文土器 前期
216	-11	DJ12	〃	100	55	29.5	調査区外に延びる
217	-10	DJ12・13	不 正 円	66	50	17.5	〃
218	21隅 D-1	DK12・13	楕 円	73	63	16.5	
219	-2	〃	T 字	215	55 80 158	22.5	
220	-3	DK12	楕丸長方	78	50	20.5	
221	-4	DK・DL11・12	楕 円	56	47	22.0	
222	-5	DK・DL12	不 正 円	134	73	26.0	土築環1 平安
223	-6	DL12	不正長円	73	53	24.0	
224	-7	〃	楕 円	84	57	28.0	
225	-22	〃	不 定	126	60	19.5	
226	-8	DL11	楕 円	52	40	22.5	
227	-9	〃	円	45	43	24.0	
228	-10	DM11	楕 円	197	133	28.5	
229	-11	〃	〃	98	85	29.5	
230	-12	DM・DN11	不 正 円	136	100 122	27.5	
231	-23	DN11	楕 円	42	37	17.5	
232	-14	〃	円	38	36	12.0	
233	-15	DN11	楕 円	50	38	18.0	
234	-24	DN11・12	不 正 円	49	40	22.5	
235	-16	DN11	楕 円	77	57	30.0	
236	-18	DN・DO11	楕丸長方	88	53	22.0	
237	-17	DO11・12	楕 円	67	63	20.0	
238	-19	DO11	不正長円	132	83 109	24.0	
239	-20	〃	楕 円	100	97	41.0	
240	-25	DP・DQ11	〃	100	96	59.0	
241	-26	〃	〃	122	109	40.5	土築環1
242	-32	DQ10	円	64	62	20.5	縄文土器底部 前期
243	-27	DQ11	楕丸長方	77	76 54	15.5	
244	-28	〃	〃	100	60	20.0	
245	-29	DQ11・DR11・12	円	109	36	31.5	調査区外に延びる
246	-30	DQ・DR12	楕 円	42	37	31.0	
247	22隅 D-7	DS・DT10	〃	61	42	22.0	
248	-8	DT10	〃	58	53	20.0	
249	-13	DT11	円	58	57	39.0	
250	-12	DU11	不 定	116	86	56.0	調査区外に延びる
251	-9	DV10	楕 円	36	31	5.0	
252	-10	DW11	〃	77	70	34.5	
253	-11	〃	不 定	105 22	31	28.5	調査区外に延びる
254	-1	DY11	楕 円	56	50	22.0	
255	-2	EA11	〃	64	60	22.0	
256	-3	DY・EA11	不 定	200	57	28.0	
257	-4	EA11	楕 円	64	60	37.0	
258	-5	EB12	不 定	110	77	41.5	
259	-6	EB・EC12	〃	142	68	51.0	
260	11隅 D-3	EB14	楕 円	84	72	38.5	
261	-2	EB・EC14	〃	82	61	36.0	
262	-1	EC14	〃	142	110	37.0	
263	-4	EC14・15	〃	78	44	46.5	
264	-5	EB15	不 定	68 34	36	18.0	

第4表 土坑計測表(7)

土坑No	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
265	11調 D-6	EB16	梢円	90	76	52.0	
266	-7	EC16	不定	110	74	46.0	
267	-9	EC17・18	〃	146	134	35.0	
268	-8	〃	不正円	42	38	19.5	
269	-11	EB・EC19	梢円	288	68	105	17.0
270	23調 D-3	EC10・11	不定	144	48	82	53.5
271	-2	EC11	梢円	87		67	22.5
272	-1	〃	〃	93		83	45.5
273	-5	ED11	不定	220	125	148	39.0
274	23調 D-12	EJ11	梢円	84		65	63.5
275	12調 D-1	EK18	〃	90		76	12.5
276	-2	EL19	〃	47		38	11.0
277	-4	EM21	円	50		47	39.5
278	24調 D-1	EK・EL11	〃	72		70	32.0
279	13調 D-7	ES11	梢円	72		48	16.5
280	-8	〃	円	27		25	11.0
281	-9	ET11	〃	28		27	22.5
282	-10	〃	〃	49		46	17.5
283	-11	ES13	〃	67		37	29.0
							調査区外に延びる

第5表 柱穴計測表(1)

柱穴No	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
1	2調 P-1	GK6	梢円	36	26	33.5	
2	14調 P-1	GL4	不正円	29	26	16.0	
3	-2	GL5	梢円	21	19	26.0	
4	-3	GM4	〃	19	16	20.0	
5	-4	GM3	円	20	18	8.0	
6	-5	〃	不正円	20	17	12.0	
7	-9	GM4	円	27	25	19.5	
8	-6	GP3	梢円	24	22	33.0	
9	-7	GP4	不正円	31	27	22.5	
10	-8	GQ4	不定	(40)	(31)	33.5	調査区外に延びる
11	3調 P-1	AS21	梢円	34	31	45.0	須恵器1片
12	-2	AS22	〃	26	23	9.0	
13	-31	AR22	円	54	52	73.0	
14	-31	AS22	正方	55	52	27.0	
15	-33	AS23	梢円	57	54	64.0	
16	-35	〃	〃	58	54	42.5	
17	-34	AR23	正方	51	24	57.5	調査区外に延びる
18	-7	AR22・23	梢円	24	20	14.5	
19	3調 P-8	AR23	不正円	26	21	39.0	
20	-9	〃	梢円	32	23	21.5	
21	-10	AR23・24	円	18	17	29.0	
22	-11	AS24	〃	26	24	29.0	
23	-6	AS23	〃	30	30	36.5	
24	-28	〃	梢円	41	25	19.0	
25	-3	〃	〃	25	22	16.5	
26	-4	〃	〃	25	21	15.5	
27	-5	AS・AT23	円	19	18	8.5	

第5表 柱穴計測表(2)

柱穴No	検出位置	グリッド	形状	長 径	短 径	深 さ	備 考
28	3調 P-12	AS24	円	20	18	24.5	
29	-13	II	楕 円	38	36	34.5	
30	-14	II	II	23	18	10.0	
31	-15	II	II	32	24	13.0	
32	-16	AT24	II	33	24	9.0	
33	-17	GS0	II	22	17	21.5	
34	-18	II	II	28	22	13.5	
35	-19	II	円	19	18	14.0	
36	-20	II	楕 円	19	16	7.0	
37	-21	II	II	16	12	19.0	
38	-22	II	円	12	11	12.5	
39	-23	GT0	不 正 円	23	20	14.0	
40	-24	GT5	楕 円	24	20	18.0	
41	-25	GT6	II	31	29	18.0	
42	-29	II	II	34	30	11.0	
43	-30	II	円	27	26	8.5	
44	-26	GU5	楕 円	18	18	30.0	調査区外に延びる
45	-27	II	II	19	12	20.0	
46	5調 P-1	BO22	II	39	24	45.0	
47	-2	II	不 正 円	40	29	66.0	
48	16調 P-1	BR22	円	28	12	16.0	調査区外に延びる
49	18調 P-1	CK18	楕 円	32	26	12.0	
50	8調 P-1	CQ22	II	33	26	17.5	
51	-2	II	II	32	22	14.0	
52	19調 P-1	CS16	不 正 円	120	85	39.5	
53	-2	II	II	125	95	83.5	
54	20調 P-3	DA15	楕 円	23	16	13.5	
55	-4	II	II	19	17	9.5	
56	-2	DD13	II	21	13	6.5	
57	-1	DH13	II	26	14	22.5	
58	10調 P-2	DH12	不 正 円	32	28	28.0	
59	-3	DH13	円	25	22	27.0	
60	-4	II	II	16	14	21.0	
61	-1	DH13	II	23	20	17.0	
62	22調 P-1	DS10	不 正 円	28	26	28.0	
63	-29	II	II	23	16	5.5	
64	-3	II	方	21	14	33.5	
65	-2	DS11	円	36	32	52.5	調査区外に延びる
66	-5	II	楕 円	28	24	64.0	
67	-6	II	II	25	17	17.0	
68	-4	DT10	II	27	24	54.0	
69	-7	II	II	32	27	20.0	
70	-8	II	不 正 円	32	27	27.5	
71	-32	II	楕 円	21	13	5.0	
72	-12	II	円	26	24	26.5	
73	-11	II	楕 円	27	20	33.5	
74	-10	DT11	II	26	19	17.5	
75	-9	II	円	18	17	10.0	
76	15調 P-30	DS・DT11	不 正 円	17	15	8.5	
77	-31	DT11	II	19	16	8.0	

第5表 柱穴計測表(3)

柱穴No	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
78	15箇 P-33	DT11	不正円	22	19	8.5	
79	22箇 P-13	〃	〃	19	16	32.0	
80	-14	DU10・11	円	23	21	16.5	
81	-15	〃	椭円	32	21	16.0	
82	-16	〃	〃	44	18	22.5	
83	5箇 P-17	DU10	円	20	20	46.5	
84	-18	〃	不正円	25	21	6.5	
85	-19	〃	円	21	20	19.5	
86	-20	DV11	椭円	17.5	12	16.0	
87	-21	DU10	円	19	17	12.0	
88	-22	DU11	不正円	25	21	27.5	
89	-23	DV10	〃	19	19	18.0	
90	-24	〃	椭円	29	20	14.0	
91	-25	〃	〃	16	11	19.0	
92	-35	〃	〃	17	13	8.5	
93	-34	DV11	〃	23	20	12.5	
94	-26	〃	円	10	9	18.5	
95	-27	DW10	椭円	34	(25)	23.5	
96	-28	〃	円	20	(10)	3.0	

第6表 風倒木痕計測表(1)

風倒木No	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
1	2箇 O-1	GK4	不定	190	115	—	調査区外に延びる
2	-2	GJ・GK5	〃	250	196	—	〃
3	-3	GK6	〃	144	116	39.0	
4	3箇 O-1	GT6	不正円	288	140	72.0	調査区外に延びる
5	4箇 O-1	HD0・1	不定	376	130	255	71.5
6	5箇 O-1	BL・BM22・23	〃	260	205	—	D-7と重複
7	-2	HN・HO5	〃	300	195	—	
8	-3	HN6	〃	160	130	—	調査区外に延びる
9	6箇 O-1	BW24、HW0	不正円	280	164	106.5	調査区外に延びる
10	-2	HW・HX2・3	不定	280	205	66.0	
11	7箇 O-1	IH0、II0・1	〃	223	215	46.0	
12	-2	IH・II3	〃	241	210	58.0	
13	8箇 O-1	CP・CQ22	〃	190	160	46.5	調査区外に延びる
14	-2	CR22・23	不正円	315	80	89.5	〃
15	19箇 O-1	CT15・16	不定	360	150	80.0	〃
16	-2	CX・CY14・15	〃	340	290	—	〃
17	9箇 O-1	DB22・23	不正円	286	127	83.5	〃
18	-2	CY・DA・DB19・20	不定	550	450	—	調・外 繩文土器 前期1片
19	-3	CA18・19	〃	375	250	112.0	調・外 繩文 前期1片 石8片(石斧)
20	-4	DA・DB24、JA・JB0	〃	310	220	—	
21	10箇 O-1	DI・DJ19	〃	216	195	54.0	
22	-2	DI・DJ21	不正円	220	110	55.5	調査区外に延びる
23	-3	DJ20	不定	275	200	55.5	
24	-4	DI16・17	〃	230	278	122.0	調・外 繩文土器 前期3片 石3片
25	21箇 O-1	DL・DM11・12	〃	540	350	112.5	
26	-2	DN・DO10・11	〃	253	210	68.5	D-18と重複
27	-3	DQ10・11	〃	310	190	100.0	調査区外に延びる
28	22箇 O-1	DS10・11	不正円	95	34	—	調査区外に延びる

第6表 風倒木痕跡測定表(2)

風倒木No	検出位置	グリッド	形状	長径	短径	深さ	備考
29	22調 O-2	DS・DT11	不正長円	345	135	—	調査区外に延びる
30	-3	DS・DT10・11	長円	385	280	—	
31	-4	DU・DV11	不正長円	300	285	19.0	調査区外に延びる 井戸1と重複
32	11調 O-1	EC14・15	不定	334	233	106.0	調査区外に延びる
33	-2	EC・ED19・20	II	500	80 225	52.0	II
34	23調 O-1	EB・EC11	II	338	130 225	—	
35	-2	EB・EC10・11	II	310	133 244	83.0	調査区外に延びる
36	-3	EC・ED10・11	II	237	180 190	58.5	土坑2と重複
37	-4	ED・EE10・11	II	415	115 335	105.0	調査区外に延びる
38	-5	EE・EF11・12	不正長円	500	220 305	80.5	II
39	-6	EF・EG10・11	不定	405	190	35.0	II
40	-7	EF・EG11・12	II	430	143 224	130.0	調査区外に延びる
41	-8	EII10・11, EI11	II	420	115 235	42.5	II
42	12調 O-1	EL・EM20・21	II	225	131 224	17.0	II
43	-2	EL22・EM21・22	II	330	163	—	II
44	24調 O-1	EK12・EL11・12	II	430	350	64.0	
45	-2	EM・EN11・12	II	300	284	55.0	
46	-3	EN・EO11	II	400	85 145 200	96.0	調査区外に延びる
47	-4	EN・EO11・12	II	420	270	47.5	II
48	13調 O-1	ES・ET11・12	II	230	185	52.0	
49	-2	ET12・13, EU12	II	440	320	55.5	
50	-4	ET・EU13・14	II	230	206	53.0	
51	-5	EU13・14	II	338	182	45.0	調査区外に延びる
52	-3	ET・EU15	II	296	275	16.0	
53	26調 O-1	FG・FH11・12	II	275	240	53.0	
54	-2	FM15・19	II	188	140	—	

第7表 遺構外の遺物観察表(1) 中近世鉢・陶器・擂鉢

注: 法量は①口径 ②底径 ③断面最大径 ④腹部周長 ⑤高さ ⑥長さ ⑦幅 ⑧厚み ⑨穿孔 ⑩重量 (⑪~⑭cm, ⑮g) ()は推定値及び残存高を示す
39~34は腐食 (37貫) に記載 65~68は壇と壙の印

No	出土位置	器種	法量 及び 特徴	No	出土位置	器種	法量 及び 特徴
69	調査区 深鉢	盆(①12.6 ②8.8 ③(4.7)厚手 内面僅か底有り	83 調査区 摘鉢	④(34.0)⑤(5.61.9cm内に 6本の櫛目			
70	8調査区 鉢	盆(①14.2 ②⑧(10.8) ⑤(5.1) 体部横縫底部貼付	84 26調査区 摘鉢	⑥(38.0)⑦(4.6) 2.8cm内に10本の櫛目			
71	13調査区 鉢	鉢(①19.0 ②(6.4)⑧ 1.1 用途不明 口縫内側屈曲	85 7調査区 摘鉢	⑧(28.0)⑨(5.51.3cm内に1本の櫛目			
72	13調査区 鉢	盆(①30.4)②(8.0)③ 1.3 Na71より厚手 貫穿陶器	86 7調査区 摘鉢	⑩(38.0)⑪(3.4)⑫(0.4 口縫は内側に曲がる			
73	3調査区 3口片	口片(①27.8)②(16.0)③(9.9)吹き陶器 2/3施淡	87 8調査区 摘鉢	⑬(29.2)⑭(10.5) 4 cm内に1本の櫛目 滂部系切			
74	8調査区 18mm	盆(①23.8)②(4.3)火鉢の台座と思われる	91 9調査区 口羽	⑯(17.4)⑦(10.8)⑧(1.6~5.5)⑩(2.120 浅瀬の火山陶			
75	7調査区 16mm	盆(①26.0)②(6.6)火鉢の台座と思われる	92 7調査区 壁片	⑪(8.0)⑫(9.4)⑬(7.3) 160 角閃石安山岩			
76	7調査区 摘鉢	盆(①34.0 ②(5.2)口片状の縫に「会」字則有り 10本	93 12調 I-1 玉串	⑯(水大)⑦(28.6)⑧(13.3)⑨(14.0)65.000 角閃石安山岩			
77	6調査区 摘鉢	盆(①38.0 ②(4.5)7本単位の櫛目	94 12調 I-1 石臼	⑩(31.5)⑪(9.9~11.2)⑫(3.000) 刃部1.6~2.0 1/4 弓			
78	8調査区 摘鉢	盆(①36.0)②(10.5)7本単位の櫛目	95 20調北 W壁片	⑯(4.9)⑦(7.7~3.0)⑧(1.6)⑨(18.3) 热板岩 2面使用			
79	8調査区 摘鉢	盆(①27.0)②(7.5)20~25本単位の細かな櫛目	96 8調査区 砕石	⑯(10.5)⑦(2.6~3.1)⑧(1.0)100 砕灰岩 1面使用			
80	13調査区 摘鉢	盆(①32.0)②(7.3)6本単位の櫛目 口縫割れ	97 26調査区 砕石	⑯(12.8)⑦(5.0)⑧(0.8~1.5)⑩(1.4) 砕灰岩 侧面に朱			
81	13調査区 摘鉢	盆(①34.0)②(6.6)9.6cm内に4本単位の櫛目	98 9調査区 砕石	⑯(9.8)⑦(2.5~3.3)⑧(1.8~2.2)⑩(100 砕灰岩			
82	8調査区 摘鉢	盆(①32.0)②(7.3)1.3cm内に6本単位の櫛目	99 9調査区 砕石	⑯(11.2)⑦(1.4~3.4)⑧(2.0~2.3)⑩(120 砕灰岩			

第7表 遺構外の遺物観察表(2) 瓦塔と須恵器

注: 法量は①口径 ②底径 ③断面最大径 ④腹部周長 ⑤高さ ⑥長さ ⑦幅 ⑧厚み ⑨穿孔 ⑩重量 (⑪~⑭cm, ⑮g) ()は推定値及び残存高を示す

No	出土位置	器種	法量	胎土	焼成	色調	特徴	遺存
88	69調 FI-16グ	瓦塔	⑬(6.5)⑭(4.6)	砂粒	良	SYR5/8	一枚の丸瓦の長さ表現は4.2cm 脊先の粗粒は削削りで表現して いる 酸化灰 内外面赤色	破片
89	69調 FI-16グ	瓦塔	⑬(5.9)⑭(6.5)	砂粒	やや	SYR6/4	一枚の丸瓦の長さは2.4~2.8cm 脊先瓦2段目までの反りを表現 する 外面良く丸く擦れ 瓦芯を荒削りと見限りて表現 酸化灰	破片
90	9調 FI	須恵器 环	⑬(12.0)⑭(2.5)5.0	粗粒	良	10Y5/1	端面に白色の粗粒(黄土) 底面回転式切り模様 内外面黒	完

第7表 遺構外の遺物観察表(3) 石器及び繩文土器

No	出土位置	器種	法量		特徴
100	9調 DA-18N619	凹基無茎碗	⑬(1.9)⑭(1.4)⑮0.30~0.69		黒色安山岩 先端部及基部欠損
101	9調 DA-17N624	凹基無茎碗	⑬(2.9)⑭(2.0)⑮0.3~0.72~0.24		黒色頁岩 やや膜めで厚さもある 基部欠損
102	11調 №13	凹基無茎碗	⑬(1.9)⑭(1.3)⑮0.1~0.3~0.69		黒色安山岩 やや細部の三角形 基部欠損
103	15調	凹基無茎碗	⑬(2.2)⑭(1.4)⑮0.2~0.25~0.60		青灰色チャート 長めでやや大型で底部のみも深めである 基部の片割が欠損

No.	出土位置	器種	法 量	特 徴
104	20調D-77	凹基無茎鏡	⑥ 1.8 ①(1.6)③0.2④0.64	黒色チャート丸底のあるハート形で溝部の片側が欠損
105	26調FK-17Ne3	平基無茎鏡	② 2.3 ⑦ 1.3 ⑥ 0.3~0.4⑥0.96	青灰色チャート縁身で形がよく似ている ほぼ完
106	13調東端沟石	骨 箕	⑥(5.2)②(1.6)③0.2~0.8⑨7.10	黒色貢石 縁部 基部は平
107	26調	凹基無茎鏡	⑥(2.7)②(1.7)⑤0.3⑥1.62	青灰色チャート 先端と基部欠損
108	9調 CY-19Nq7	凹基無茎鏡	② 2.25 ⑦ 1.7 ⑥ 0.2~0.5⑥0.91	青黑色チャート やや長め 先端が鋭く尖っている 基部の窪みが深い 肉厚な鉋形
109	5調 HN-17Nq1	有茎 鏊	⑥ 2.7 ⑦ 1.6 ⑥ 0.4⑥1.37	黒色安山岩 後期 完形
110	9調 CY-19Nq2	凹基無茎鏡	⑥ 1.6 ①(1.1)⑥0.3⑨0.21	黒曜石(長野県産) 基部の片側が欠損
111	20調 Pit3	細 石 刃	⑥ 1.3 ⑦ 0.5 ⑨0.1~0.2⑨0.16	真岩 ナイフ型 ほぼ完
112	13調	打製石 矛	⑥(1.4)⑦5.8~8.0⑧1.3~1.9⑩2.40	真岩 自然面を特分断形石矛 完形
113	12調 I-1	打製石 矛	⑥ 9.9⑦3.3~4.8⑧1.9~1.4⑨76.08	黒色真岩 自然面の残っている側が磨耗 短形 刃形
114	7調	打製石 矛	⑥(6.7)⑦3.5~4.2⑧1.0~1.9⑨54.99	黒色真岩 縫彫刻 刃端の棱線が僅か磨耗 約1/2残
115	20調 北側溝	分断形石矛	⑥ 6.4⑦3.2~5.4⑧1.9~1.6⑨73.15	黒色真岩 小字で片割は自然面 沖縄部は丁寧な鉋形 刃部には小削離がない
116	7調	打製石 矛	⑥(1.5)⑦3.4~5.7⑧1.5~2.4⑨180	黒色安山岩 やや縫合で表面に近い分断形 完形
117	7調	打製石 磬	⑥(4.7)⑦5.6~8.8⑧2.2~4.8⑨550	黒色安山岩 未完成品(石跡)
118	CG-18Nq3	銅 片 石 破	⑥(10.3)⑦3.1~4.8⑧30.0~1.0⑨43.89	黒色真岩 縫長制片石磬
119	9調 DA-19 No.2・12	深 鎚	①(2.4)②3.5③25.95④(25.0) 粗砂 粒 5YTR7/4によい椎	口縁部で僅かに擦耗するが残る外面部から胸部にかけて全面に 纏文を施す 内面部は輪模み孔を振り消す 修補孔(直径0.25cm)2穴有り

第7表 遺構外の遺物観察表(4) 織文土器・その他の遺物

注: 法量①口径 ②底径 ③側底径 ④頸部 ⑤高さ ⑥長さ ⑦幅 ⑧厚み ⑨穿孔 ⑩重量 ⑪⑫~⑯cm、⑰g ()は推定値及び残存部を示す

No.	出土位置	胎土焼成	法量及び形態の特徴	No.	出土位置	胎土 焼成	法量及び形態の特徴
120	2調 D-36	粗砂 良	口縁内側に巻き込み 羽状縞 文織痕 両期	166	DC-14'g	砂粒 9号	深鉢 口縁に平行弦線 内面擦 痕 a
121	15調査区	粗砂 良	深鉢の頂上部 幽漫状の平敏竹管文 織a	167	DD-14'g	砂粒 良	深鉢側部 外腹平行弦線 内面丁寧な擦 痕 b
122	DA-19'g	砂粒 中等	胸下平部 内面縫合 粗かく斷れる 前期	168	DE-13'g	砂粒 良	深鉢 美文施文後木綿文 内面丁寧な擦 痕 a
123	DA-19'g	砂粒 良	羽状縞文を呈する 縫織痕 前期	169	DG-26'g	砂粒 9号	深鉢 美文施文後そのボタルニヤ駄馬付 跡 c
124	DA-10'g	砂粒 中等	深鉢側部 羽状縞文 内面擦 前期	170	26調去区	砂粒 9号	深鉢 平行比較下方は織文 内面擦 跡 b
125	DA-16'g	砂粒 良	薄 長石が目立つ 羽状縞文 絡痕後 前期	171	3調東刺	砂粒 良	深鉢 鷺文施文後平行弦線 内面擦 跡 b
126	18調去区 No.3	砂粒 良	薄 狩子 保付着 肩上平に平行弦線 内面擦 前期	172	DB-14'g	砂粒 9号	深鉢 下部に斜方向平行弦線 内面割れ 跡 b
127	DB-14'g	砂粒 良	深鉢 羽状縞文 粗砂混入 内面擦 前期	173	2調去区	砂粒 良	深鉢側部 組立平行弦線文 内面織 痕 c
128	DG-B34'g	細砂 良	深鉢底部前後 縫織痕 二次焼成 前期	174	10調去区	砂粒 良	深鉢側部 半截玉管 木綿文 三角形 跡 b
129	DA-18'g	砂粒 良	胸部 細かな纏文 繩積の起伏が分かる 前期	175	8調去区	砂粒 9号	平行弦線 文織 痕 平行斜線 形目 跡 b
130	DA-19'g	細砂 中等	深鉢の胸中段に細縞文 前期	176	5調去区	砂粒 良	口縁に4~6本の平行弦線 繩積 跡 b
131	DB-14'g	細砂 良	胎土に長石と寶母の微鉢が見られる 前期	177	6号第	砂粒 良	深鉢側部 平行弦線による山形文 跡 b
132	21調査区	粗砂 良	浅鉢口縫付近 縫横擦下部に纏文施文 前期	178	7号溝	砂粒 良	深鉢口縫付 平行弦線 折被付纏文 跡 b
133	DC-14'g	粗砂 良	深鉢 羽状縞文 内面丁寧な縫合 縫痕 前期	179	11D-14'	砂粒 9号	深鉢側部 組立平行弦線文 内面織 痕 c
134	DA-17'g	砂粒 良	深鉢胸上半部 縫織 羽状縞文 施文 前期	180	4調査区	砂粒 良	深鉢側部 斜方向の平行弦線施文 内面擦 跡 b
135	DB-15'g	砂粒 良	深鉢の胸付近 内面に纏組痕 内面擦 前期	181	14D-7'g	砂粒 良	深鉢側部 平行弦線 形目に木綿文 痕 a
136	DD-14'g	粗砂 緩張	薄子の深鉢 羽状縞 文面や疊なる飾 前期	182	14調去区 G-41	砂粒 良	深鉢側部 平行弦線と円形刺突文 痕 c
137	DA-16'g	粗砂 良	深鉢平底付 口縁附近 外腹縫合 内面織 痕 前期	183	10調 D-39'	砂粒 良	深鉢の下部半部 縫なまし施文 痕 c
138	DA-16'g	砂粒 缓張	やや小ささの深鉢の底部 細かな纏文 前期	184	DA-18'g	砂粒 良	深鉢の側部 平行弦線細かな斜目 典典
139	9号溝	砂粒 缓張	深鉢胸上半部 平行弦線 下部に織文 跡 b	185	19調 CX-15	砂粒 良	口縁附近 平行弦線と連続山形文 鏡星屋
140	19調査区	細砂 良	深鉢胸下部 内面縫合多岐複数 前期	186	7調査区	砂粒 9号	深鉢側部 地面に纏文 付纏文 大木5
141	DA-16'g	砂粒 良	深鉢胸下部 平面上に纏組痕 内面擦 前期	187	22調W-10'	砂粒 良	胸の下部 麻呑口 織文 縫横痕 加曾利E系
142	7調査区	粗砂 緩張	深鉢の胸上部 羽状縞 文面や疊なる飾 前期	188	11調査区	砂粒 良	沙場の中に纏文その他の擦加曾利E系
143	9調査区	微砂 良	深鉢の胸下半部 細い 羽状縞 文外縫合 繩痕 前期	189	11調査区	砂粒 9号	地紋に纏文その他の擦加曾利E系
144	20調 D-38	砂粒 良	細かな羽状縞文 中央結節に 内面擦 前期	190	11調査区	砂粒 良	深鉢の縫合部 縫縫縫 縫縫下に織文施文 加曾利E系
145	20調 D-38	砂粒 緩張	細縫縫 羽状縞文 平面縫合丁寧な擦 前期	191	DA-11'g	砂粒 良	平行弦線による精巧形の擦 平行弦線 加曾利E系
146	19調査区	砂粒 良	細かな羽状縞文の上下に細筋文 疙瘩痕 前期	192	16D-14'g	砂粒 良	縫合縫 織文施文後擦系 下部に圓形 阿玉
147	9号溝	砂粒 良	外縁の縫文は斜れて不明 内面擦 前期	193	DD-11'g	砂粒 良	縫合 縫工具により絞方向の区画 加曾利E系
148	19調査区	砂粒 良	細かな纏文 疙瘩痕 平底と腰の接合部 内面擦 前期	194	I調査区	砂粒 良	縫合縫 織縫縫 加曾利 E系
149	20調 D-38	粗砂 良	縫縫文 施文縫縫附近に細縫縫を露す 前期	195	11調査区	砂粒 9号	地紋に纏文 画面摩耗 加曾利 E系
150	7号溝	砂粒 良	粗い 羽状縞文 薄い保付着 内面擦 前期	196	8調去区	砂粒 良	深鉢下半部 地紋に縫文 内面擦 加曾利 E系
151	7号溝	粗砂 良	保付着 縫縫の施文具縫 2.8cm 平面擦 前期	197	DA-16'g	砂粒 良	深鉢口縫 細縫縫 細縫下に縫縫地紋に纏文 加曾利 E系
152	HN-0'g	細砂 良	閉口部に半管状による平行弦線 文織 痕 a	198	DB-14'g	砂粒 良	横縫縫口縫下に縫縫地紋に纏文 加曾利 E系
153	26調査区	砂粒 良	胸から口縫に向かって大きくなくて深い 疙瘩痕 跡 b	199	DB-15'g	砂粒 良	口縫際は厚手 平行弦線 疙瘩 疙瘩 線目 加曾利 E系
154	26調査区	砂粒 良	平行弦線文と捺竹管文 内面丁寧な擦 跡 b	200	DD-10'g	砂粒 良	縫合 口縫貼付 内面織な擦 19號と同一縫合
155	15調 D-1	砂粒 缓張	細かな半管竹管 文二舟へ一葉文 内面擦 跡 a	201	DA-19'g	砂粒 良	深鉢側部 耳一部に纏文有 内面擦 加曾利 E系
156	7号溝	微砂 良	厚子の深鉢 竹管による木葉文 内面擦 跡 a	202	11調査区	砂粒 9号	台付の深鉢底部 指擦痕有 時時不明
157	CK-19'g	砂粒 緩張	口縫附近 細かな縫文を半管竹管で区画 跡 a	203	3調 I-3	砂粒 良	須恵器 大腹鉢 外面刷毛状工具痕 内面擦
158	20調査区	砂粒 中等	縫縫の平行弦線施文後竹管による円文 跡 c	204	3調 I-3	砂粒 良	須恵器 大腹鉢 外面刷毛状工具痕 内面擦
159	19調査区	砂粒 良	深鉢口縫 外面竹管文 内面擦な擦 跡 b	205	7調査区	砂粒 良	丸型の面が細縫縫 丸型の面に擦加曾利E系
160	19調査区	砂粒 良	深鉢口縫 外面竹管文 内面擦な擦 跡 a	206	26調査区	砂粒 細縫	砂粒 細縫 文織 丸形の縫縫に上立上部に直線に曲る
161	7調査区	砂粒 良	深鉢胸中位 縫文に縫文 内面擦 跡 a	207	8調査区	砂粒 せん	敷設地裏に縫縫 加曾利E系
162	11D-14'g	砂粒 緩張	小形の深鉢胸中位 平行弦線と縫縫 文織 跡 a	208	7調査区	砂粒 良	敷設地裏 口縫に2本の弦縫地縫は唐草文
163	20調 D-39	砂粒 良	D-40と摺合した縫縫の深鉢 平行弦線と円文 跡 a	209	8調査区	砂粒 せん	元舟通賣 元符年間 西暦1098年中國鏡 (0.6.12)
164	CM-23'g	砂粒 良	深鉢胸上半部 平行弦線 文織 跡 a	210	21調査区	砂粒 せん	明治10年 銭銅貨 (0.6.75)
165	17調査区	砂粒 中等	深鉢胸上半部 上下端に半管竹管施文 有尾				

前項の溝は、この地割れに沿って洪水の時様々な方向に流れた為に起きた現象と考えるのが妥当と思われる。地割れの時期は、FP 軽石を含んだ黒色土が地割れの中に入っていること、As-B 軽石の混入は見られないこと等から前橋市東部地区に見られる弘仁九年（818）の泥流の起きたときの地割れの可能性が考えられる。

11. FP 面の溝・土坑について

- ① CW-14～DA-19グリッド北西から南東方向に向かう溝。ソフトローム面に竪穴列が確認された。
- ② DA-15～DC-14グリッド北から南方向の溝。
- ③ DI-12～DI-19グリッド西から東方向の溝、DI-12～15グリッドでソフトローム面に達する竪穴列が確認された。
- ④ DI-20～DK-19グリッド北から南方向に向かう溝。
- ⑤ DI～DK-20グリッド北から南へ向かう溝。
- ⑥ DJ-24～DJ-21グリッド東から西へ向かう溝。
- ⑦ DJ・DK-24グリッド北から南へ向かう溝
- ⑧ JJ～JK-0 グリッド北から南へ向かう溝が確認された。

④⑤の溝からは土師器と須恵器の破片が出土しているが、磨耗しているものであった。この様に北から南、西から東方向に流れるのが地形の条件から自然と思われるが、時に東から西へ流れる例もある。

FP 面で 7ヶ所の土坑が確認された。D-1・2 はしっかりした掘り方であったが遺物も出土しないので時期不明。D-3・4 はいわゆる芋穴かと思われる。D-5・6 は形のうえから土坑としてのプランを持つが遺物もなく土層的にも時期を決める要素に欠ける。D-7 は FP 堆積後の土坑であり遺物の出土から 9C 前半以降の土坑と考えられる。

12. グリッド出土の遺物

(1) 旧石器時代

本遺跡では縄文時代前期の土器片と石器の剝片が検出され、上武国道建設に伴う遺跡調査では旧石器時代の遺物が出土しており、本遺跡でもローム堆積状況の良好な場所を選び、旧石器時代の遺構遺物の検出が予想される 10ヶ所のグリッド (DH-23, CI-18, CJ-18, CM-17, CN-17, CO-17, CV-15, CX-14・15, DG-12・13, CY・DA-17) を設定し、暗色帯上面まで調査を行った。その結果、7 調査区 OH-23グリッド北壁と大溝の側面と底に大きな安山岩が転在し、17 調査区 大溝左岸（側面）、11 調査区 北壁、25・26 調査区の溝底と 25・26 調査区の交差点付近から大きな安山岩が出土した。また 18 調査区 CN-17グリッドでは拳大から人頭大の礫（赤城山の安山岩）が集中して出土した。これらの安山岩は赤城山を供給源とするやや赤味を帯びた安山岩である。縄文時代前期の土器や剝片を検出した。

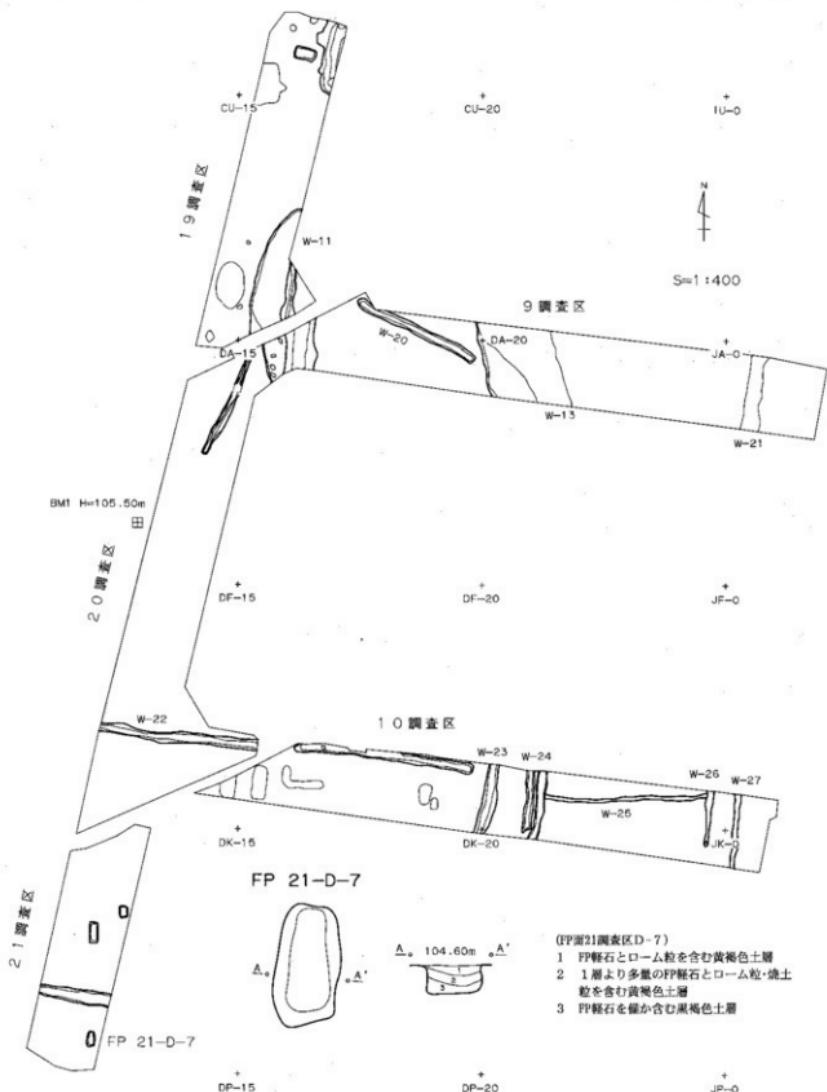
CI-18, CJ-18 グリッドから縄文時代前期の土器片と石片が出土したが、旧石器制作跡（ユニット）と思われる状況は確認できなかった。各グリッドの出土遺物は第 7 表のとおりである。

第 8 表 旧石器確認調査グリッド別遺物表

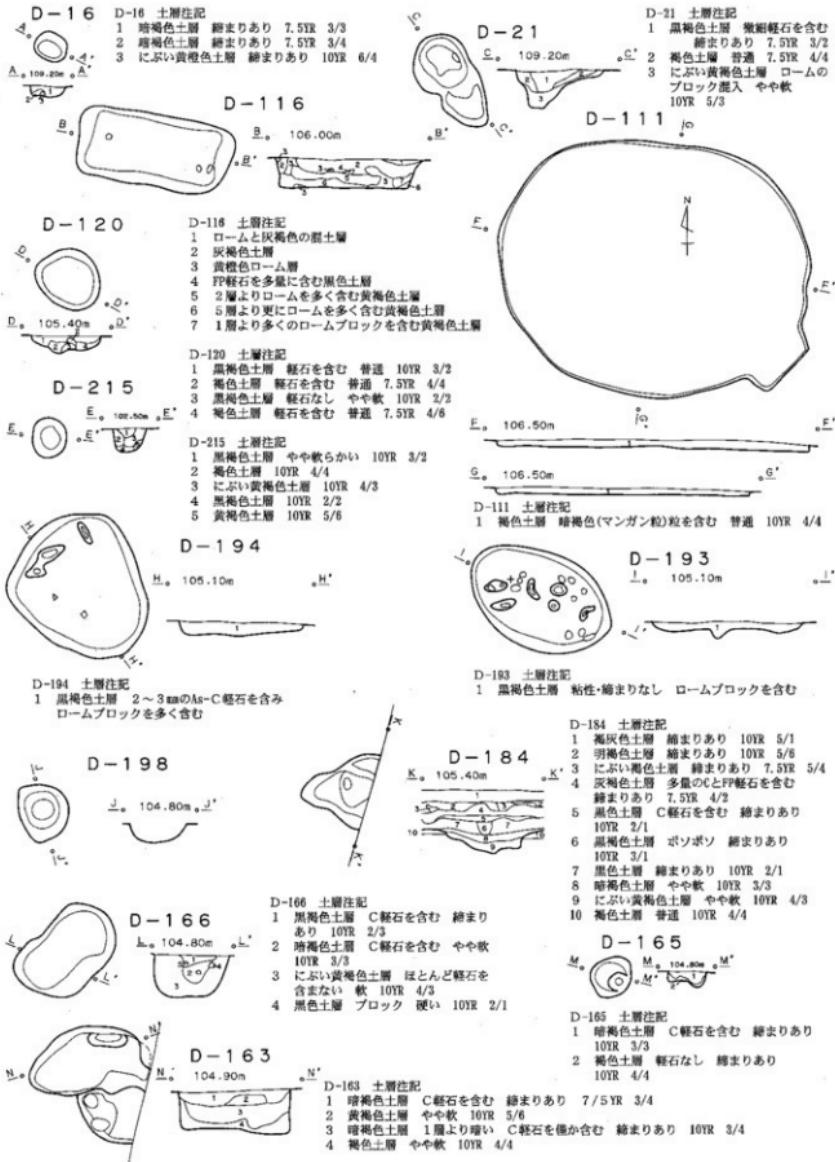
実測図 No.119 は CY・DA-17グリッドから出土

調査グリッド	黒曜石	チャート	石片	縄文土器	合計	調査グリッド	黒曜石	チャート	石片	縄文土器	合計
CH-23			6	2	8	CO-17	自然石（赤城山を供給源とする安山岩）				
CI-18	2	1	14	3	20	CV-15			1	1	2
CJ-18	1	1	15	2	19	CX-14・15			1	8	9
CM-17						DG-12・13				9	9
CN-17						CY・DA-17	1	2	12	33	48

FP面遺構平面図



第23図 FP面の溝と土坑 平面・断面図



第24図 土坑 平面・断面図



第25図 土坑 平面・断面図

(2) 繩文時代 土器・石器

堤沼下遺跡では縄文時代の土器片が574点出土した。この内前期（黒浜式344点・諸磯式110点）のものが454点で80%を占め、その他東北系統のもの、茨城系統のものが20%を占める。中期のものは22点で4%に満たない。今回の調査では土坑に伴う縄文式土器が43点、7%であった。9調査区 CY-17~24、DA-16~19付近で遺物が集中して出土したが住居跡等は確認できなかった。このDA-19グリッドから集中して出土した土器は1/2個体分位の復元が可能であった。（No119）は、羽状縄文を施した黒浜式土器と思われる。

DA-17~20グリッド付近に土器と石器が集中して検出された。また大溝の中からも石斧や石鎌及び土器が出土している。

石器としては石鎌が10点（No100~105・107~110）、石槍1点（No106）、細石器1点（No111）が出土している。石斧は分銅形石斧4点（No112・115・116、その他1点）、短冊形石斧10点（No113、その他9点）、撥形石斧4点、以上30点が出土している。縄文時代の遺物は9・10・19・20・21調査区に集中する傾向が見られる。

(3) 弥生時代に関する遺構遺物は検出されなかった。

(4) 古墳時代の土師器と須恵器は出土しているが遺構は確認されなかった。

(5) 奈良・平安時代（住居跡以外の遺物について）

土師器（坏21点、塊2点、甕12点）、須恵器（坏4点、塊11点、甕6点）が出土している。これらの土器は溝から出土した遺物は別として各グリッド等から出土したものを見るとAGグリッドとDJグリッドに集中する傾向が見られる。

(6) 中世（内耳塙・焙烙・瓦塔等について）

中世塙・焙烙等に関する遺物が483点出土した。（7調査区217点、8調査区80点、9調査区7点、13調査区51点、17調査区6点、20調査区22点、26調査区100点）

「かみつけの里博物館第6回特別展鍋について考える」講師 木津博明氏の資料によれば、鉄の需要が急激に伸び、南北朝～室町時代初期と言う時代背景上、武器への転用がなされたのか、焼き物の方が安価で供給でき、需要側も価格の安いものを入手したのか、理由は明らかでないが材質が転換されたことは事実である。「材質転換現象」が起きたことは、社会全体の背景の結果として起きる。つまり鉄の需要の急増化＝武器生産の急増化が背景にあってのことと考えられる。

今回の調査はローズタウン住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査であり、調査地内の西側を流れている大型溝が調査区内だけで凡そ350m以上ある、その内65m分位について調査した。接合状況を見ても8調査区と26調査区の焙烙の接合があったことからして、未調査区内に埋蔵されている遺物は数倍になることが予測される。内耳塙は「真っ直ぐな体部に「く」の字に開く口が付くことが特徴」と木津氏はしているが本遺跡で出土した内耳塙の破片は口縁部、体部、底部の接合可能なものがないので口縁部の特徴的なもの5点を図示することにした。

焙烙はその口縁と体部が短いので、実測した23個体について底部に対する体～口縁の角度について3分類できた。A直立的なもの（100°以下）、B開いた感じのもの（106°～120°）、Cその中间的なもの（101°～105°）に区分してみると、A 98.5°～100.0°のもの7個体（45、46、47、50、53、58、59）、B 106.0°～117.0°のもの4個体（42、48、49、57）、C 101.0°～105.0°のもの9個体（40、41、43、44、51、52、54、55）に区分された。これらの焙烙の内、内耳が2ヶ所あるもの2点、1ヶ所あるのも9点、脚付2点が確認された。No59の焙烙は浅く口径も小さめで焼成も酸化焰である。

(7) 捜鉢について

ア 18C前～19C前 堺産焼締めのもの3点（76、78、84）

イ 18C前 丹波信楽産と思われるもの 焼締めのもの1点（85）

ウ 18C後～19C 濑戸美濃産の鉄袖 銀袖のもの6点（77、79、80、81、82、83）

エ 近代のもの2点（86、87）

第9表 焼炉計測表 (39~64)

実調No	出 土 位 置	口 徑	底 径	a	b	b/a	体 角 度	実調No	出 土 位 置	口 徑	底 径	a	b	b/a	体 角 度
39	8	(32.0)	(29.0)	5.7	1.5	0.26	104.5	52	7W	(37.4)	(35.6)	5	1.3	0.26	105
40	8	(35.4)	(33.6)	5.5	1.2	0.22	102.5	53	7	(36.0)	(34.8)	5.1	1.1	0.22	102.5
41	7	(34.8)	(32.8)	5.7	1.6	0.28	106	54	26	(31.2)	(30.2)	5.7	0.9	0.16	99
42	7	(34.6)	(33.4)	5.3	1.2	0.23	103	55	26	(36.0)	(34.6)	5.3	1	0.19	101
43	7W	(35.4)	(33.8)	5.5	1.1	0.2	102.5	56	8	(38.2)	(32.0)	5.1	1.2	0.22	100.0
44	26	(35.0)	(34.2)	5	0.7	0.14	98.5	57	7	(27.8)	(25.0)	5.2	1.8	0.35	109
45	7	(37.0)	(36.6)	5.1	0.8	0.16	99	58	8	(37.2)	(36.8)	5.8	0.6	0.1	99.5
46	7W	(36.6)	(36.0)	5.5	0.9	0.16	99	59	8	(20.6)	(19.1)	3.4	1.2	0.35	110
47	8	(35.0)	(31.8)	5	2.1	0.42	112.5	60	7	(36.0)	—	(7.8)	—	—	—
48	8	(45.4)	(41.8)	5.3	2.1	0.4	112	61	7	(34.2)	—	(6.7)	—	—	—
49	19W	(32.4)	(30.8)	5.7	1.5	0.26	105	62	7	(36.0)	—	(7.3)	—	—	—
50	8	(44.8)	(43.2)	5.4	1.2	0.22	103	63	7・8	(37.5)	—	(7.6)	—	—	—
51	7	(35.0)	(34.0)	5.5	0.9	0.16	99.5	64	20W	(30.6)	—	(7.4)	—	—	—

このほか中世遺物として有孔盤形火鉢と思われる破片 (No73・74) と鉢 (No69・72)、片口 (No73) 等が出土している。本遺跡を南北に縦断する溝の南端 (FI-16) グリッドで溝底から瓦塔片 (No88・89) が2点検出された。No88は厚さ1.1~1.2cm、丸瓦表現4.4cm、酸化炎内外面赤色。No89は厚さ1.8~2.1cm、丸瓦表現2.4~2.8cm、酸化炎裏裏赤色。この2点の瓦塔は、厚さ、丸瓦の長さ、赤色方法、表面の調整がNo88は丁寧、No89はやや粗とその特徴には差異があり、別個の物と思われる。丸瓦の縫ぎ目は軒先から2段。二之宮谷地遺跡の筆者は『上西原遺跡』の群馬県瓦塔出土土地分布地名表で58個所を掲載しているが、それに堤沼下遺跡と高崎市飯塚大道東遺跡の2遺跡を追加することにより、群馬県内で瓦塔が確認された遺跡は60個所になる。

(8) 近・現代 (陶磁器)

18C中~18C後 濱戸美濃産の塊類。18C初~19C前 肥前産中塊小瓶。近代染付型紙摺中塊、18C初から近代に至る陶磁器類が見られた。

(9) その他の遺物

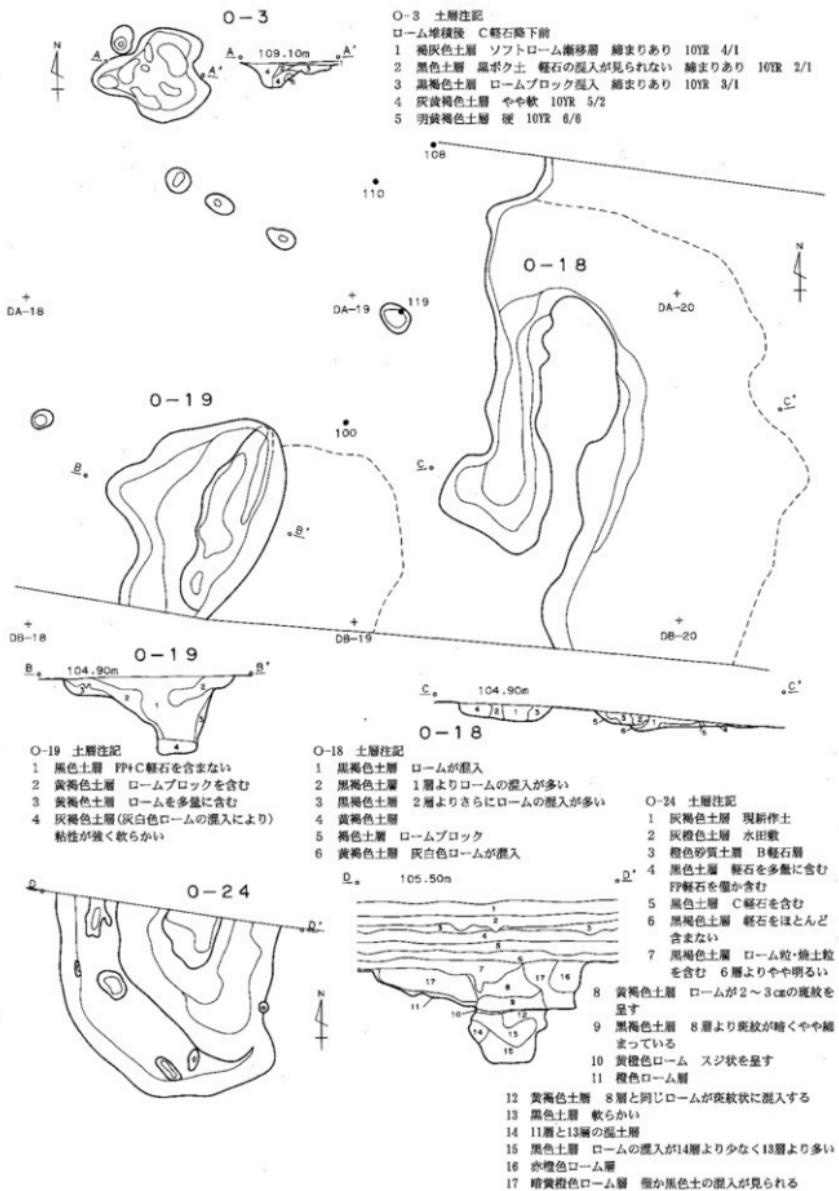
7調査区では土師器坏片朱着色2点、内耳壙記号付4点 (No65・66・67・68)、内耳壙底部穿孔2点。

8調査区では埴輪片1点、内耳壙底部穿孔1点。

19調査区では須恵器高坏片1点等を検出した。

参考文献

- ・上西原遺跡 昭和60年度県営埋蔵文化財発掘調査報告書 1999 群馬県教育委員会
- ・飯塚大道東遺跡 店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1996 高崎市遺跡調査会



第26図 風倒木痕 平面・断面図

VI まとめ

(1) 旧石器時代

○周辺遺跡で旧石器時代の遺物を検出しているので本遺跡でも旧石器時代の可能性が考えられたので調査グリッドを10個所設定し発掘調査を実施したが、ユニットや遺物の検出は確認できなかった。

(2) 繩文時代

○繩文時代の遺構としては繩文土器を伴う土坑が10個所確認された。

○本遺跡で検出された繩文土器は早期・前期・中期・後期の土器が確認されている。その内前期の黒浜式と諸磯式土器が大半を占めている。

○各調査区C・G・I・Jから前期黒浜式土器と諸磯式土器が多く検出されているので居住地域がこのグリッドの周辺に存在する可能性が高いと思われる。

○繩文土器を伴う風倒木痕は3個所検出された。

(3) 弥生・古墳時代

○弥生時代・古墳時代については、遺構は検出されなかった。遺物も小片が僅かであった。

(4) 奈良・平安時代

○7世紀終末と思われる住居が3軒確認された。東と西の丘陵地域には多くの住居跡が確認されているので、未調査地域にも存在する可能性が考えられる。

○竪穴状遺構、掘立柱建物跡もH-2・3と同時期（7世紀終末）の遺構と考えるのが妥当と思われる。

○H-1は南北セクション図北壁が36cmを計測できたことは、もともとの掘り込みはこれ以上あったが土地改良時水田の畦と土手になっているので南半分は削り取られたと考えられる。

○1号住居跡の北側に貯蔵穴のように見えるのは、風倒木痕である。

○住居跡は廃棄のときに道具（土器その他）を持って移動するであろうと思われるのに、H-3では住居の廃棄後、大量の破損した土器を投棄したものと思われる。水性ロームで築いたカマドはその後もしっかりと残り、長い時間をかけて埋没していった。

○本遺跡では人々の生活の中心といえる住居跡は僅かしか検出されなかったが遺物の出土量と土坑・柱穴等の数が多いことから付近にもっと多くの住居跡の存在する可能性が高いことが想像される。

○竪穴状遺構（T-1）は、北西隅が掘り足りない内に構築そのものを中止してしまったか、又は掘立柱建物跡の可能性が考えられる。

○溝からは、原始・古代のもの1/3、中世のもの1/3、近・現代のもの1/3の割合で混入していた。原始・古代のものは繩文土器、石器、土師器、須恵器等が含まれており、中世では内耳壙、熔炉、瓦質陶器と瓦塔2片を検出した。近・現代のものはビニールもあれば、陶・磁器が豊富な機種を含んで出土している。

○本遺跡で検出された土坑は遺物があつても破片が数点出土するだけであった。土坑の数は283基でD区に集中している。柱穴もD区に集中する傾向が見られる。

(5) 平安時代の水田跡

○水田跡はプラントオパール分析の結果からすると浅間Bテフラ(As-B 1108年)直下層では少量ながら稻が検出され同層で稻作が行われていたことが分析的に検証された。

○泥流堆積物の下層からも稻作が行われていたことが認められた。

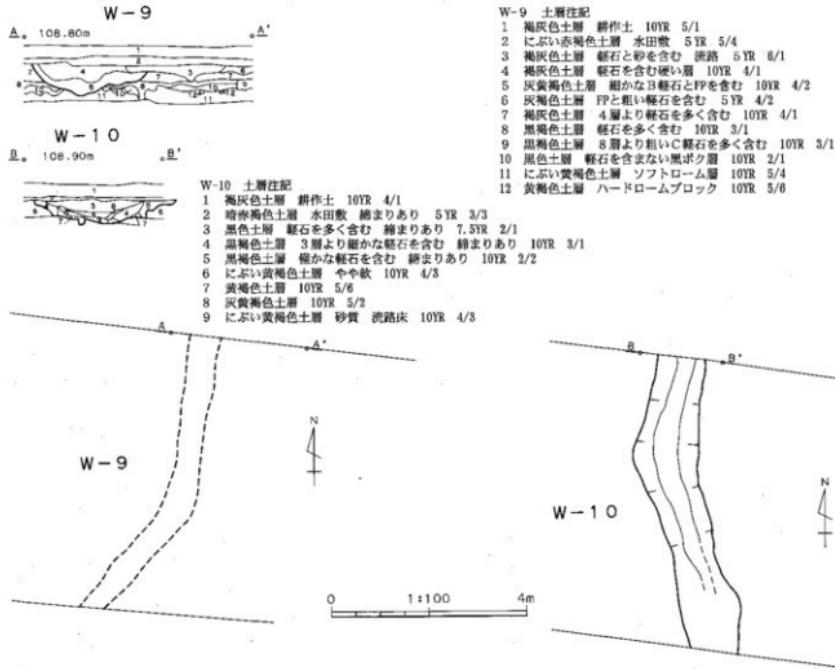
(6) 中世以降の遺構・遺物

○中世の遺構は確認されなかつたが、調査地の西端を流れている溝（W-11・12・13）から内耳壙、熔炉、瓦塔、火鉢、擂鉢、瓦質陶器等の遺物が多量に検出された。出土状況はビニールと同時に出土しているので、そ

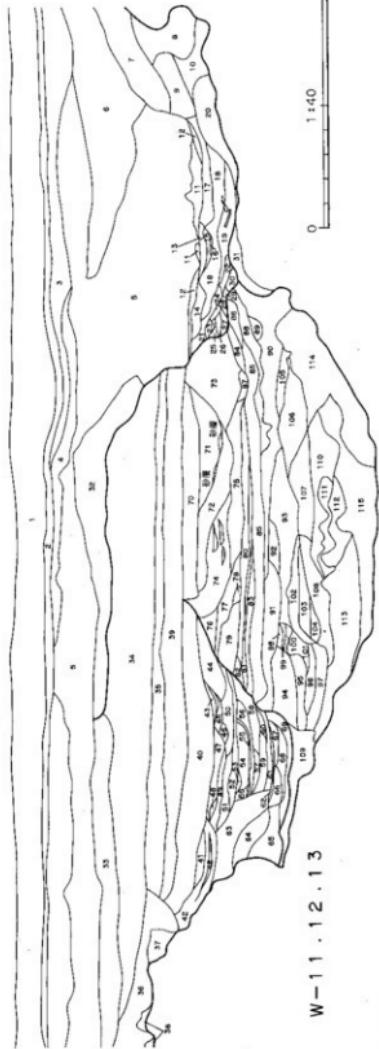
の大半の遺物が現代になって堆積したものと思われる。これらの遺物から堤沼下遺跡の上流のどこかに住居跡・館址・寺院址等の存在する可能性が高いと思われる。

○瓦片塔の検出は「上西原遺跡」で58個所が掲載されている。本遺跡と高崎市の「飯塚大道東遺跡Ⅰ」を加え群馬県内で60例目になる。

○井戸跡（I-5）からは縄文土器や土師器、須恵器等の遺物の検出があった。これは井戸を埋め戻すときその付近の遺物が混入したもので、井戸の使用時期を示すものとは思われない。



第27図 溝9・10 平面・断面図

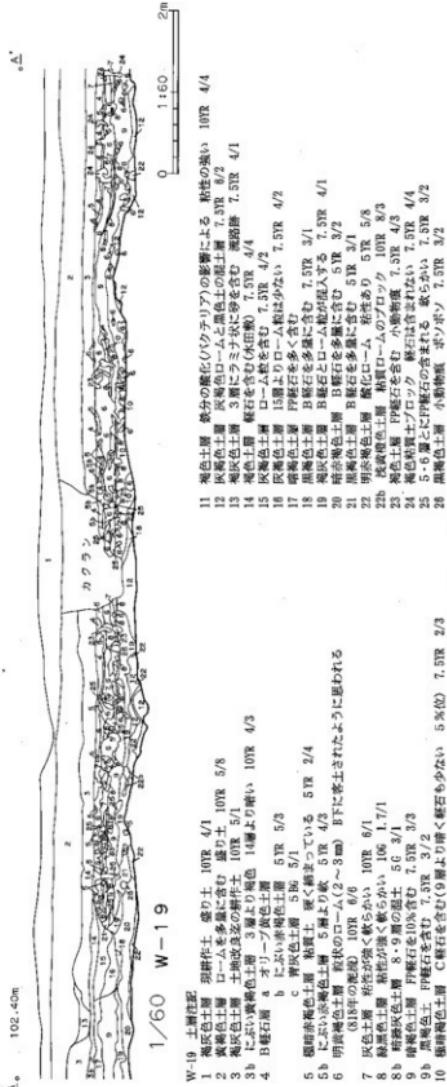


W-11, 12, 13 土層記

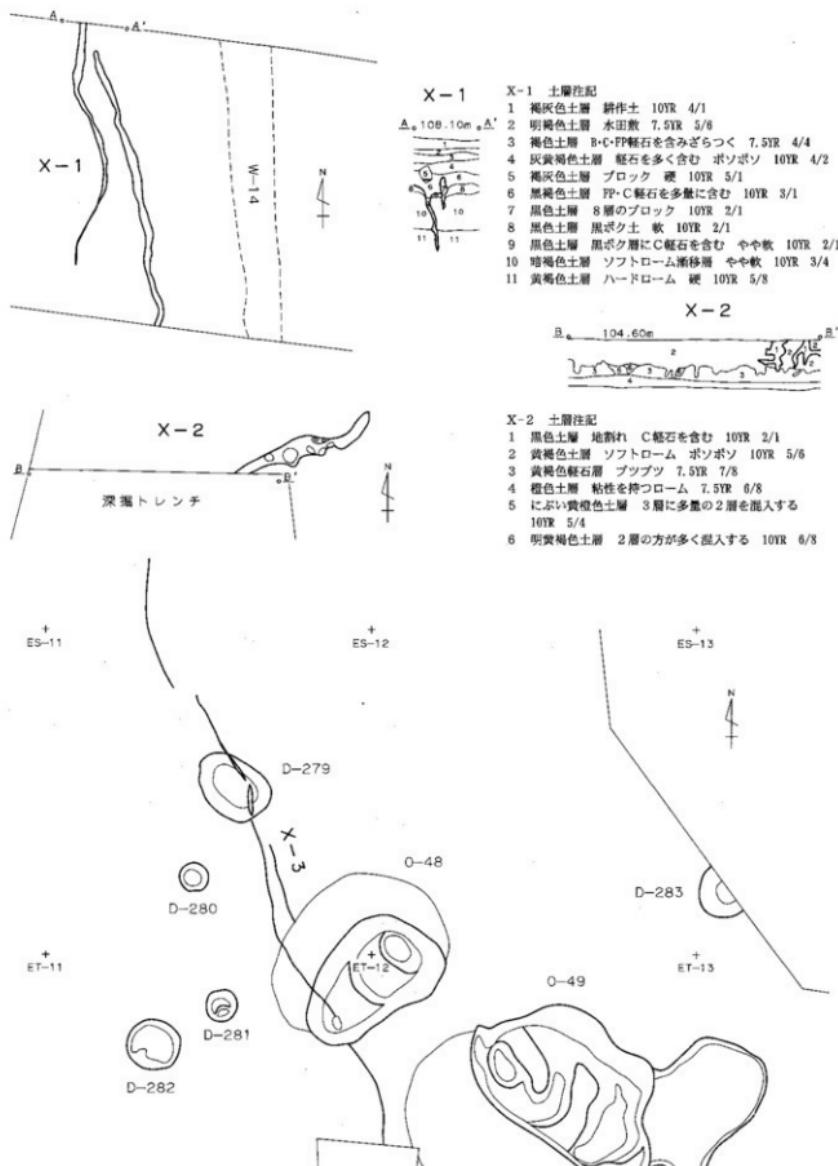
1. 植生色土層 剥離土、10YR 5/1
2. 明瞭色土層 水田敷 ロームブロック混入、5YR 5/6
3. にぶい黄褐色土層 ハードローム、10YR 6/6
4. 明瞭色土層 ハードローム、5YR 4/3
5. ハードロームに植生色土が10%以下混入、地盤表面を覆す
6. 植生色土層 ロームブロック20%混入、5YR 4/2
7. 植生色土層 ロームブロック5%以下混入、10YR 5/3
8. にぶい黄褐色土層 ソフトロームに植生色土混入、10YR 6/4
9. にぶい黄褐色土層 ローム混入3%混入、10YR 4/2
10. 黄褐色土層 ローム混入2%以下植生色土層が少ない
11. 明瞭色土層 6%に植生色土がロームブロックの混入が少ない
12. 滲潤地帯の第1層 5YR 5/2
13. 黑褐色土層 5YR 3/1
14. 背オーリーブ色土層 砂質土、2.5YR 4/1
15. 明瞭色土層 砂質土、2.5YR 4/2
16. オリーブ色土層 砂質土、5YR 5/1
17. 黑褐色土層 砂質土、5YR 5/1
18. 黑褐色土層 粘土に砂を含む、10YR 3/3
19. 植生色土層 ローム粒・小礫・ガラス・ビニールを含む河床
5YR 2/4
20. 植生色土層 ロームブロック混入、10YR 3/4
21. 植生色土層 ローム粒を含む粘土質土、5YR 4/2
22. にぶい黄褐色土層 ロームに砂が混入したブロック
23. にぶい黄褐色土層 粘土質に砂を多く含む、10YR 3/1
24. 植生色土層 粘土質の粘土質土を含む、10YR 4/1
25. 植生色土層 粘土質
26. 植生色土層 砂質土
27. 植生色土層 砂質土
28. にぶい黄褐色土層 粘土質土に砂質土混入、5YR 4/3
29. 植生色土層 砂質土が粗い、7YR 4/3
30. 植生色土層 砂質土が粗い、7YR 5/6
31. 明瞭色土層 地盤のローム層
32. 植生色土層 ローム層に1%砂を含む
33. 植生色土層 多量のローム粒と少し粗い砂
34. 植生色土層 多量のローム粒と少しごく粗い砂
35. 植生色土層 多量のローム粒と少しごく粗い砂
36. 植生色土層 砂質土にローム粒が少しあない
37. 植生色土層 35%のローム粒と少しごく粗い砂
38. 植生色土層 池山のローム・ドローム層第1層
39. 植生色土層 ローム粒・粘土質土に細かな砂を含む
40. 植生色土層 ローム粒
41. 植生色土層 砂層 普通 10YR 4/3
42. 植生色土層 砂質土に砂を含む 砂質土 10YR 3/2
43. 植生色土層 砂質土普通 4/1
44. にぶい黄褐色土層 砂質土に砂を含む 砂質土 10YR 5/4
45. 植生色土層 砂質土とローム粒の混入 普通 2.5YR 5/2
46. にぶい黄褐色土層 少し細かい砂とローム粒の混入 砂や軟
10YR 5/4
47. 植生色土層 粘土質土と砂のローム粒と砂 10YR 5/2
48. にぶい黄褐色土層 砂質土とローム粒と砂 10YR 5/2
49. 植生色土層 砂質土とローム粒と砂 10YR 5/1
50. 植生色土層 粘土質土とローム粒と砂 10YR 5/1
51. にぶい黄褐色土層 粘土質土に砂を含む 砂質土 10YR 6/4
52. 植生色土層 ローム粒と砂 10YR 6/2
53. 植生色土層 ローム粒を含む 砂質土 7.5TR 4/7
54. 植生色土層 砂質土と少し粗い砂の多量の互層 條まりあり
7.5TR 4/3
55. にぶい黄褐色土層 砂質土と少し粘土質土、砂 10YR 6/3
56. にぶい黄褐色土層 砂質土と少しごく粗い砂 10YR 5/3
57. 植生色土層 砂質土と少しごく粗い砂 5.0TR 4/1
58. にぶい黄褐色土層 粘土質土に細かな砂を含む 砂質土 7.5TR 4/3
59. 植生色土層 砂質土と粘土質土 10YR 5/2
60. 植生色土層 砂質土 10YR 4/1

第26図 海11・12・13 断面図

W-11.12.13 土層記述表
 01 塗灰色土層 砂質土質 やや粘土質 水分大 10TR 5/1
 02 塗灰色土層 砂質土質 ローム粉土 5GR 4/1
 03 塗灰色土層 粘性強い 水分大 10R 5/2
 04 塗灰色土層 粘性強い 水分大 10TR 5/3
 05 塗灰色土層 粘性強い 水分大 10TR 5/4
 06 前オリーブ色土層 砂質 地盤より少ないと判断 10TR 5/5
 07 前オリーブ色土層 砂質 地盤より少ないと判断 10TR 5/6
 08 前オリーブ色土層 砂質 地盤より少ないと判断 10TR 5/7
 09 前オリーブ色土層 砂質 地盤より少ないと判断 10TR 5/8
 10 塗灰色土層 色を含む砂 地盤より少ないと判断 10TR 5/9
 11 塗灰色土層 下部に砂あり 5TR 5/10
 12 塗灰色土層 砂質 5TR 5/11
 13 塗灰色土層 砂質 5TR 5/12
 14 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/13
 15 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/14
 16 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/15
 17 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/16
 18 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/17
 19 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/18
 20 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/19
 21 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/20
 22 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/21
 23 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/22
 24 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/23
 25 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/24
 26 塗灰色土層 地盤より少ないと判断 5TR 5/25

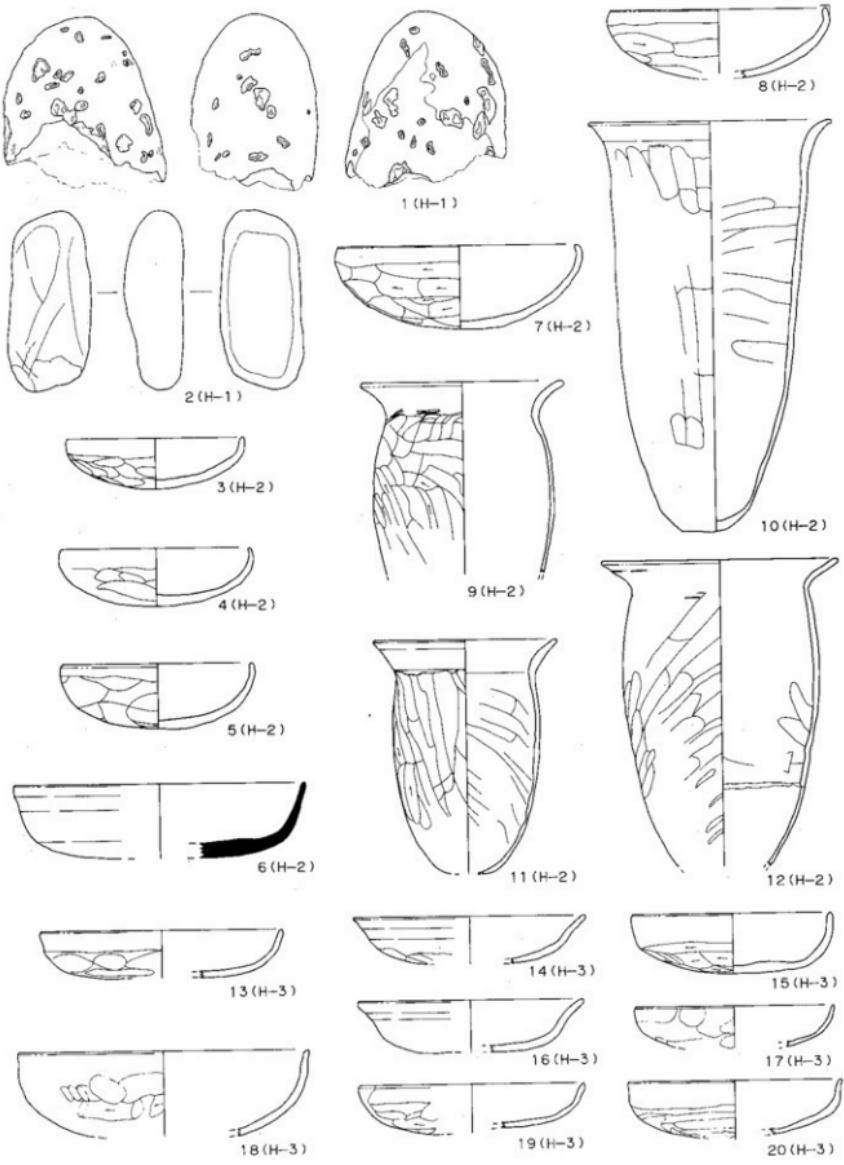






第31図 地割れ X-1・2・3 平面・断面図

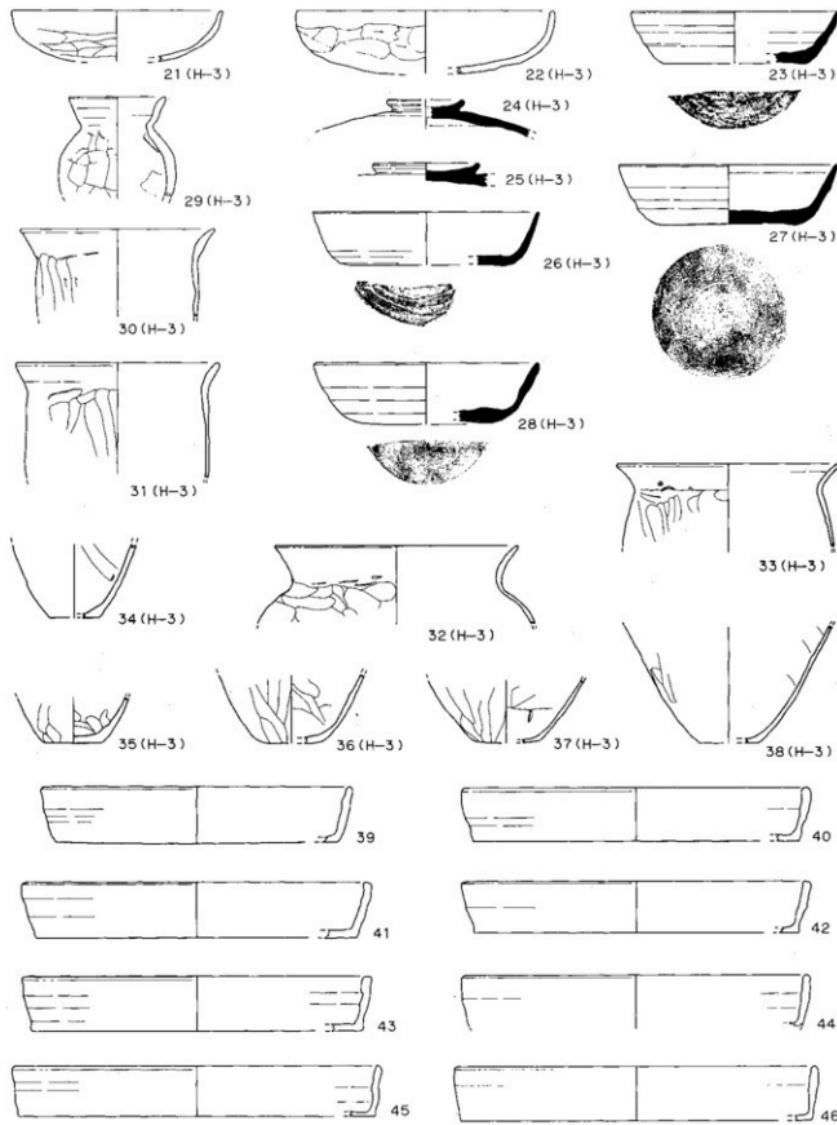
遺物実測図 1



(2.3.4.5.6.7.8.13.14.15.16.17.18.19.20)
0 1:3 10cm

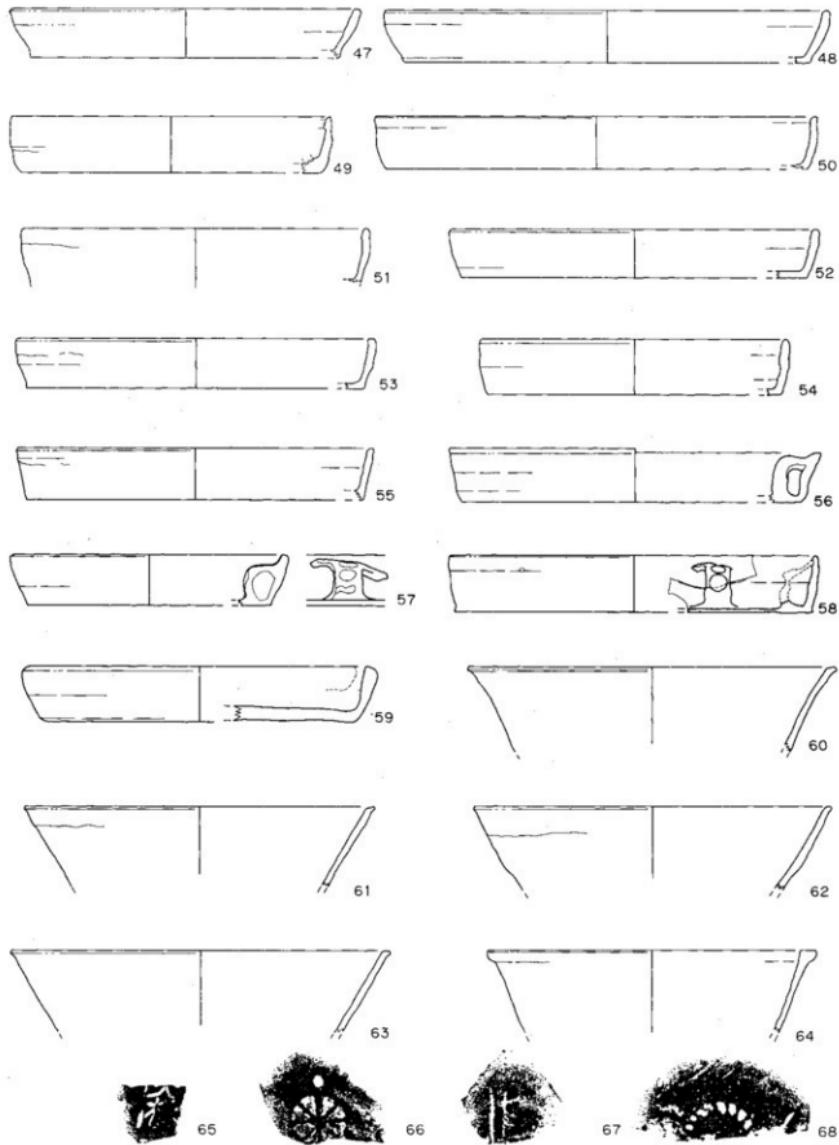
(1.9.10.11.12)
0 1:5 20cm

遺物実測図 2



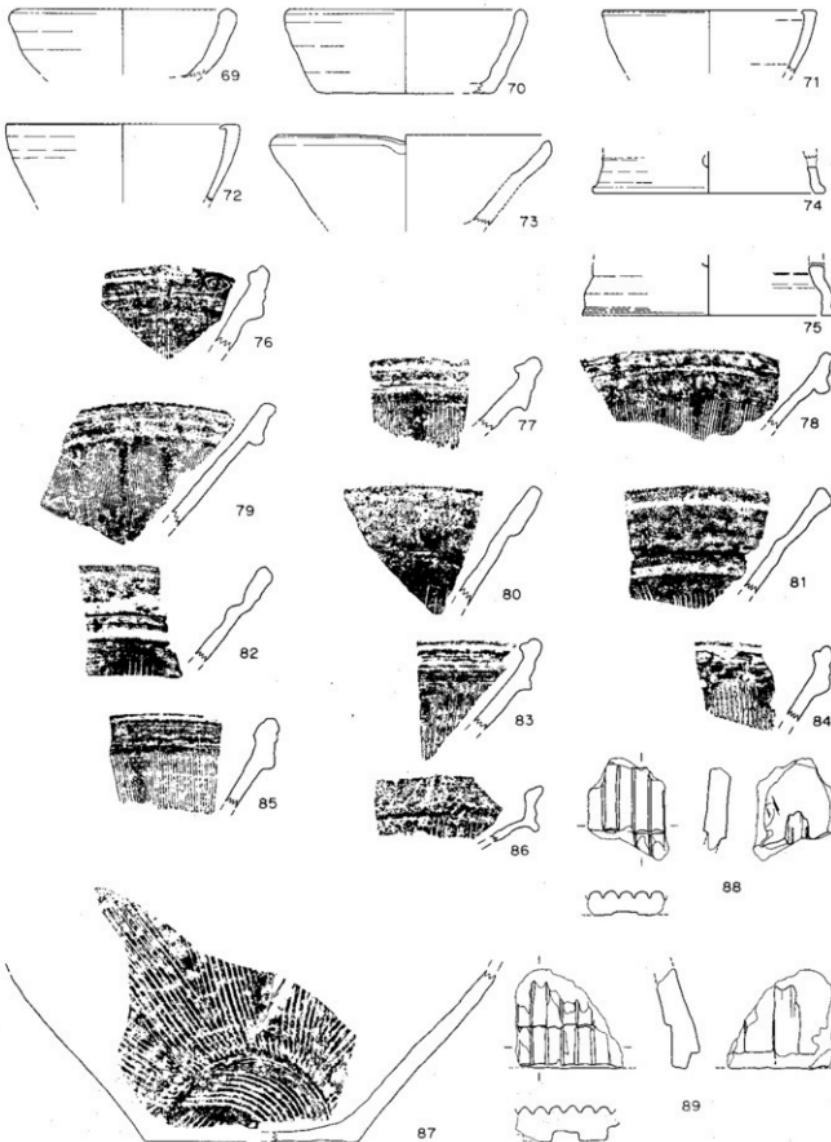
(21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29)
0 1:3 10cm

(30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37.
38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46)
0 1:5 20cm



(47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54.
55. 56. 57. 58. 60. 61. 62. 63. 64.)

遺物実測図 4



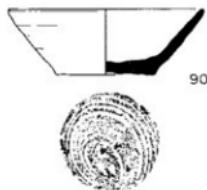
(69-70-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89)

0 1:3 10cm

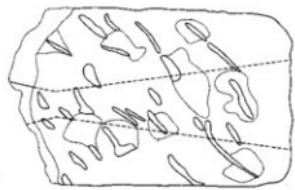
(71-72-73-74-75)

0 1:5 20cm

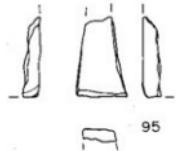
遺物実測図 5



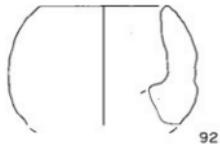
90



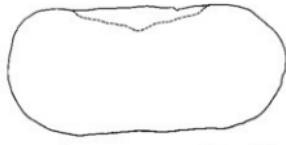
91



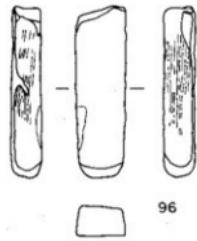
95



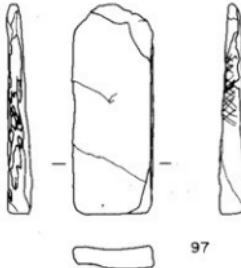
92



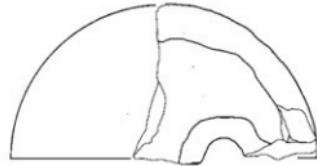
93



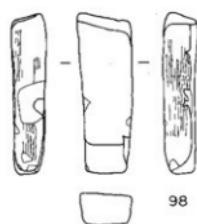
96



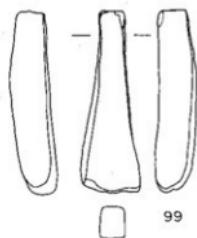
97



94



98

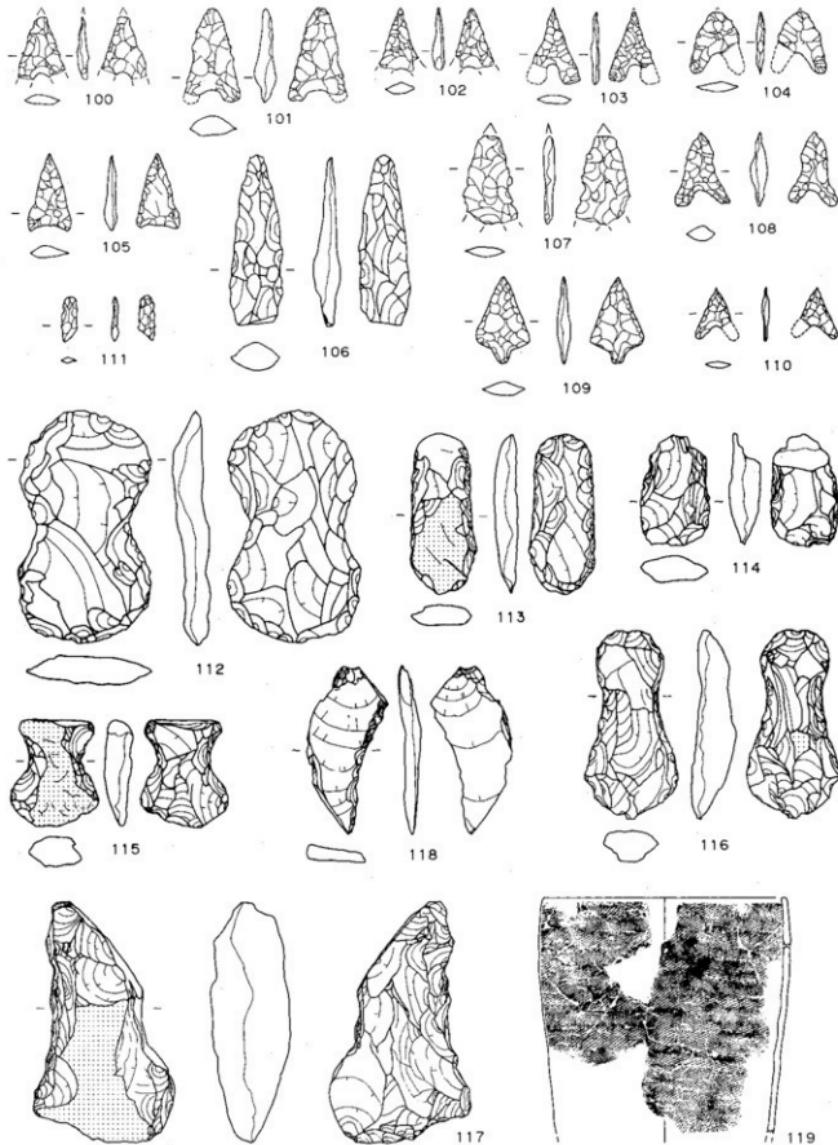


99

(90. 91. 92. 95. 96. 97. 98. 99)
0 1:5 10cm

(93. 94)
0 1:5 20cm

遺物実測図 6



(100.101.102.103.104.105.
106.107.108.109.110.111)

0 2:3 5cm

(112.113.114.115.116.117.118)

0 1:3 10cm

0 (119) 1:5 20cm

遗物拓影图 1

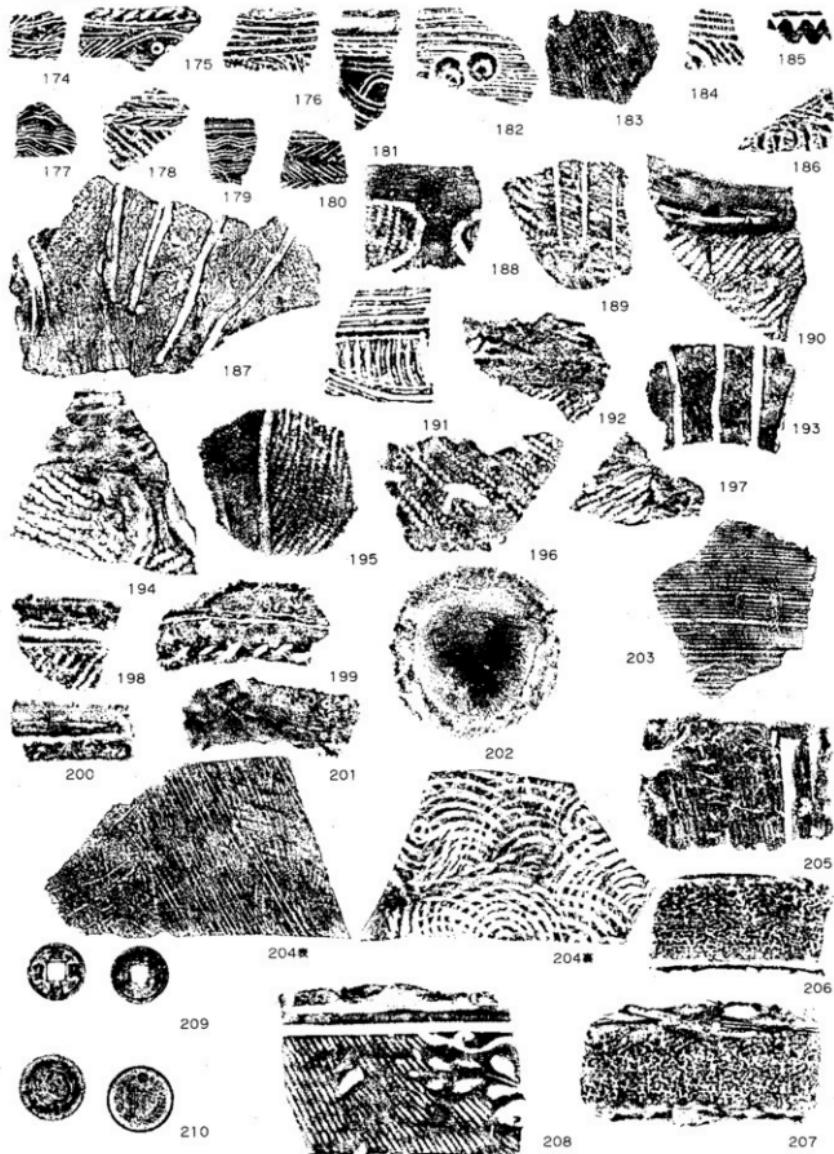


(122~143, 146~155, 157, 164, 166~170) (120, 121, 144, 145, 156, 158~163, 165, 171~173)

0 1:2 5cm

0 1:3 10cm

遺物拓影圖 2



(182, 184, 185, 187~210)
0 5cm
1:2

(174~181, 183, 186)
0 10cm
1:3

写 真 図 版



調査前現況 南東方向



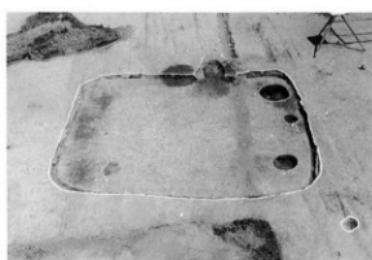
1号住居跡 土層断面



1号住居跡 耽完掘



1号住居跡 遺物出土状況



2号住居跡全景



2号住居跡プラン確認状況



2号住居跡 耽調査状況

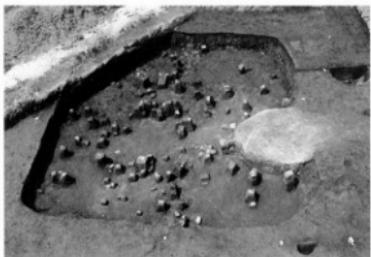


2号住居跡 遺物出土状況No.7-5

堤沼下遺跡写真図版 2



2号住居跡 挖り方



3号住居跡 遺物出土状況



3号住居跡 遺物出土状況No.32



3号住居跡 灶周辺遺物出土状況



3号住居跡と3調査区 土坑群



3号住居跡 灶完掘



3号住居跡 灶構築状況断面



堅穴状遺構と2調査区全景



竪穴状遺構 完掘



1 調査区全景



1 調査区 6・7号土坑



3 調査区 1号溝土層断面



3 調査区 2号溝土層断面



4 調査区全景



5 調査区全景

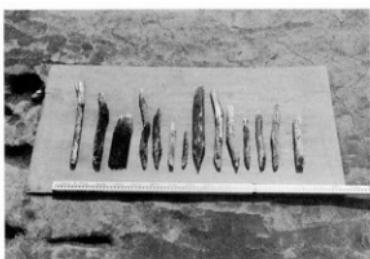


6 調査区全景

堤沼下遺跡写真図版 4



7調査区全景



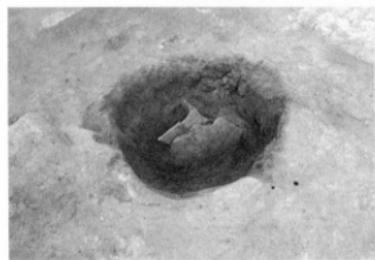
CR-17グリッド付近 出土杭



9調査区 風倒木痕土層断面



9調査区 (DA-16・18) グリッド遺物出土状況



DA-19グリッド遺物出土状況



10調査区10号土坑 完掘



10調査区全景



10調査区FP面 7号溝東壁 土層断面



EC-17-18グ No,202-190遺物出土状況



11調査区 土坑群



11調査区 遺物出土状況No.189



11調査区 遺物出土状況No.102



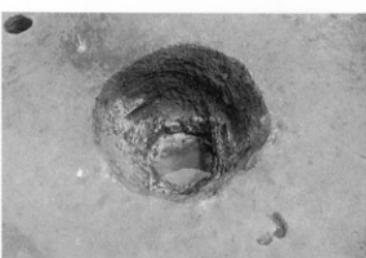
11調査区全景



12調査区EL-17-18グ 井戸集石状況



7号井戸 石白出土状況No.94



22調査区9号井戸 完掘

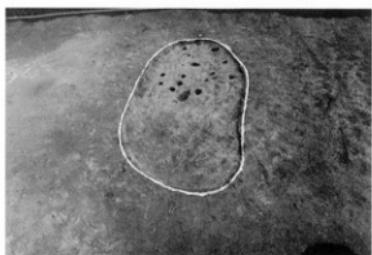
堤沼下遺跡写真図版 6



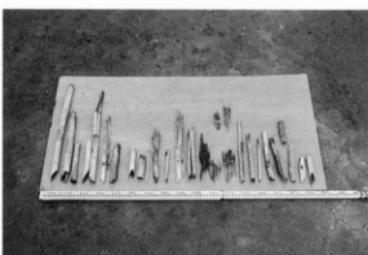
12調査区EK-17・18グリッド 出土杭



12調査区全景



13調査区 風倒木痕52号



13調査区17号溝 出土杭



14調査区全景



16調査区BU-21ヶ付近耕作痕（南側）



18調査区CI・CJ-18ヶ遺物出土状況



18調査区（CN-17P）グリッド集石状況



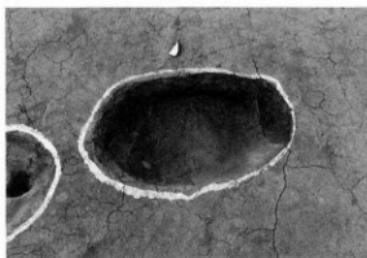
19調査区全景



20調査区DF-13グ地割れ上層断面



170号土坑 土層断面



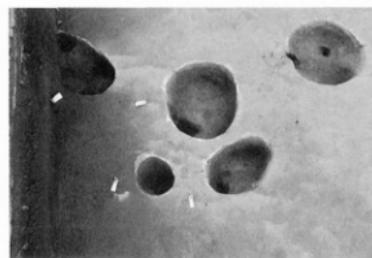
170号土坑 完掘



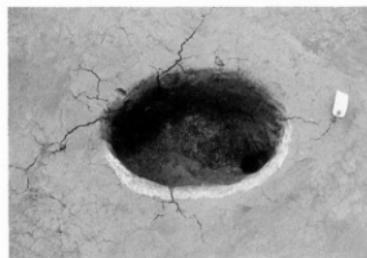
164・163号土坑 完掘



157・156・158号土坑 完掘



132・136・137号土坑 完掘



149号土坑 完掘

堤沼下遺跡写真図版 8



20調査区全景（土坑群）



20調査区（土坑群）



21調査区21号土坑 完掘



21調査区240・241号土坑 完掘



21・22調査区全景（土坑群）



21調査区全景（土坑群）



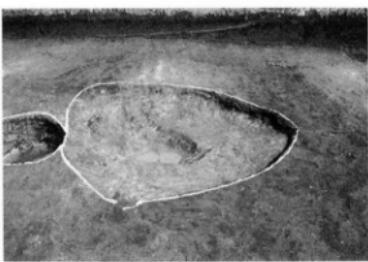
22調査区250号土坑 土層断面



22調査区28～31号風倒木痕



23調査区D-270、O-36、O-35号土坑 完掘



24調査区I-10、O-45号 完掘



24調査区I-11 石出土状況



25調査区 B軽石層面精査状況



24調査区全景



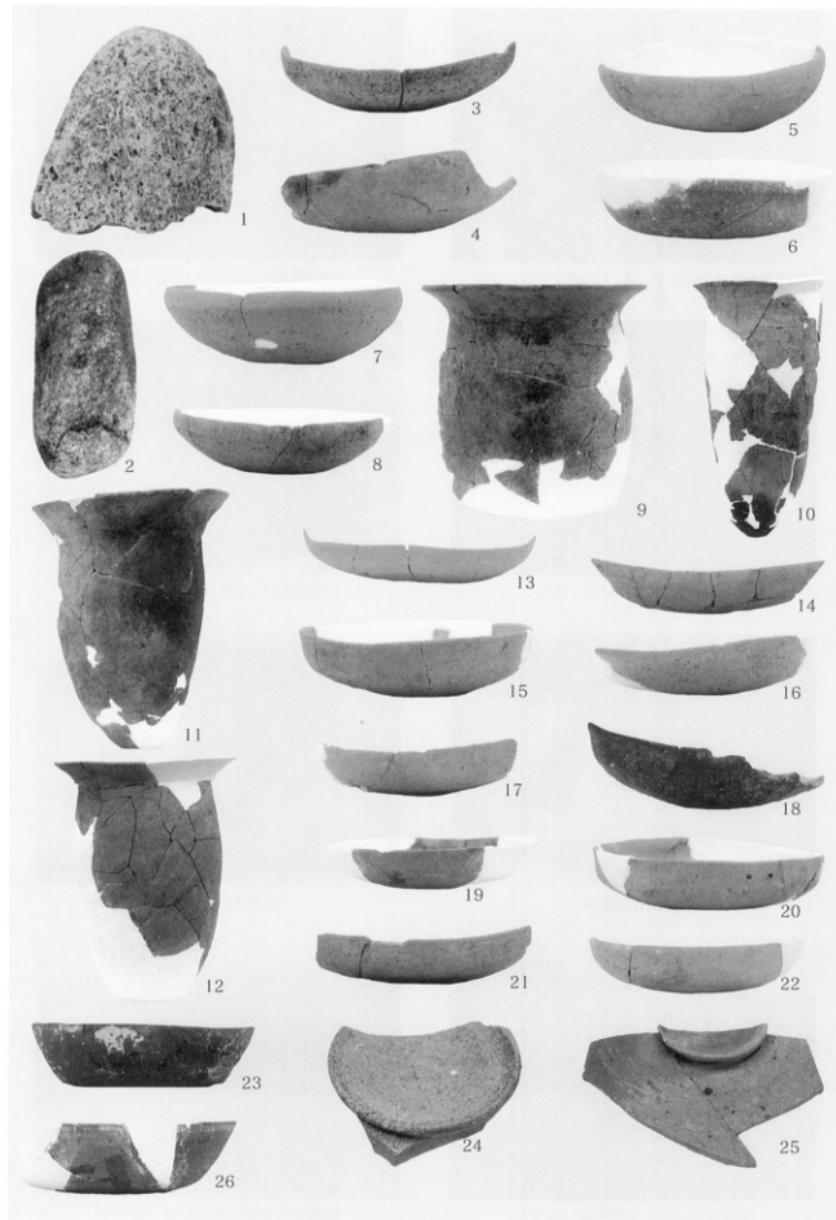
26調査区西側全景

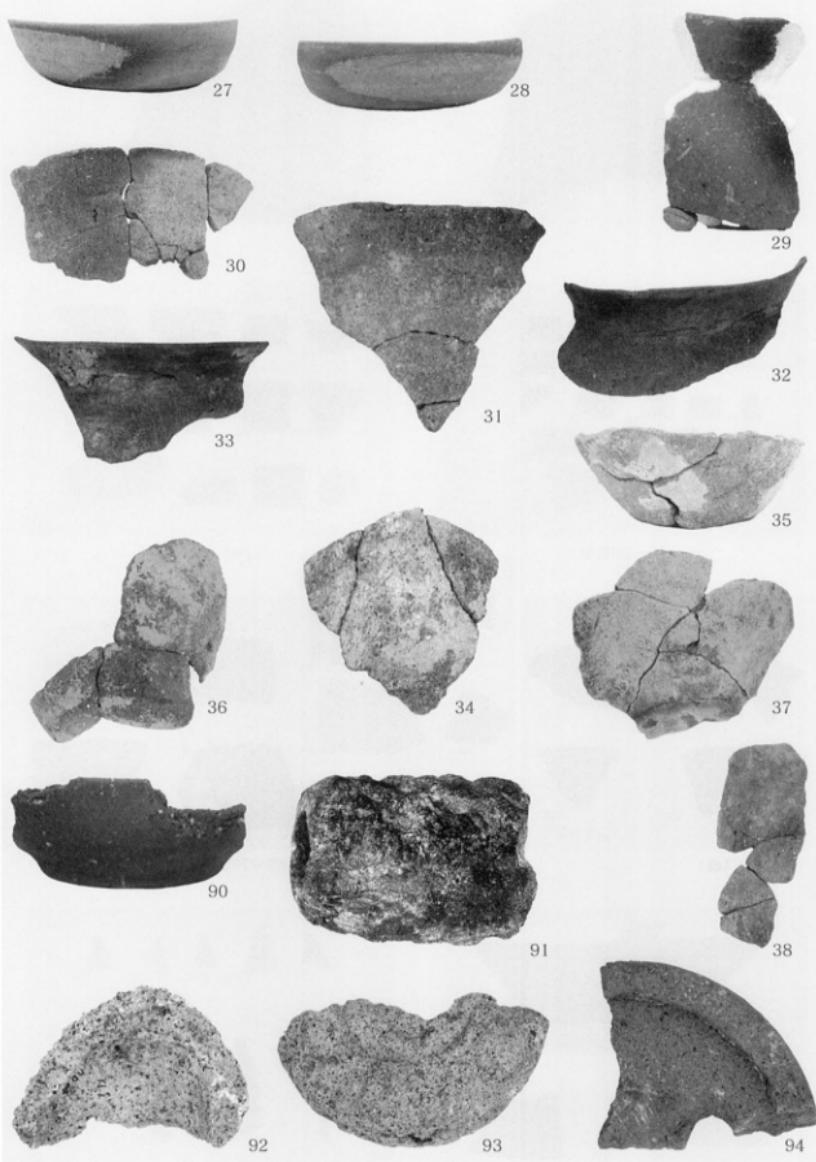


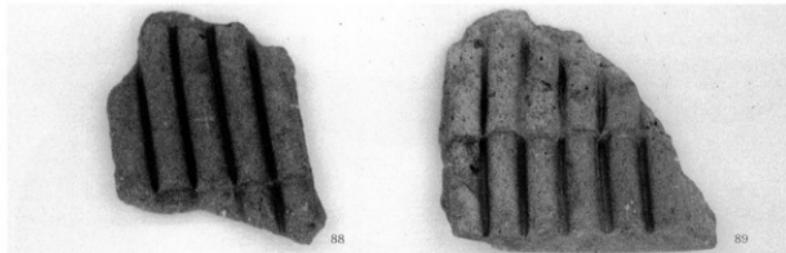
26調査区北壁 土層断面（西寄り）



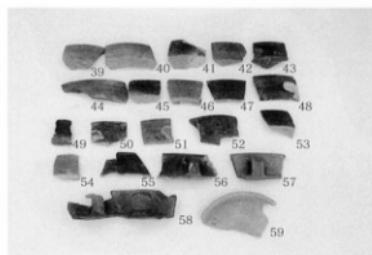
26調査区北壁 土層断面（東寄り）



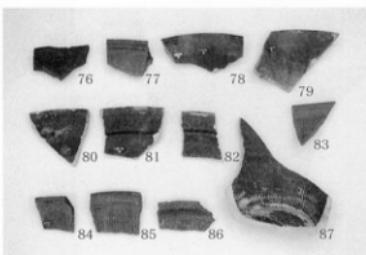




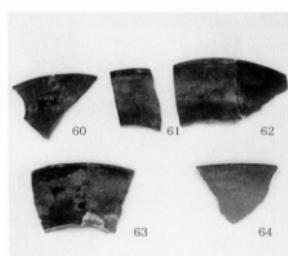
瓦塔



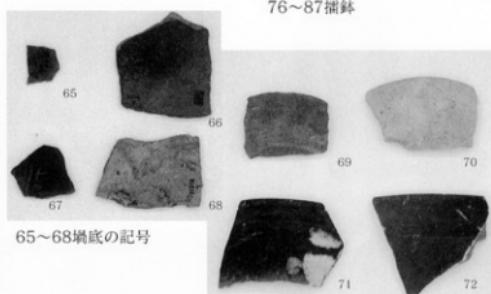
39~59焰烙



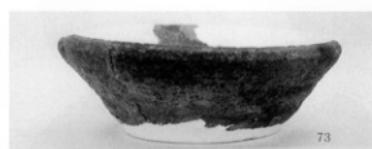
76~87捕鉢



60~64塙



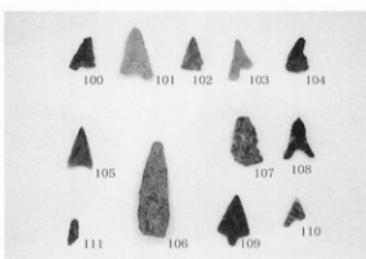
69~72鉢



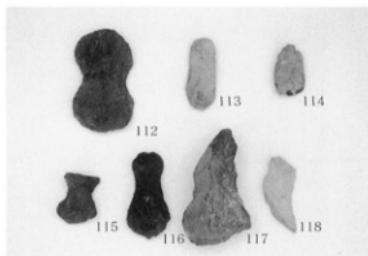
73片口



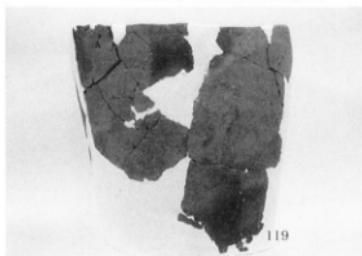
74・75中世軟質陶器



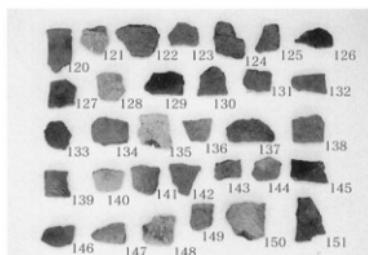
100~111石鏃とその他の石器



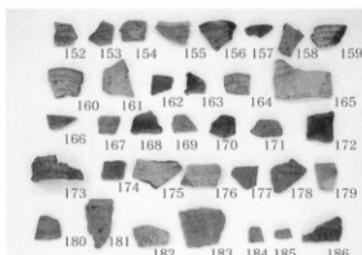
112～118石斧とその他の石器



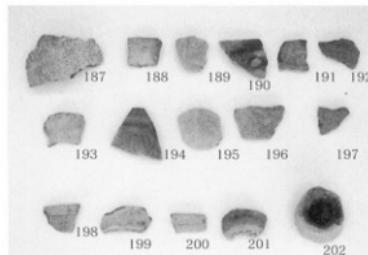
119CY-17、DA-17グリッド出土の土器



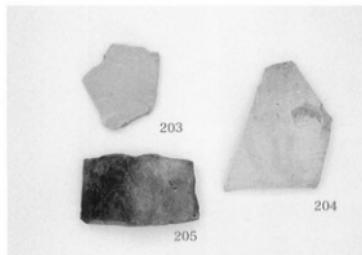
120～151縄文時代前期の土器



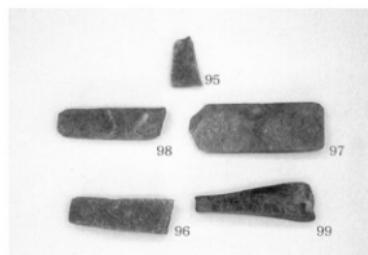
152～186縄文時代前期の土器



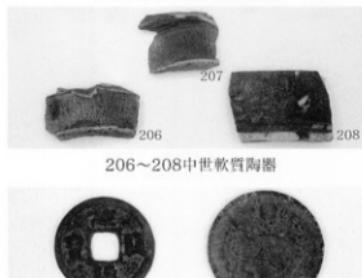
187～202縄文時代中期の土器



203・204須恵器、205瓦



95～99磁石



206～208中世軟質陶器



209・210銭

抄 錄

フリガナ	ツツミスマシタイセキ
書名	堤沼下遺跡
副書名	ローズタウン住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	スナガ環境測設株式会社 金子正人
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2丁目10-2
発行年月日	西暦2000(平成12)年3月20日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
堤沼下遺跡	前橋市堤町8番地他	10201	11D14	36°23'27"	139°08'05"	20000301 20000322	6,000m ²	住宅団地 造成

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主 な 遺 物	特 記 事 項
堤沼下遺跡	集落跡	绳文時代	土坑	283基	绳文土器	
			柱穴	96基	石斧	
			風倒木痕	54基	石錐	
			溝	26条	土師器	
			竪穴住居跡	3軒	須恵器	
			竪穴状遺構	1	中世内耳・堀	
		生産跡	掘立柱建物跡	1棟	瓦塔	
			井戸	12基	近・現陶磁器	
			B縁石下水田跡			
			地割れ跡	3ヶ所		

ローズタウン遺跡群 堤沼下遺跡

平成12年3月10日 印刷

平成12年3月20日 発行

発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町2丁目10-2

編 集 スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1

提沼下遺跡正誤表

頁	行	誤	正
表目次		第9表 焼炉計測表	第9表 焼浴計測表
1頁	5行目	2歴史的環境 (第1回周辺遺跡 - 覧表参照)	(参照)を取る
16頁		6、土坑 [第3表(1)~(7)]	6、土坑 [第4表(1)~(7)]
"		7、柱穴 [第4表(1)~(3)]	7、柱穴 [第5表(1)~(3)]
"		8、風倒木痕 [第5表(1)~(2)]	8、風倒木痕 [第6表(1)~(2)]
42頁	34行目	これらの焼炉	これらの焼堀
"	35行目	No.58の焼炉は	No.59の焼堀は
43頁	表題	第9表焼炉計測表	第9表堀浴計測表
"	1行目	有孔盤形火鉢と思われる破片 (No.73・74)	有孔盤形火鉢と思われる破片 (No.74・75)
45頁	29行目	中世では内耳堀、焼炉	中世では内耳堀、堀浴